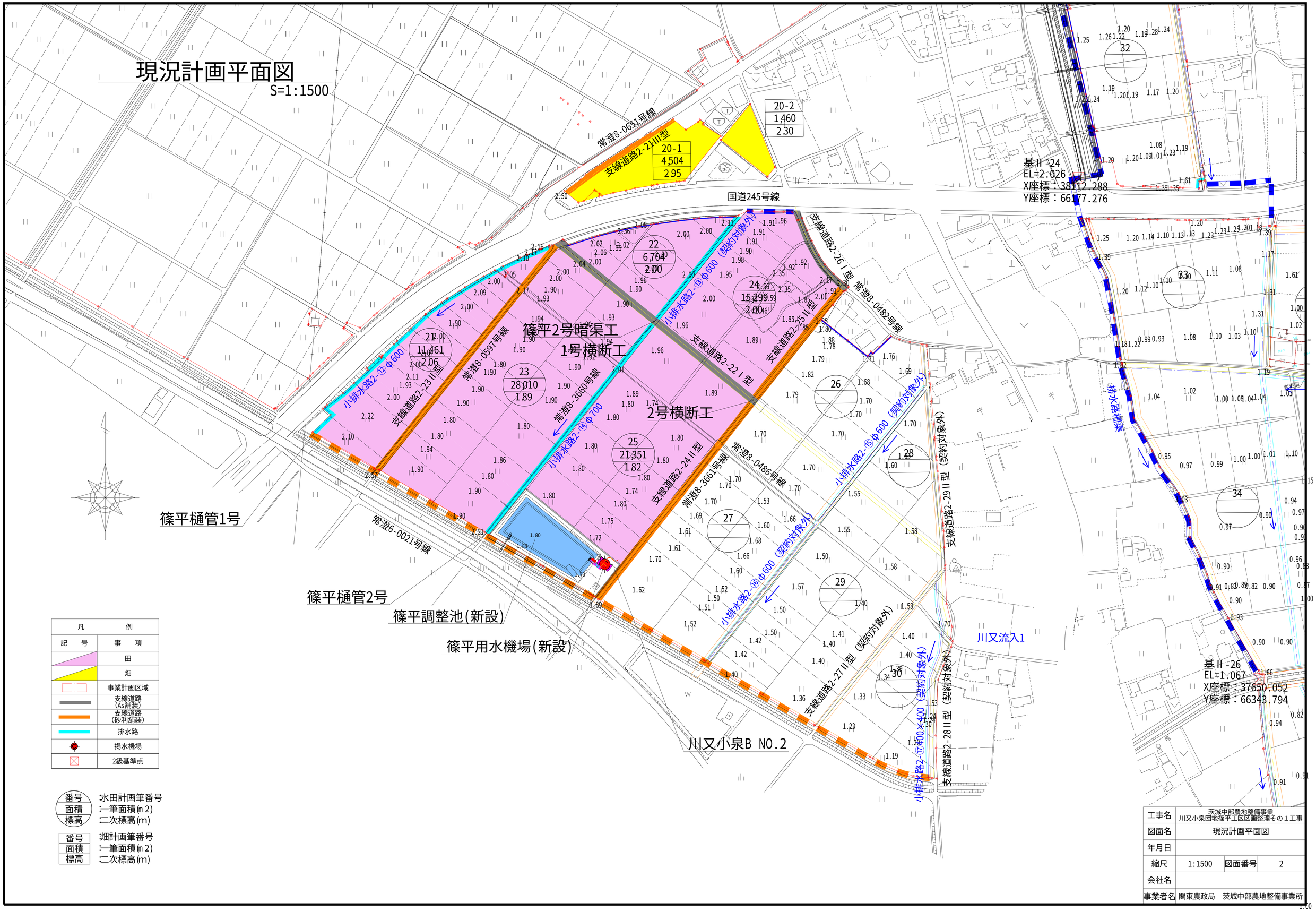
施工位置図

S=1:25000

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	施工位置図		
年月日			
縮尺	1:25000	図面番号	1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

現況計画平面図

S=1:1500



凡	例
記　号	事　項
	田
	畑
	事業計画区域
	支線道路 (As舗装)
	支線道路 (砂利舗装)
	排水路
	揚水機場
	2級基準点

番号 :水田計画筆番号
面積 :一筆面積(m2)
標高 :二次標高(m)

番号 :畑計画筆番号
面積 :一筆面積(m2)
標高 :二次標高(m)

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	現況計画平面図		
年月日			
縮尺	1:1500	図面番号	2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

計画平面図

S=1:1500

凡	例
記　号	事　項
	田
	畑
	事業計画区域
	支線道路（As舗装）
	支線道路（砂利舗装）
	排水路
	揚水機場
	2級基準点

番号　水田計画筆番号
面積　：一筆面積(㎡)
標高　：二次標高(m)

番号	畑計画筆番号
面積	：一筆面積(㎡)
標高	：二次標高(m)

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	計画平面図		
年月日			
縮尺	1:1500	図面番号	3
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

整地工　計画平面図

S=1:1500

表土はぎ済み範囲
A=0.18ha

凡例	
記　号	事　項
	田
	畑
	事業計画区域
	進入路
	落水口
	耕作放棄地

番号　水田計画筆番号
面積　:一筆面積(㎡)
標高　:二次標高(m)

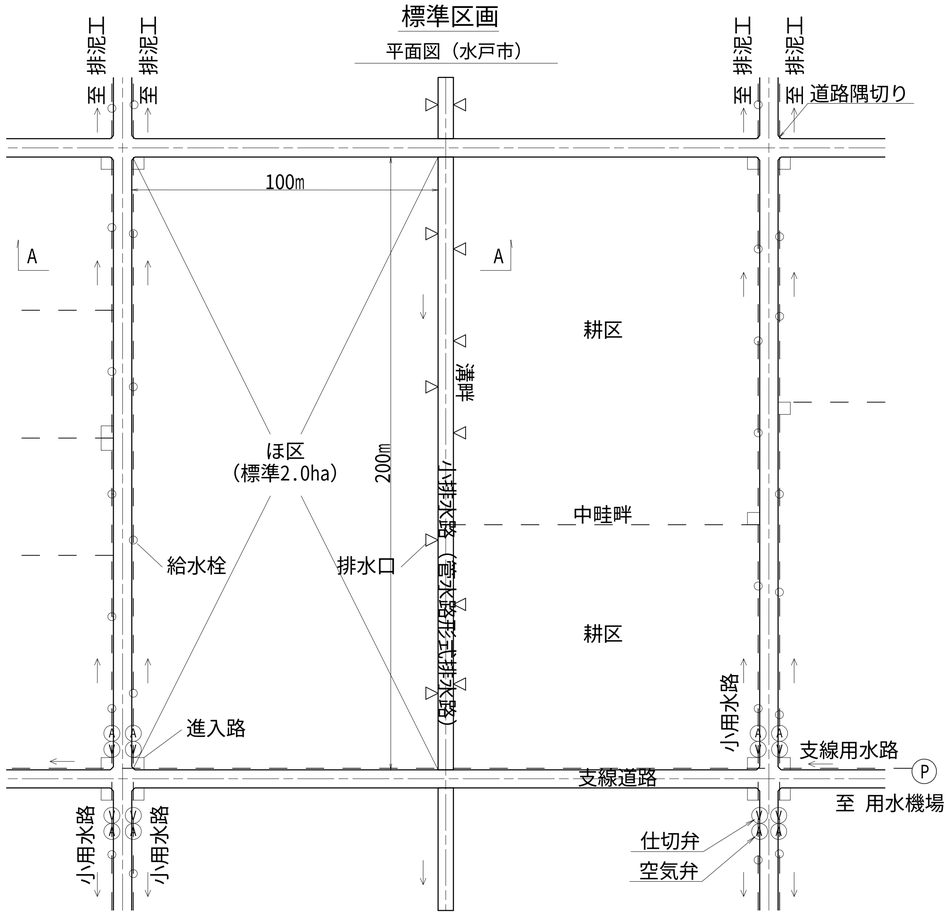
番号	畑計画筆番号
面積	:一筆面積(㎡)
標高	:二次標高(m)

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	整地工　計画平面図		
年月日			
縮尺	1:1500	図面番号	4
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

整地工　標準図

標準区画

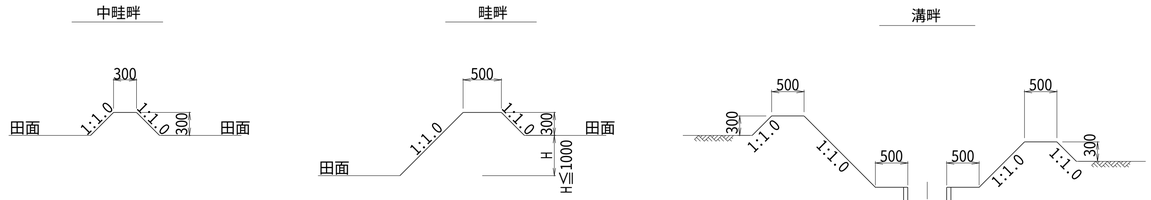
平面図（水戸市）



標準断面図

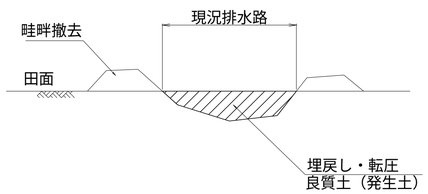
畦畔工標準図

S=1:40



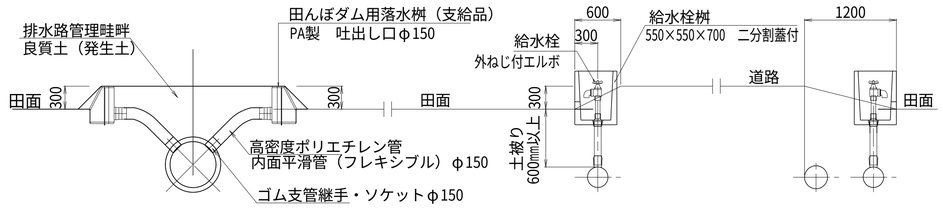
現況排水路埋戻し工標準図

S=1:40



ほ場排水口（水田）標準図

管水路　S=1:40



※吐出口と田面差を15cm程度確保すること。

給水栓標準図

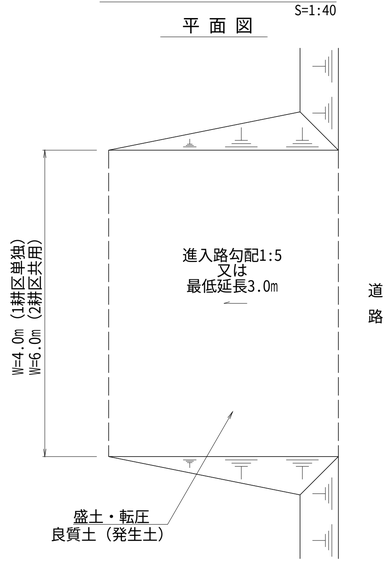
S=1:40

付帯構造物標準設置数

耕区面積	給水栓個数		落水桝	進入路
30a以下	1個	φ25㎜×1個	1個	1箇所
30a～50a以下		φ50㎜×1個		
50a～80a以下	2個	φ50㎜×1個、φ25㎜×1個	2個	
80a～1.0ha以下		φ50㎜×2個		
1.0ha～1.3ha以下	3個	φ50㎜×2個、φ25㎜×1個	3個	2箇所
1.3ha～1.5ha以下		φ50㎜×3個		
1.5ha～1.8ha以下	4個	φ50㎜×3個、φ25㎜×1個	4個	
1.8ha～2.0ha以下		φ50㎜×4個		

進入路工（水田）標準図

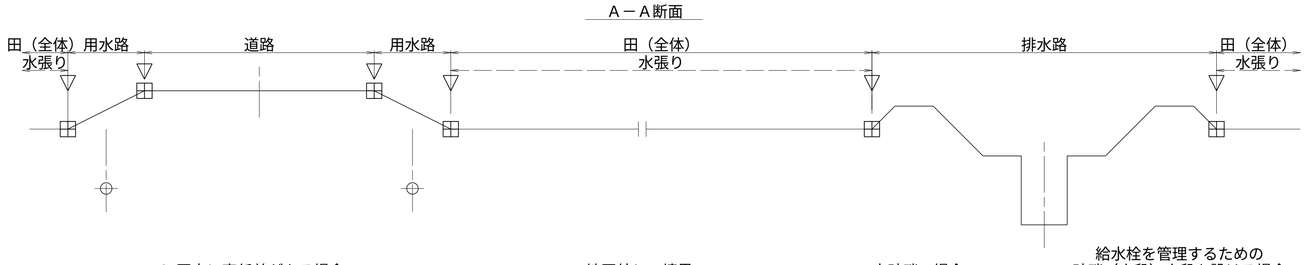
S=1:40

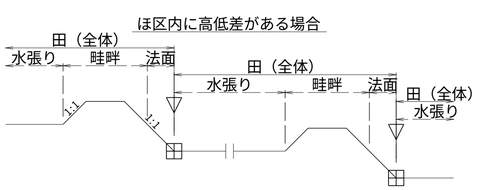


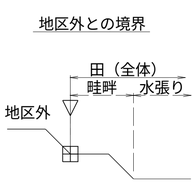
筆界詳細図

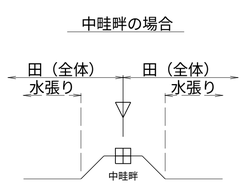
（水戸市）　S=Non Scale

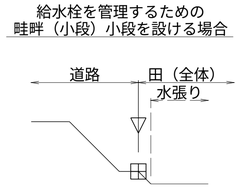
Ａ－Ａ断面

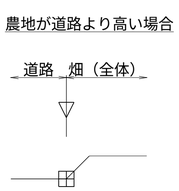












凡例

□	進入路工
▽	排水口
○	給水栓
⊞	境界杭

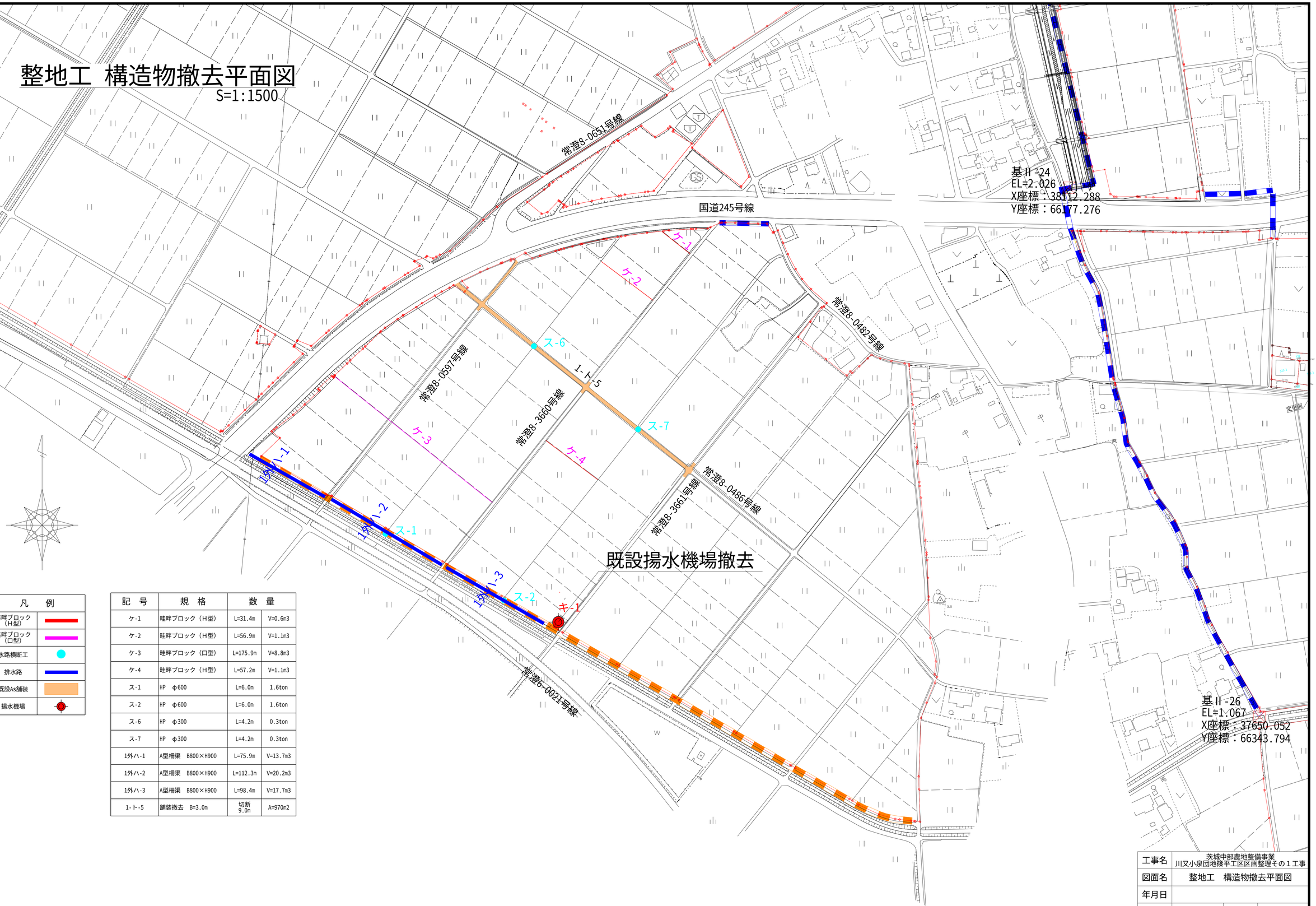
補足事項

1．進入路・給水栓・落水口の詳細位置は、地権者の聞き取りのうえ決定する。
2．標準区画寸法は整備水準値として示したものであり設計値として定めるたものではない。
3．用水管が埋設される法面は、法肩から法尻までを水路用地とする。水路用地幅は、シングル配管の場合は600㎜、ダブル配管の場合は1200㎜を標準とする。
なお、道路と田面の高低差が大きい場合は、法勾配（舗装道路1:1.5、砂利道路1:1.0）が確保できるよう水路用地幅を広げて調整する。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	整地工　標準図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	5
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

整地工　構造物撤去平面図

S=1:1500



凡　例	
畦畔ブロック（H型）	
畦畔ブロック（口型）	
水路横断工	
排水路	
既設As舗装	
揚水機場	

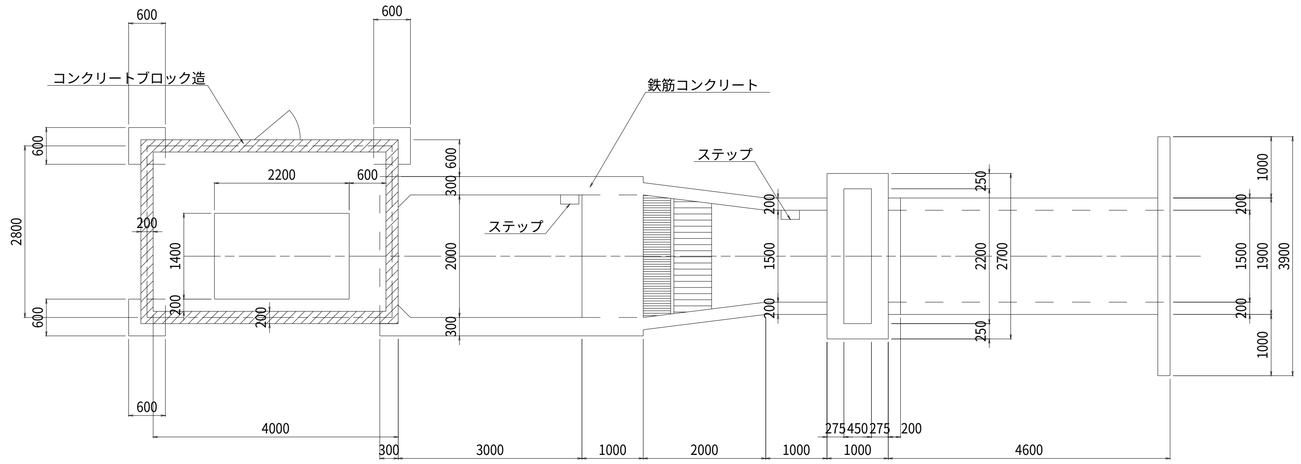
記　号	規　格	数　量	
ケ-1	畦畔ブロック（H型）	L=31.4m	V=0.6m3
ケ-2	畦畔ブロック（H型）	L=56.9m	V=1.1m3
ケ-3	畦畔ブロック（口型）	L=175.9m	V=8.8m3
ケ-4	畦畔ブロック（H型）	L=57.2m	V=1.1m3
ス-1	HP　φ600	L=6.0m	1.6ton
ス-2	HP　φ600	L=6.0m	1.6ton
ス-6	HP　φ300	L=4.2m	0.3ton
ス-7	HP　φ300	L=4.2m	0.3ton
1外ハ-1	A型柵渠　B800×H900	L=75.9m	V=13.7m3
1外ハ-2	A型柵渠　B800×H900	L=112.3m	V=20.2m3
1外ハ-3	A型柵渠　B800×H900	L=98.4m	V=17.7m3
1-ト-5	舗装撤去　B=3.0m	切断 9.0m	A=970m2

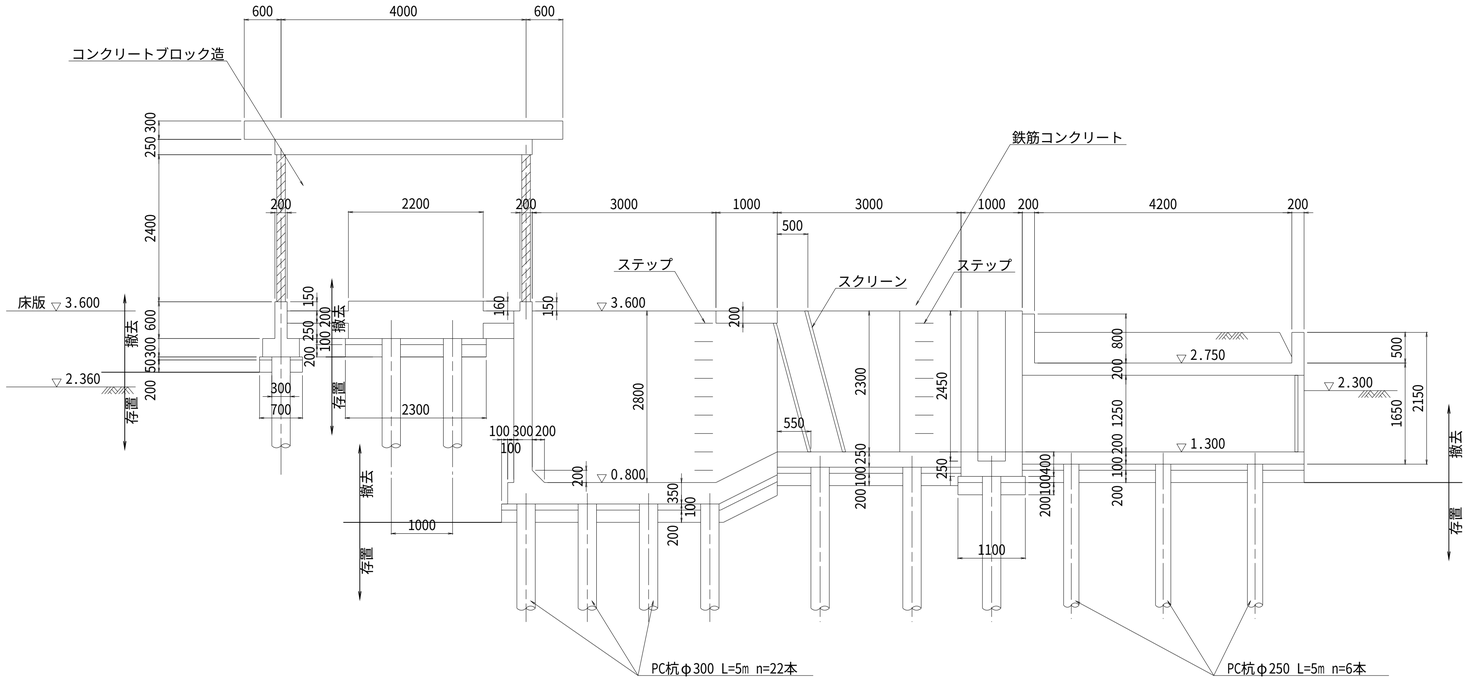
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	整地工　構造物撤去平面図		
年月日			
縮尺	1:1500	図面番号	6
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

整地工　構造物撤去一般図(1)

既設揚水機場一般図

S=1:50





凡　例	
	鉄筋コンクリート
	ブロック

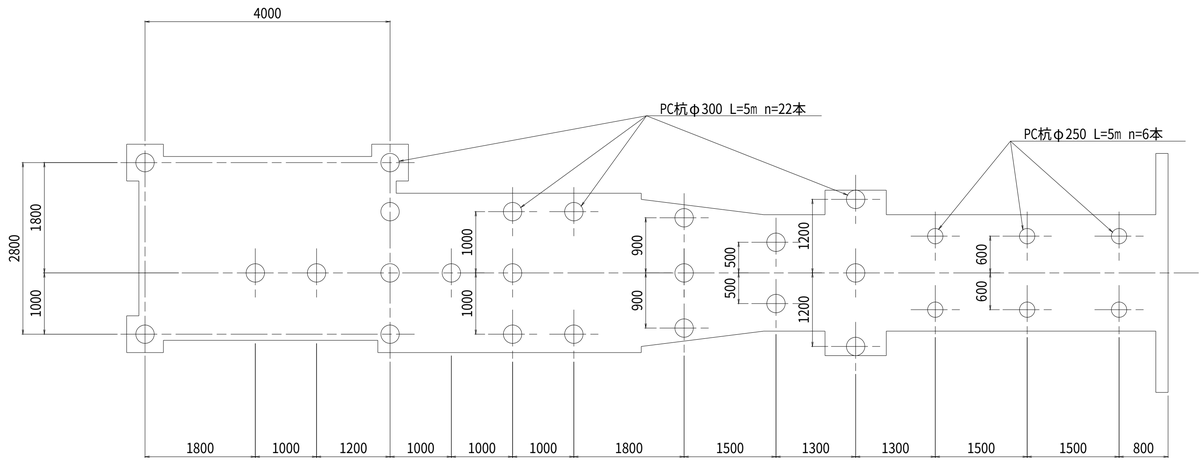
【特記事項】
・基礎杭については、存置（埋殺し）するものとする。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	整地工　構造物撤去一般図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	7-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

整地工　構造物撤去一般図(2)

(参考図)基礎配置図

S=1:50

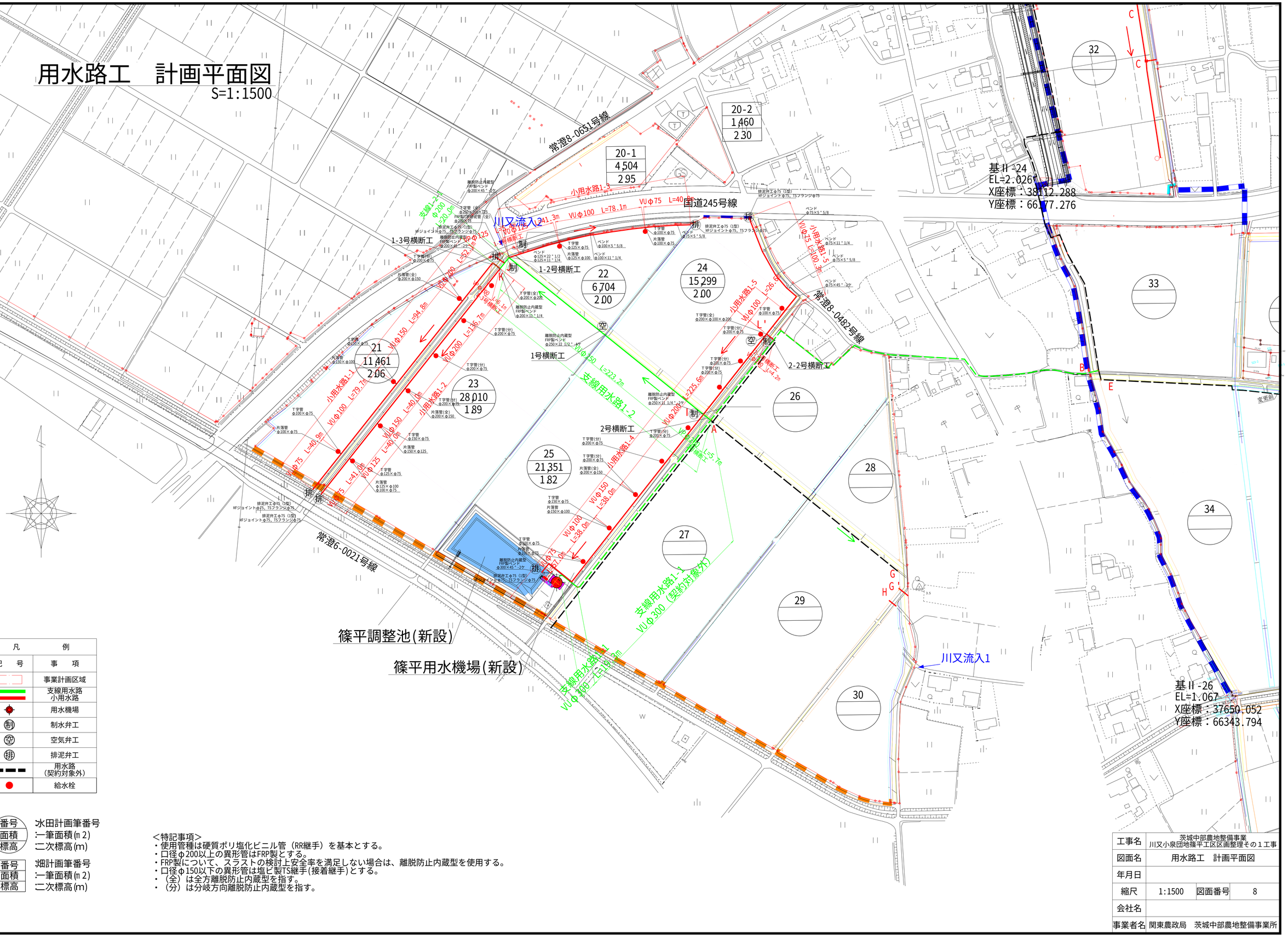


杭径 (mm)	φ300					φ250
杭種及び杭長	PC杭 L=5m					PC杭 L=5m
杭本数 (本)	3	2	9	5	3	6
底版厚 T (mm)	300	610	350	250	250	200
杭頭標高 (m)	+2.850	+3.150	+0.450	+1.050	+0.900	+1.100

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	整地工　構造物撤去一般図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	7-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

用水路工　計画平面図

S=1:1500



凡例	
記号	事項
	事業計画区域
	支線用水路 小用水路
	用水機場
制	制水弁工
空	空気弁工
排	排泥弁工
	用水路 （契約対象外）
	給水栓

番号：水田計画筆番号
面積：一筆面積(㎡)
標高：二次標高(m)

番号：畑計画筆番号
面積：一筆面積(㎡)
標高：二次標高(m)

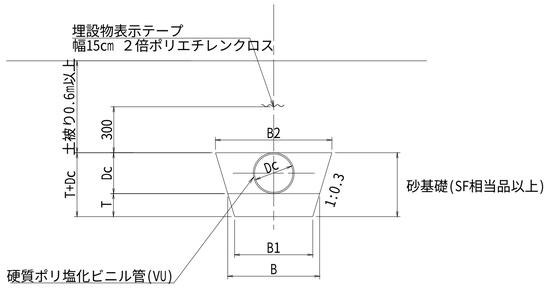
＜特記事項＞
・使用管種は硬質ポリ塩化ビニル管（RR継手）を基本とする。
・口径φ200以上の異形管はFRP製とする。
・FRP製について、スラストの検討上安全率を満足しない場合は、離脱防止内蔵型を使用する。
・口径φ150以下の異形管は塩ビ製TS継手(接着継手)とする。
・（全）は全方離脱防止内蔵型を指す。
・（分）は分岐方向離脱防止内蔵型を指す。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工　計画平面図		
年月日			
縮尺	1:1500	図面番号	8
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

用水路工標準図(1)

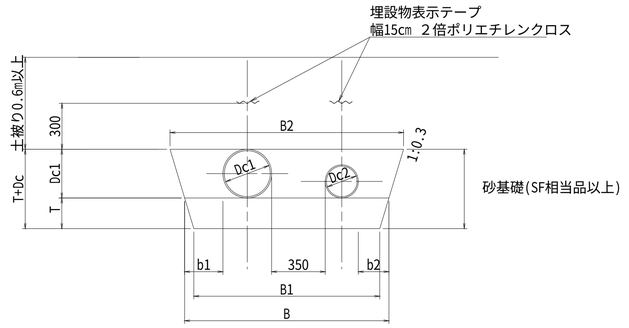
S=1:20

シングル配管
φ300～75



管径	Dc	T	B	B1	B2
φ300	0.318	0.200	0.800	0.680	0.991
φ250	0.267	0.200	0.600	0.480	0.760
φ200	0.216	0.150	0.500	0.410	0.630
φ150	0.165	0.150	0.500	0.410	0.599
φ125	0.140	0.150	0.500	0.410	0.584
φ100	0.114	0.150	0.500	0.410	0.568
φ75	0.089	0.150	0.500	0.410	0.553

ダブル配管



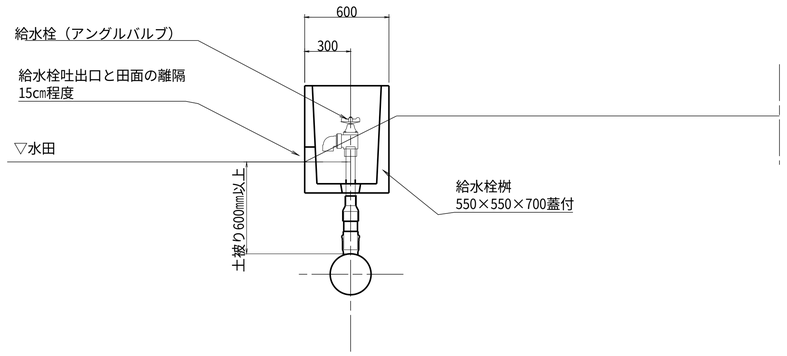
管　径	Dc1	Dc2	b1	b2	間隔	T	B	B1	B2
φ300×φ250	0.318	0.267	0.241	0.167	0.350	0.200	1.343	1.223	1.534
φ300×φ200	0.318	0.216	0.241	0.142	0.350	0.200	1.267	1.147	1.458
φ300×φ150	0.318	0.165	0.241	0.168	0.350	0.200	1.242	1.122	1.433
φ300×φ125	0.318	0.140	0.241	0.180	0.350	0.200	1.229	1.109	1.420
φ300×　φ75	0.318	0.089	0.241	0.206	0.350	0.200	1.204	1.084	1.395
φ250×φ250	0.267	0.267	0.167	0.167	0.350	0.200	1.217	1.097	1.377
φ250×φ200	0.267	0.216	0.167	0.142	0.350	0.200	1.142	1.022	1.302
φ250×φ150	0.267	0.165	0.167	0.168	0.350	0.200	1.116	0.996	1.276
φ250×φ125	0.267	0.140	0.167	0.180	0.350	0.200	1.104	0.984	1.264
φ250×　φ75	0.267	0.089	0.167	0.206	0.350	0.200	1.078	0.958	1.238
φ200×φ200	0.216	0.165	0.142	0.168	0.350	0.150	1.041	0.951	1.171
φ200×φ150	0.216	0.140	0.142	0.180	0.350	0.150	1.028	0.938	1.158
φ200×φ100	0.216	0.114	0.142	0.193	0.350	0.150	1.015	0.925	1.145
φ200×　φ75	0.216	0.089	0.142	0.206	0.350	0.150	1.003	0.913	1.133
φ150×　φ75	0.165	0.089	0.168	0.206	0.350	0.150	0.977	0.887	1.076
φ125×　φ75	0.140	0.089	0.180	0.206	0.350	0.150	0.965	0.875	1.049
φ100×　φ75	0.114	0.089	0.193	0.206	0.350	0.150	0.952	0.862	1.020

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工　標準図		
年月日			
縮尺	1:20	図面番号	9-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

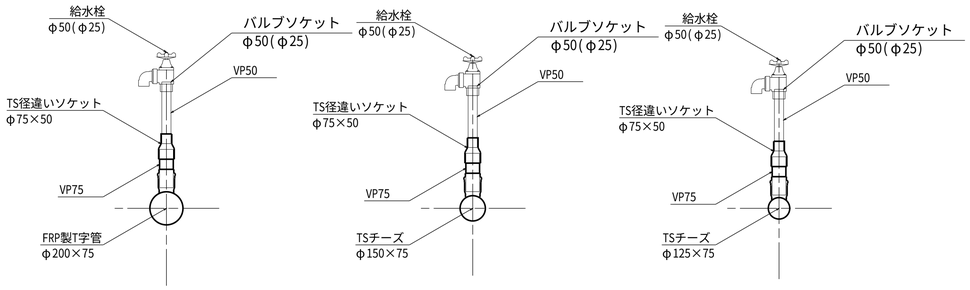
用水路工標準図(2)

給水栓工　標準図

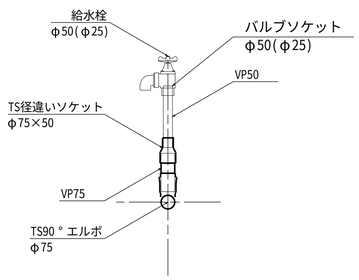
S=1:20

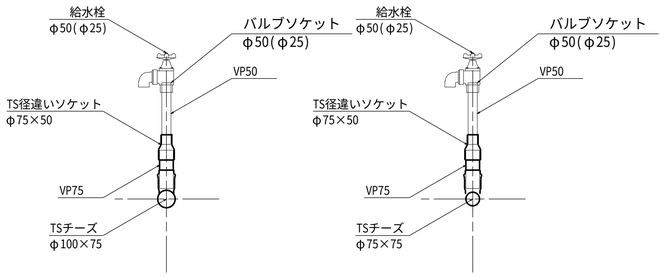


1 型



2 型





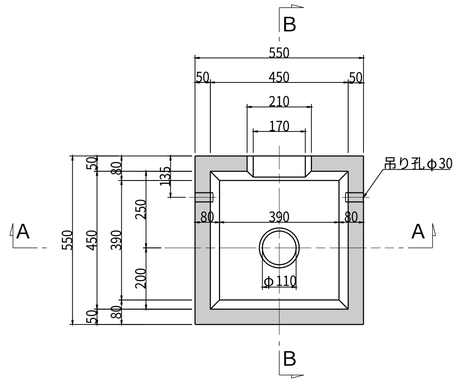
給水栓取付材料表

種　別	小用水路 口　径	FRP製Ｔ字管 250×75	FRP製Ｔ字管 200×75	TS チーズ 150×75	TS チーズ 125×75	TS チーズ 100×75	TS チーズ 75×75	TS90°エルボ	TS径違いソケット 75×50	VP 管 φ50	バルブソケット +アングルバルブ φ50(φ25)
1型	φ200		1						1	0.45	1
	φ150			1					1	0.45	1
	φ125				1				1	0.45	1
	φ100					1			1	0.45	1
	φ75						1		1	0.45	1
2型	φ75							1	1	0.45	1

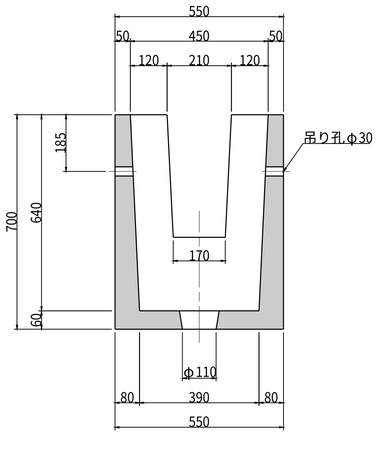
給水栓桝　50Ａ（参考）

本体重量　189kg/個　　S=1:10

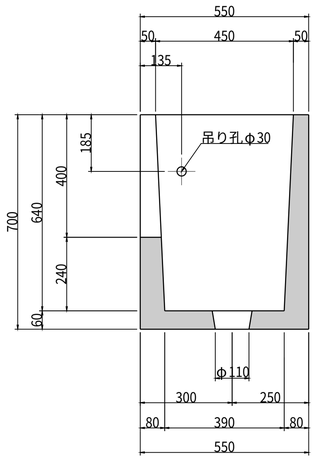
平 面 図



Ａ－Ａ断面図



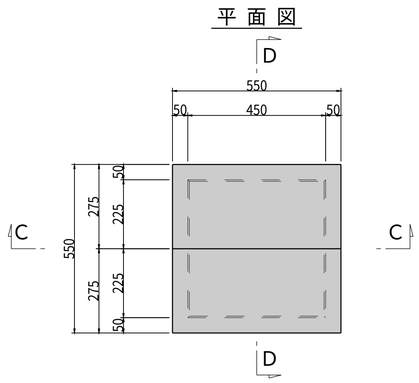
Ｂ－Ｂ断面図



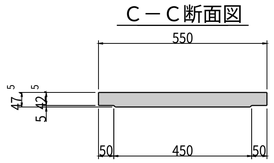
給水栓桝　50Ａ　蓋（参考）

蓋重量　16.5kg/枚　　S=1:10

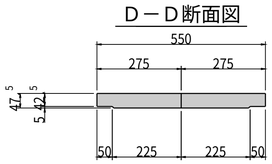
平 面 図



Ｃ－Ｃ断面図



Ｄ－Ｄ断面図



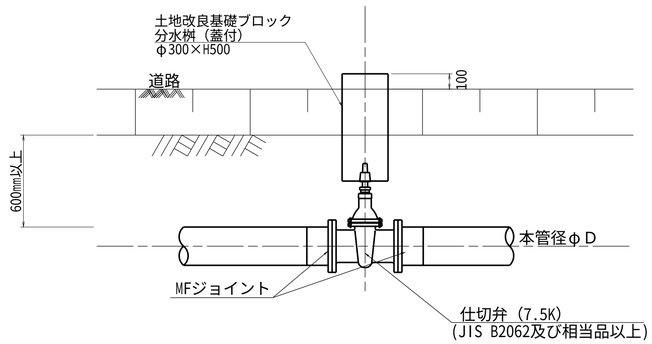
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工標準図		
年月日			
尺　度	-	図面番号	9-2
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工標準図(3)

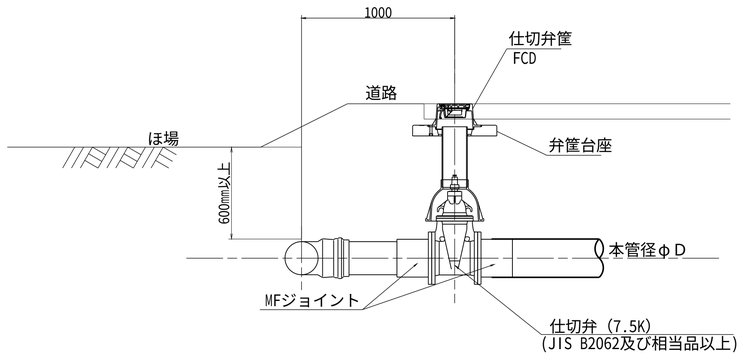
制水弁工

S=1:20

標準図
道路法面



標準図
道路下



工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工　標準図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	9-3
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

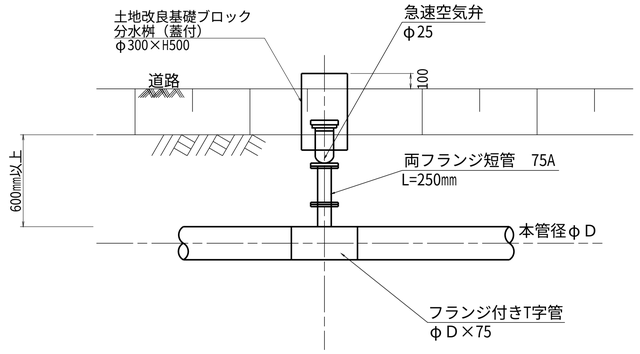
用水路工標準図(4)

空気弁工

S=1:20

1 型

標準図

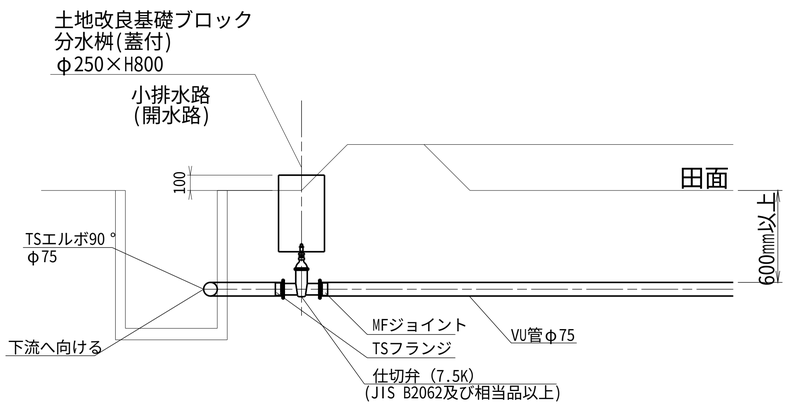


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工　標準図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	9-4
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

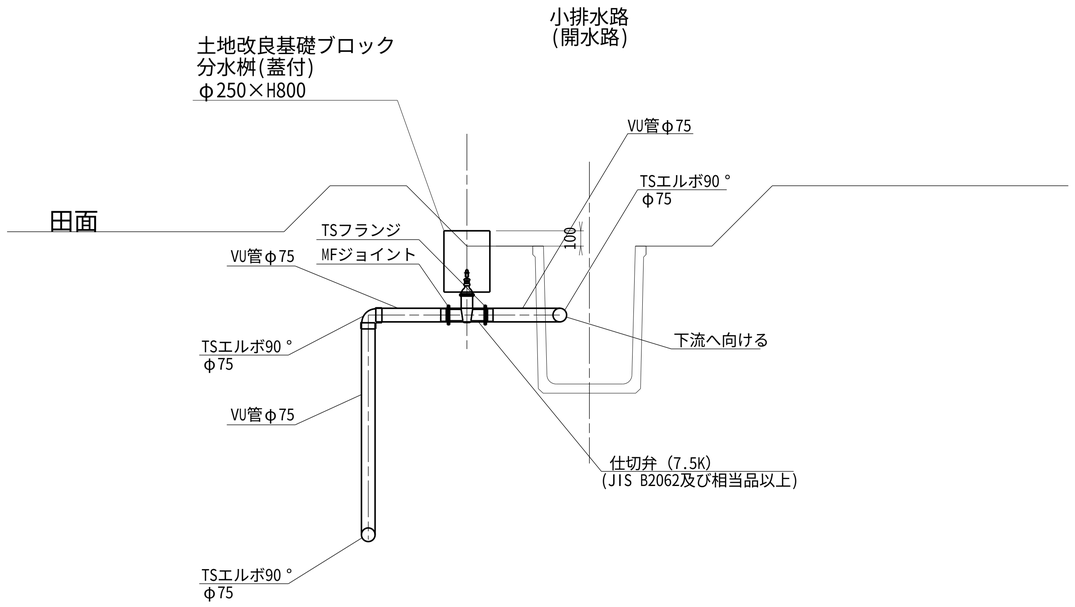
用水路工標準図(5)

排泥工　標準図　S=1:20

1 型



2 型



工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工標準図		
年月日			
尺　度	S=1:20	図面番号	9-5
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工 標準図(6)

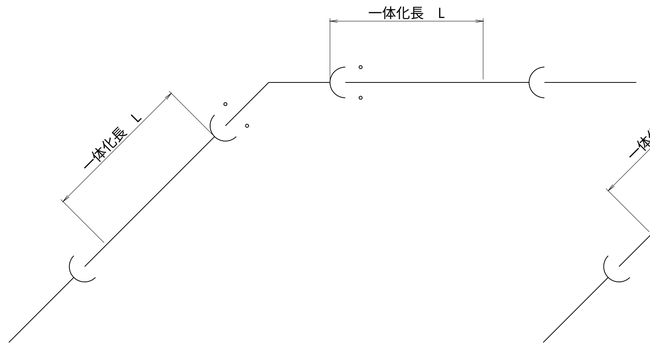
塩ビ管継手配置要領図

用水路工　硬質ポリ塩化ビニル管継手・異形管使用区分表

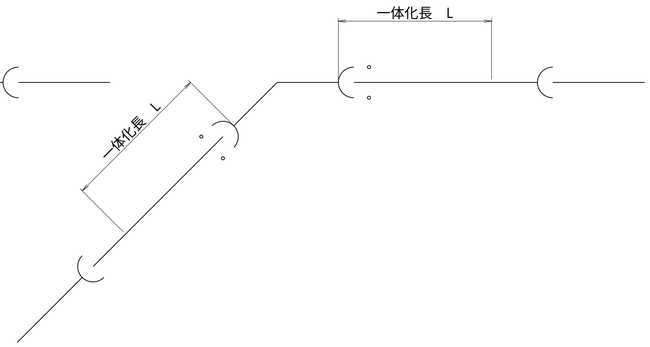
継手		使用箇所	φ500	φ450	φ400	φ350	φ300	φ250	φ200	φ150	φ125	φ100	φ75	備考
管体埋設深		道路	土被り1.2m以上				土被り0.6m以上							
		農地・水路等	土被り0.6m以上											
直管		管水路本体	塩ビ製・VU・ゴム輪継手(RR)											
		給水栓分岐	塩ビ製・VU・ゴム輪継手(RR)										VP･TS継手	
曲管		屈曲部	FRP製･ゴム輪継手･両受･全方離脱防止							塩ビ製･VP･TS継手･両受				
T字管	T字管	管路分岐	FRP製･ゴム輪継手･全方離脱防止							塩ビ製･TSチーズ				
		給水栓分岐	FRP製･ゴム輪継手･分岐方向離脱防止											
	排泥管	排泥工	FRP製･ゴム輪継手･分岐方向離脱防止							塩ビ製･TSチーズ				
	フランジ付	空気弁工	FCD製･メカニカル継手											
斬縮（片落）管		口径変化部	FRP製･ゴム輪継手･全方離脱防止							塩ビ製･TS径違いソケット･VP				
フランジ接合		仕切弁等	内圧：MFジョイント(FCD)／無圧：TSフランジ											
離脱防止対策		スラスト部	離脱防止金具（RR継手用･FCD）											
空気弁		空気弁	急速空気弁(径25㎜･FCD･フランジ接合)											
仕切弁		仕切弁	ソフトシール仕切弁(内ねじ式･FCD)											

曲 管

塩ビ製曲管
（TS又は離脱防止金具設置）



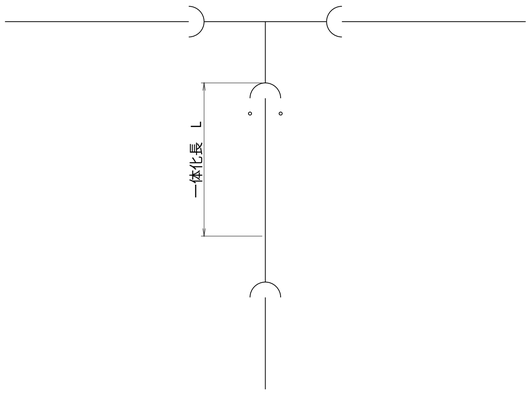
FRP製曲管
（離脱防止金具内蔵型）



曲管必要一体化長　(単位:m)

	水平					鉛直下向					鉛直上向				
本管径	90°	45°	22°1/2	11°1/4	5°5/8	90°	45°	22°1/2	11°1/4	5°5/8	90°	45°	22°1/2	11°1/4	5°5/8
φ75	1.50	1.70	1.20	0.40	—	0.40	0.20	—	—	—	1.70	1.00	0.50	0.10	—
φ100	2.50	2.20	1.70	0.70	—	0.50	0.30	—	—	—	2.20	1.20	0.60	0.20	—
φ125	2.90	2.60	2.00	0.80	—	0.60	0.30	—	—	—	2.70	1.50	0.80	0.20	—
φ150	3.30	2.90	2.10	0.90	—	0.60	0.40	—	—	—	3.00	1.70	0.90	0.20	—
φ200	4.60	4.10	3.30	1.30	—	0.80	0.50	—	—	—	3.80	2.30	1.10	0.40	—
φ250	5.60	4.90	4.20	2.00	—	0.90	0.50	—	—	—	4.60	3.00	1.50	0.50	0.10
φ300	6.40	5.70	4.80	2.30	—	1.10	0.60	—	—	—	5.50	3.80	1.90	0.70	0.20
φ350	3.70	2.90	2.10	—	—	0.70	—	—	—	—	3.30	1.80	0.80	0.30	—

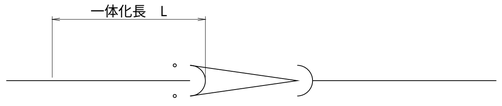
T 字 管
（分岐方向離脱防止金具内蔵型）



T字管必要一体化長　(単位:m)

	枝管径							
本管径	φ75	φ100	φ125	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350
φ75	2.50	—	—	—	—	—	—	—
φ100	2.50	3.10	—	—	—	—	—	—
φ125	2.50	3.10	3.70	—	—	—	—	—
φ150	2.50	3.10	3.70	4.30	—	—	—	—
φ200	2.50	3.10	3.70	4.30	5.40	—	—	—
φ250	2.50	3.10	3.70	4.30	5.40	6.40	—	—
φ300	—	—	—	—	5.40	6.40	7.40	—
φ350	—	—	—	—	2.90	—	—	5.20

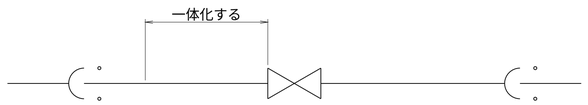
片 落 管
（離脱防止金具内蔵型）



片落管必要一体化長　(単位:m)

	枝管径						
本管径	φ75	φ100	φ125	φ150	φ200	φ250	φ300
φ100	0.70	—	—	—	—	—	—
φ125	—	0.60	—	—	—	—	—
φ150	—	1.30	0.40	—	—	—	—
φ200	—	—	—	1.20	—	—	—
φ250	—	—	—	—	1.00	—	—
φ300	—	—	—	—	—	0.90	—
φ350	—	—	—	—	—	—	0.30

制 水 弁
（離脱防止金具内蔵型）



制水弁必要一体化長　(単位:m)

φ75	φ100	φ125	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350
0.60	0.90	1.10	1.30	1.80	2.30	2.80	3.30

凡例

。。：離脱防止金具

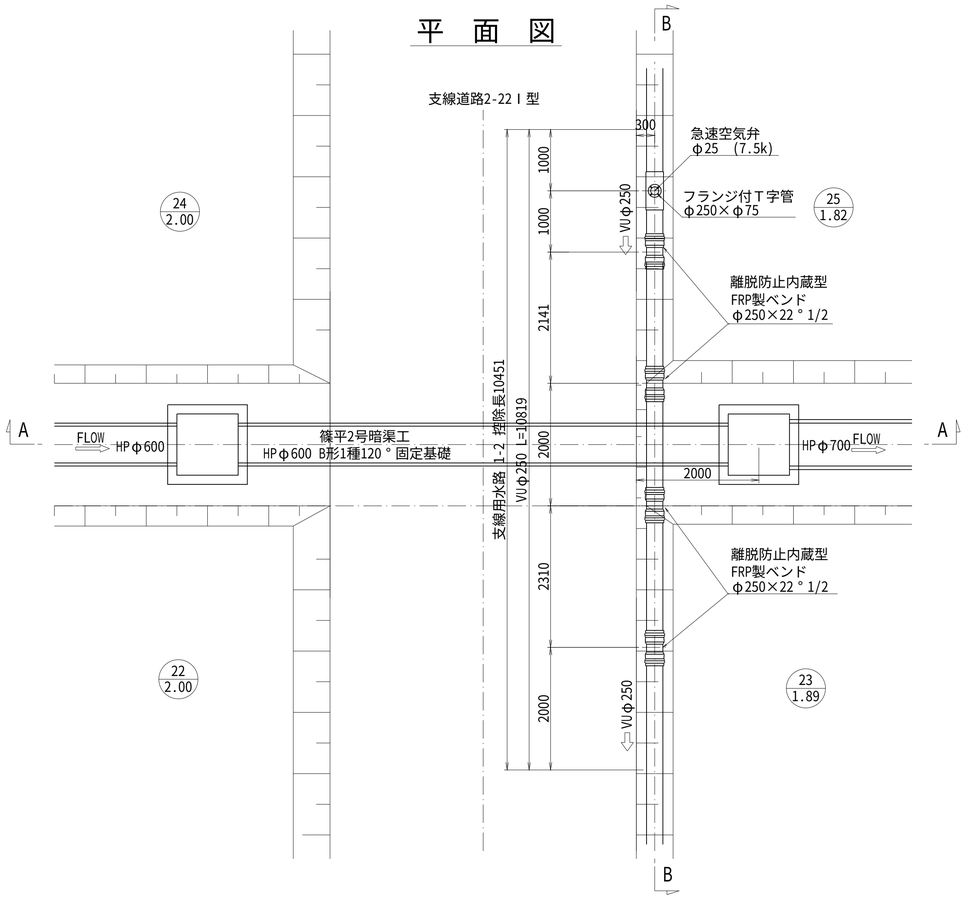
※特記事項
・一体化長の区間内に切管又は異形管を設ける場合は、離脱防止金具を使用すること。
・施工上の都合で片側の一体化長が必要長さを確保できない場合は、反対側の一体化長に不足分の延長を加算すること。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工　標準図		
年月日			
縮尺	-	図面番号	9-6
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

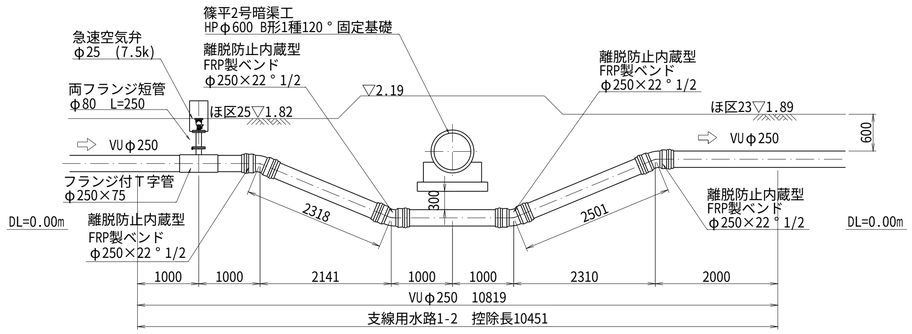
用水路工　横断工構造図(1)

1号横断工　　S=1:50

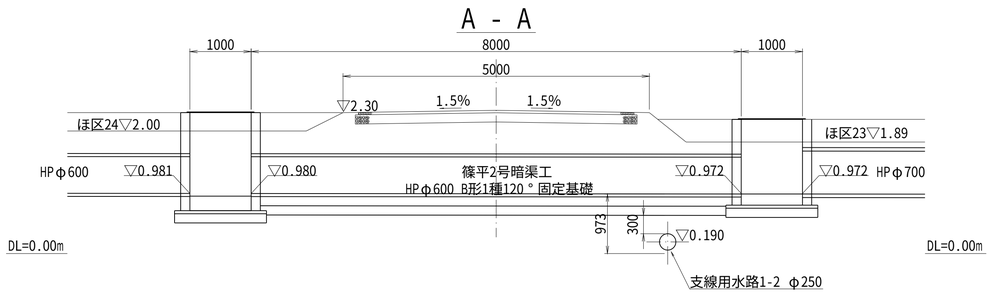
平　面　図



B - B



A - A



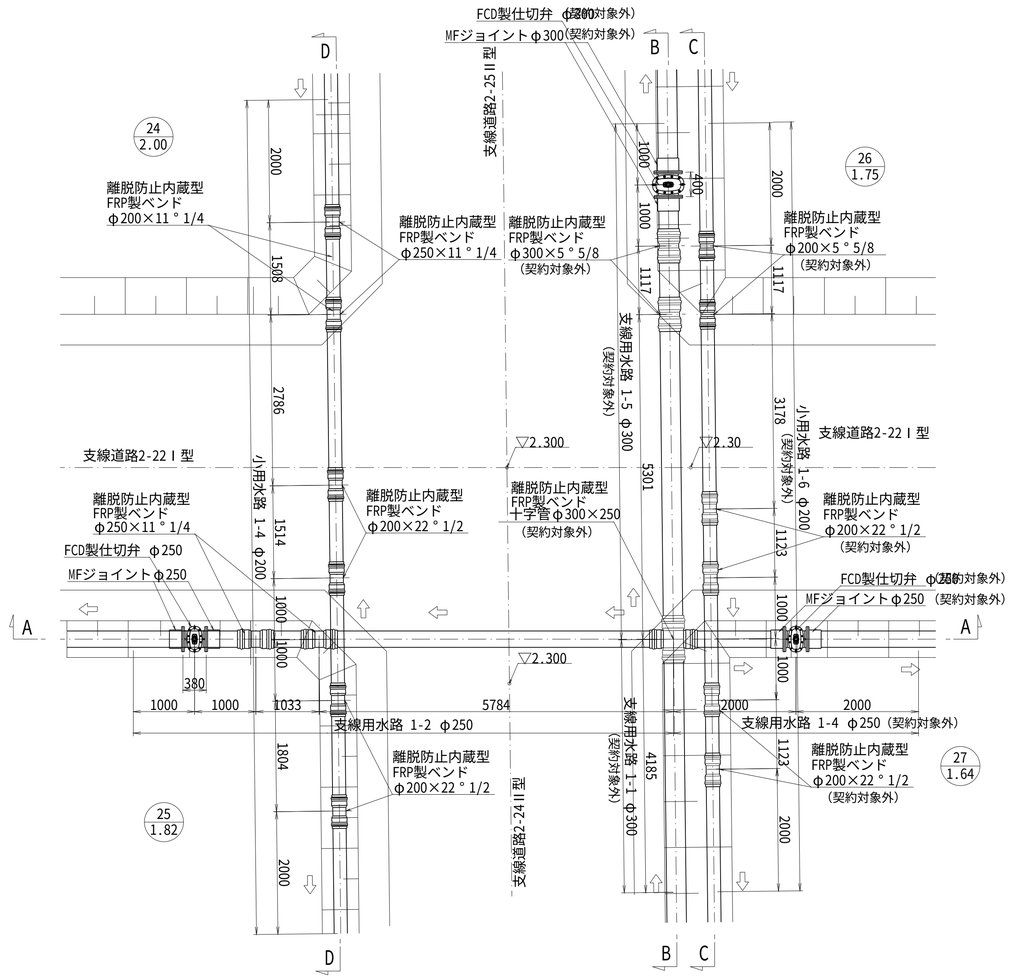
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工　横断工構造図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	10-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

用水路工　横断工構造図(2)

2号横断工

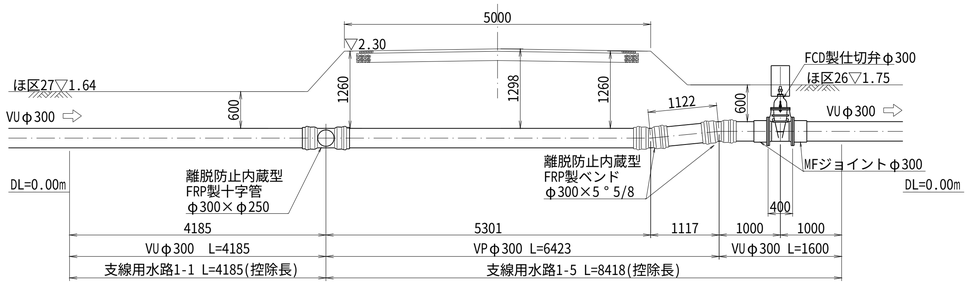
S=1:50

平　面　図



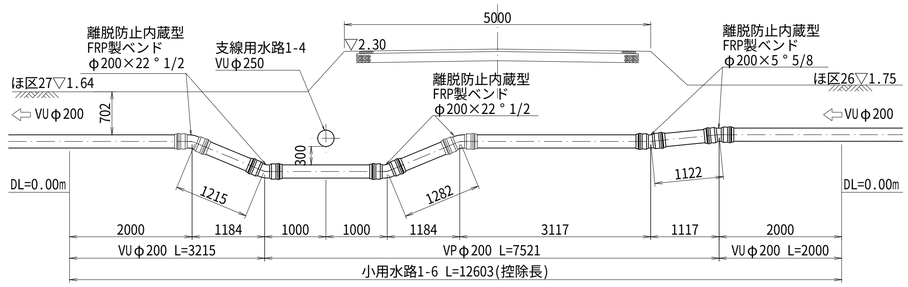
B - B

（契約対象外）

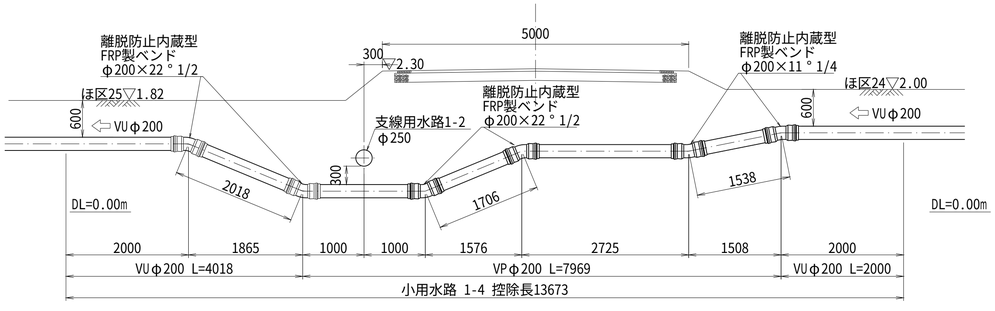


C - C

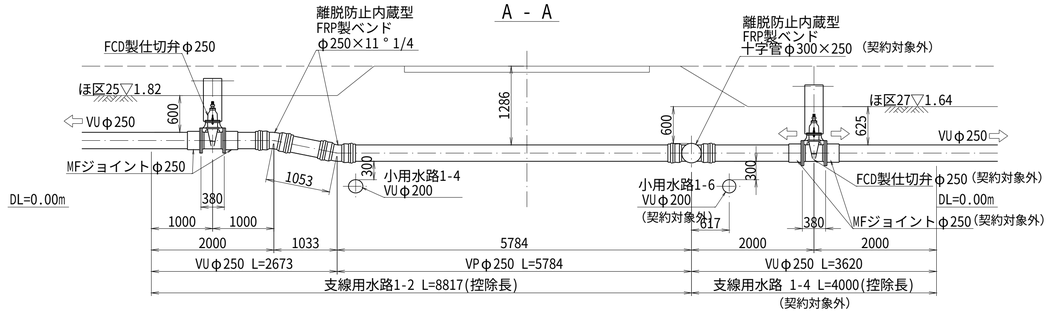
（契約対象外）



D - D



A - A

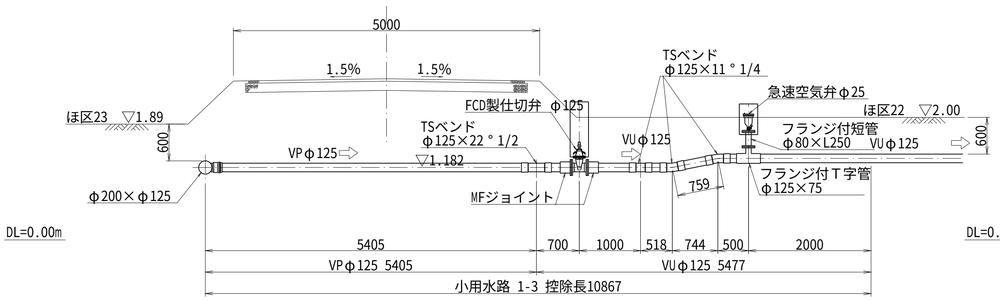


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工　横断工構造図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	10-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

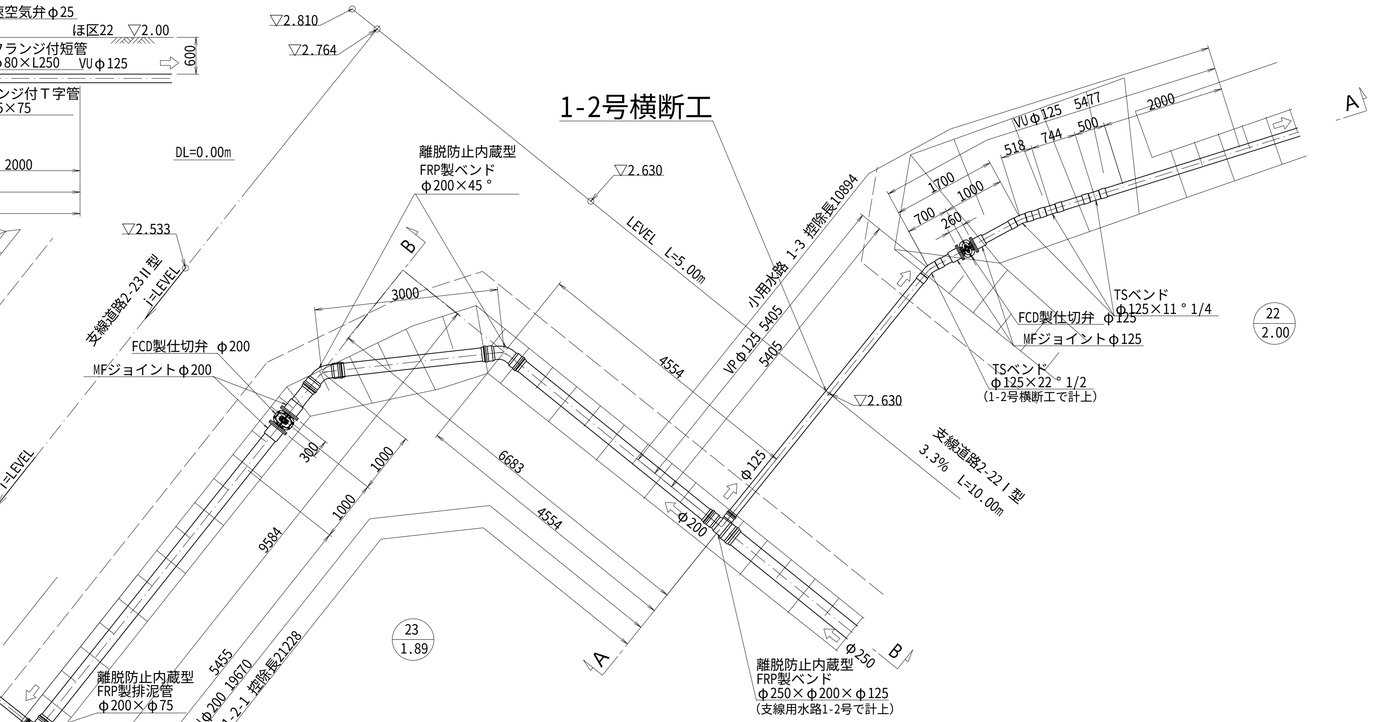
用水路工　横断工構造図(3)

1-2号横断工
1-3号横断工　　S=1/50

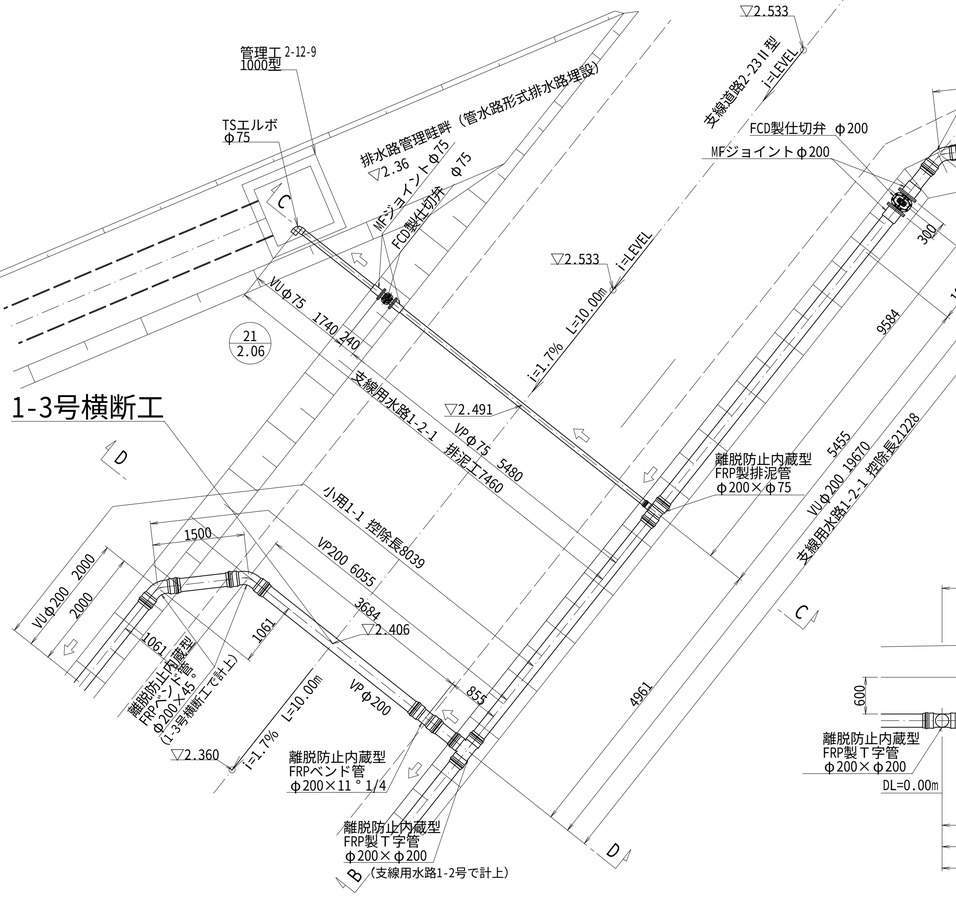
A - A
1-2号横断工～小用水路1-3



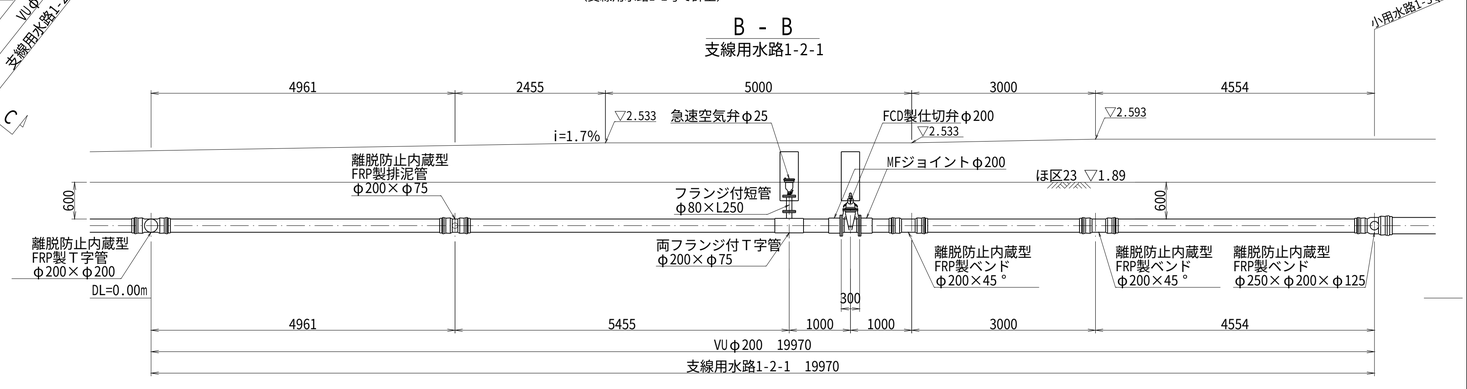
1-2号横断工



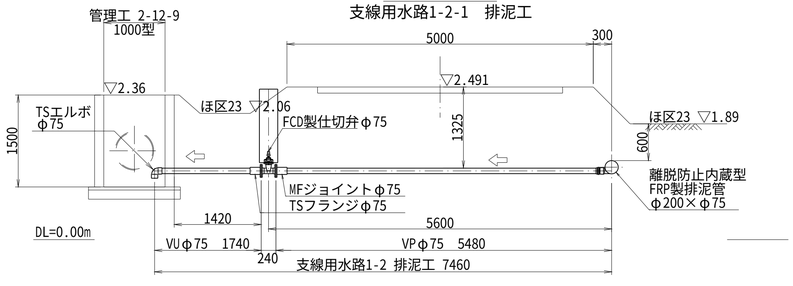
1-3号横断工



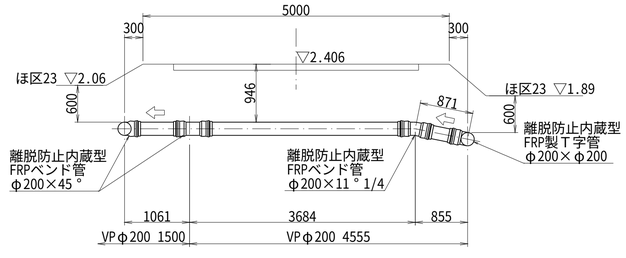
B - B
支線用水路1-2-1



C - C
支線用水路1-2-1　排泥工



D - D
1-3号横断工

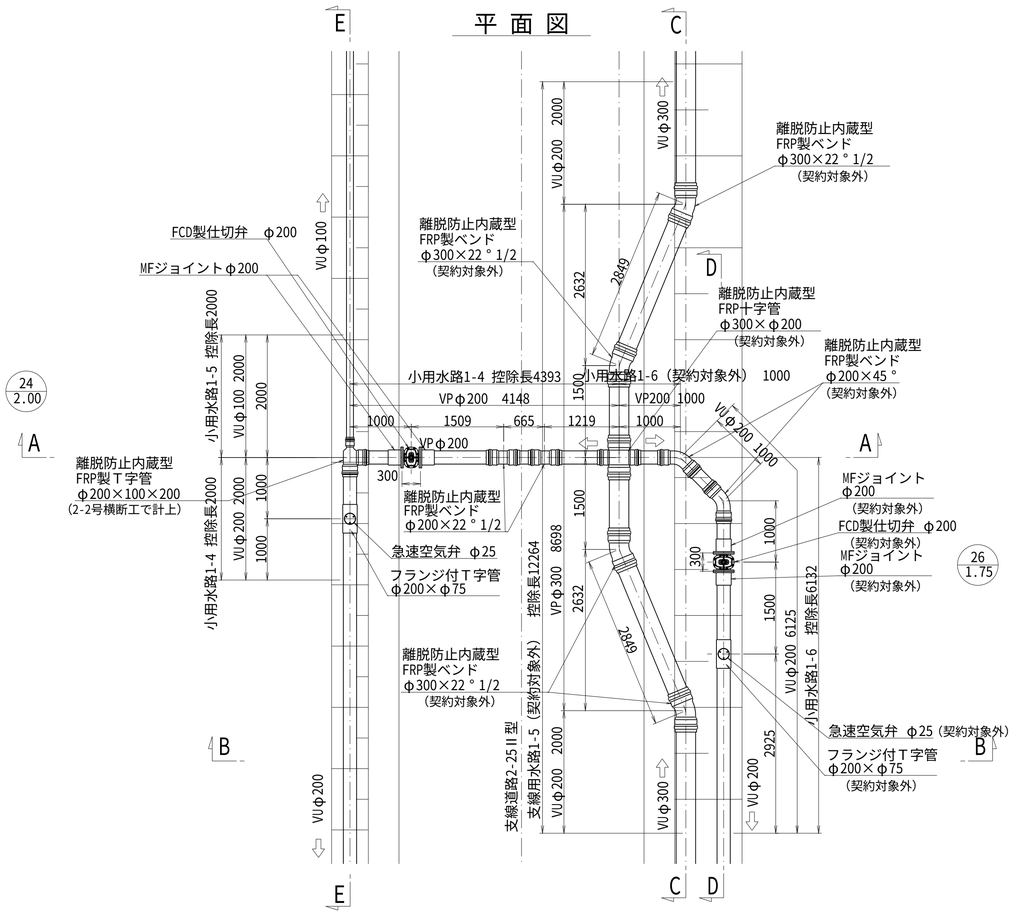


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工　横断工構造図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	10-3
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

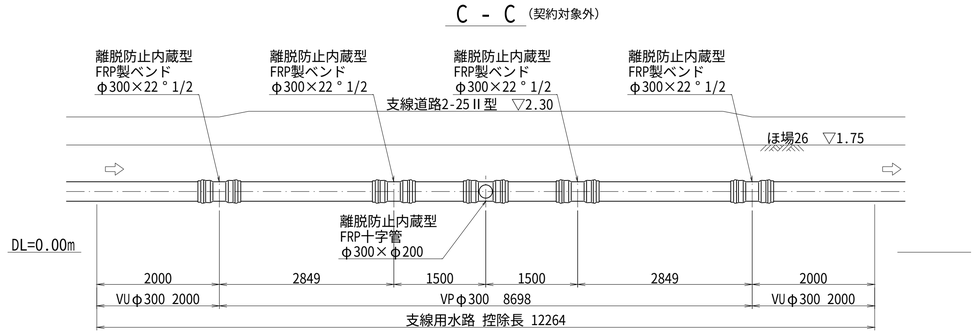
用水路工　横断工構造図(4)

2-2号横断工　　S=1/50

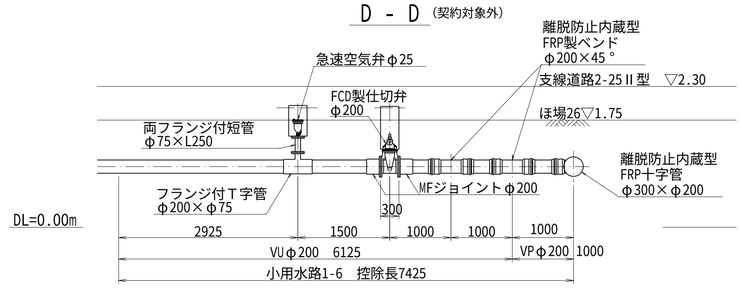
平面図



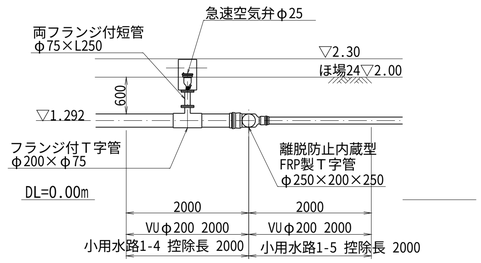
C - C（契約対象外）



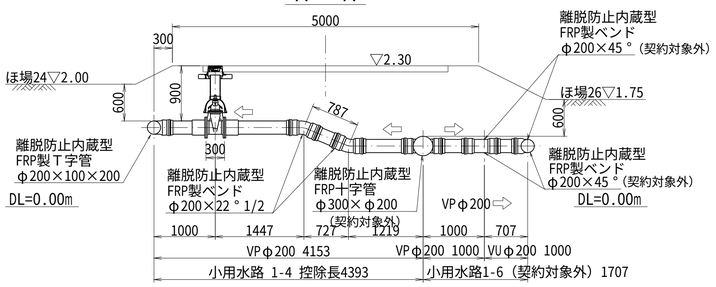
D - D（契約対象外）



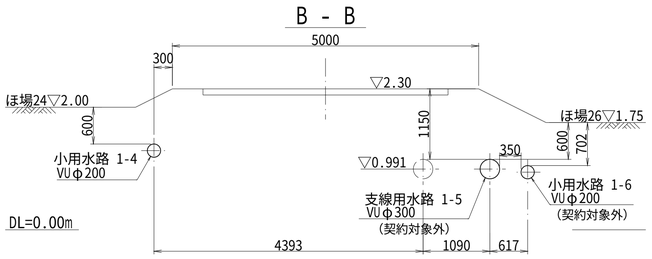
E - E



A - A



B - B



工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水路工　横断工構造図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	10-4
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

排水路工　計画平面図

S=1:1500

凡	例
記　号	事　項
	田
	畑
	事業計画区域
	支線道路（As舗装）
	支線道路（砂利舗装）
	排水路
	揚水機場
	2級基準点

番号	水田計画筆番号
面積	一筆面積(㎡)
標高	二次標高(m)

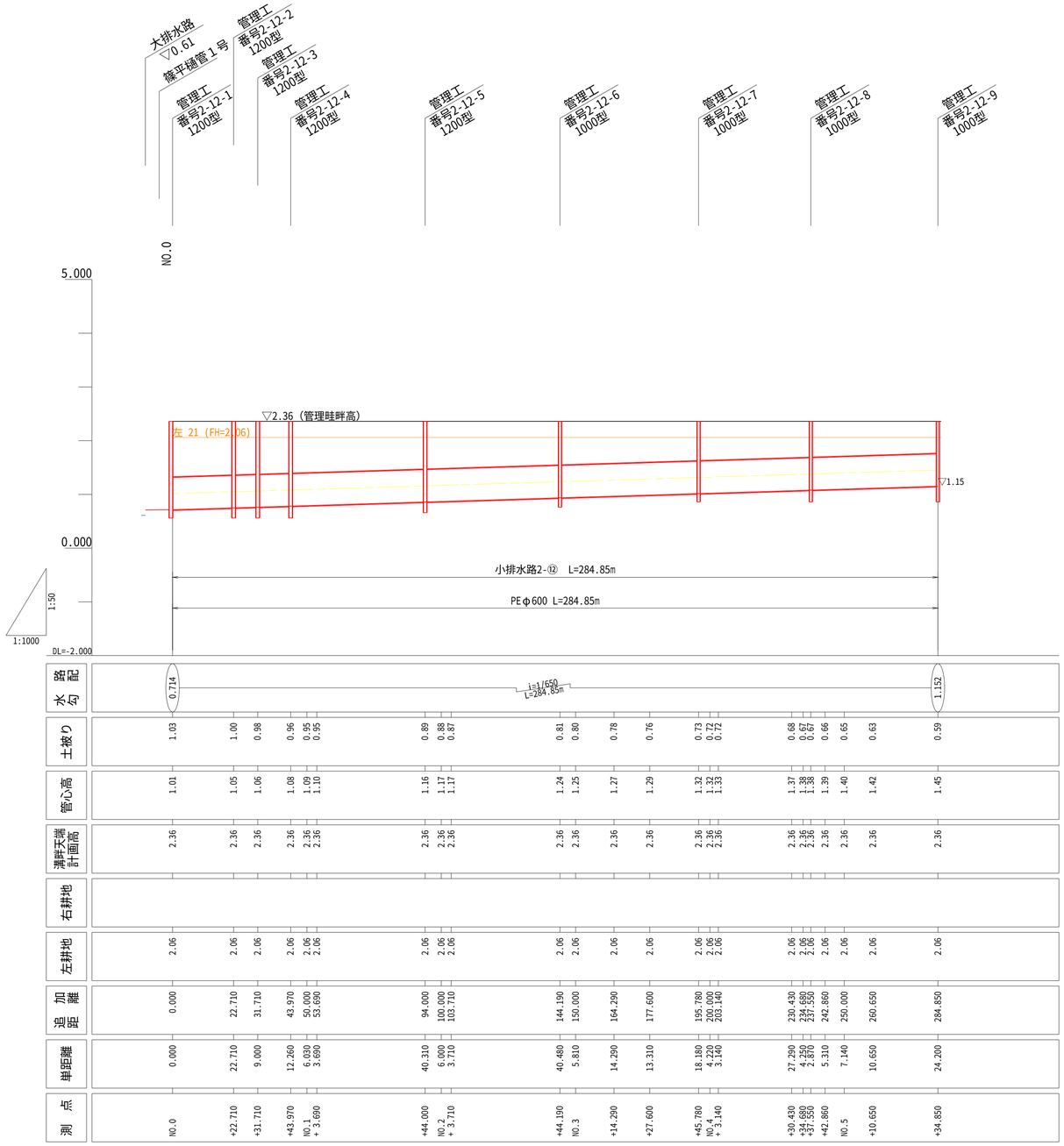
番号	畑計画筆番号
面積	一筆面積(㎡)
標高	二次標高(m)

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	排水路工　計画平面図		
年月日			
縮尺	1:1500	図面番号	11
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

排水路工　計画縦断図(1)

小排水路2-⑫

SV=1:100
SH=1:2000

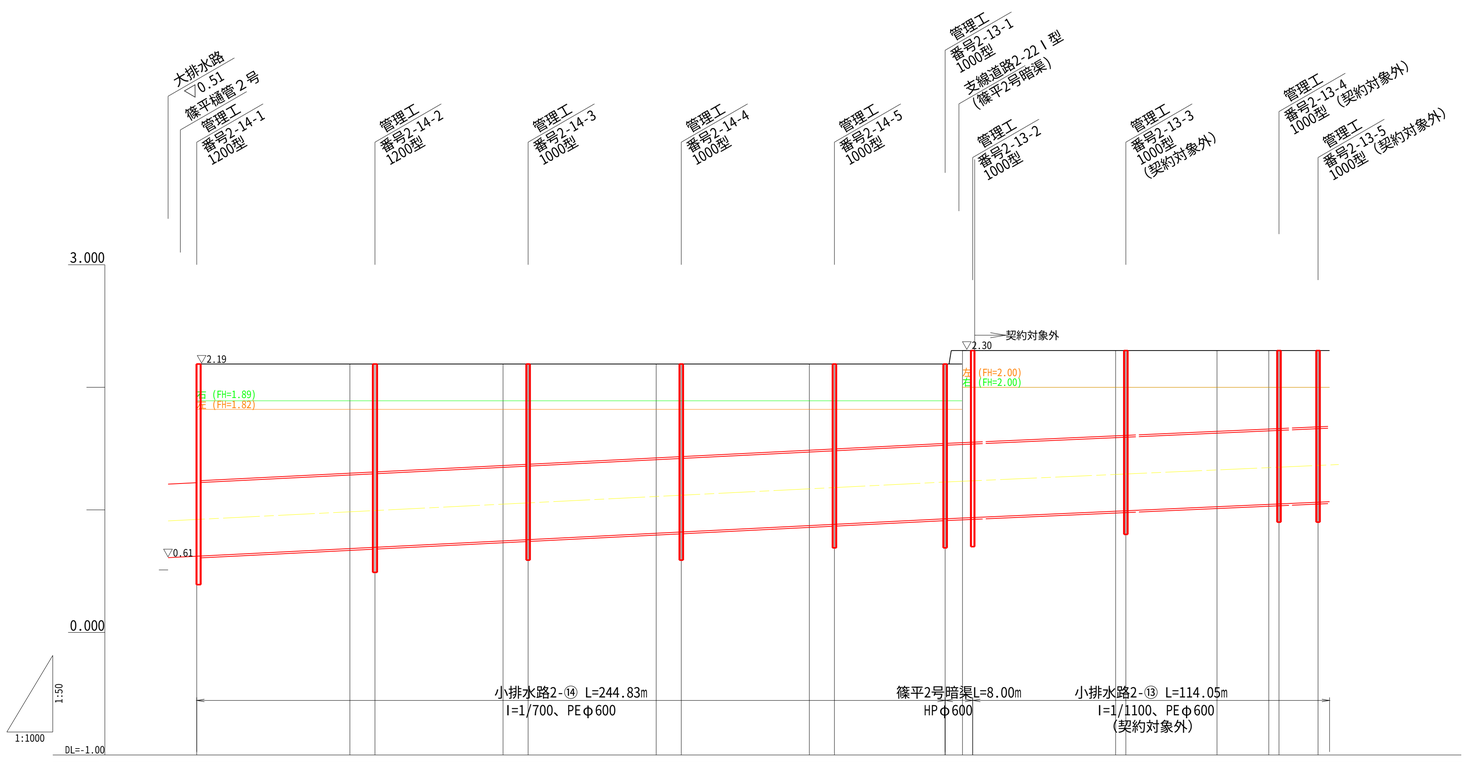


凡　例	
	排水路管心高
	排水路管頂（管底）高
	路盤計画高
	右田標高
	左田標高

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	排水路工　計画縦断図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	12-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

排水路工　計画縦断図(2)

小排水路2-⑬、2-⑭　　SV=1:25
SH=1:1000



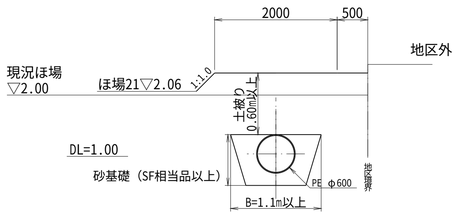
| | | |

排水路工　標準断面図

S=1:50

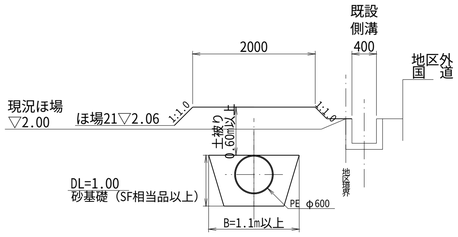
小排水路2-⑫号

No.0～No.0+31.71



小排水路2-⑫号

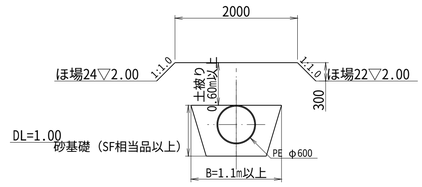
No.0+31.71～No.5+34.85



小排水路2-⑬号

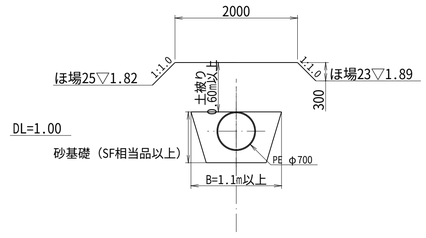
ほ場24、ほ場22

（契約対象外）



小排水路2-⑭号

ほ場25、ほ場23



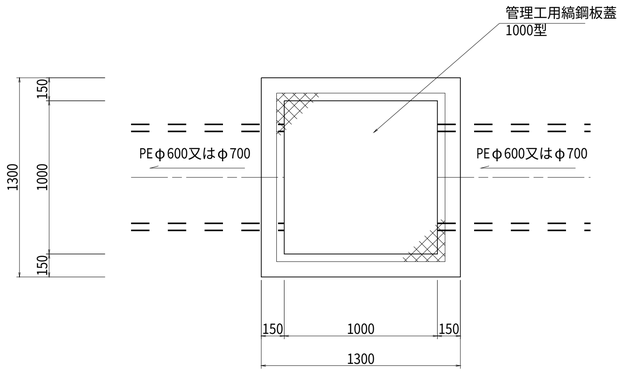
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	排水路工　標準断面図		
年月日			
縮尺	1:50	図面番号	13
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

排水管渠管理工　標準図(1)

S=1:20

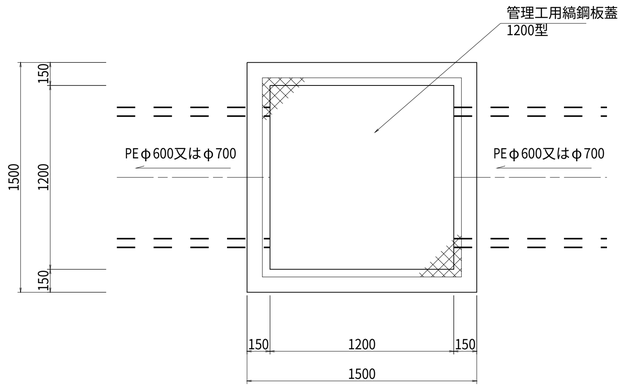
1000型

平面図



1200型

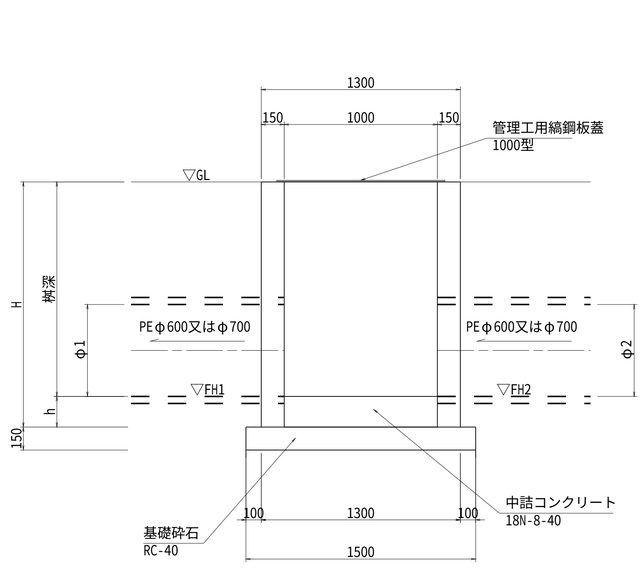
平面図



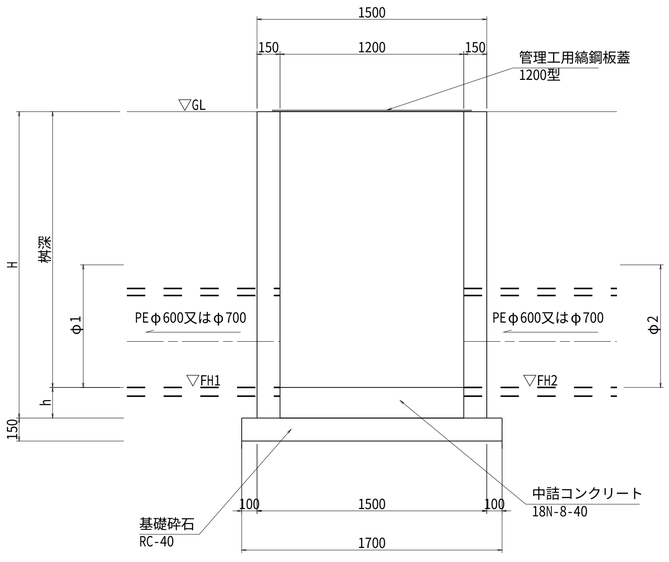
番号	地盤高 GL	流出管		流入管		桝深	桝形状		中詰コンクリート高 h	備考
		口径 φ1	高さ FH1	口径 φ2	高さ FH2		タイプ	桝全高 H		
	(m)		(m)		(m)	(m)		(m)	(m)	
2-12-1	2.36	φ600	0.71	φ600	0.71	1.65	1200型	1.80	0.15	篠平その1
2-12-2	2.36	φ600	0.75	φ600	0.75	1.61	1200型	1.80	0.19	篠平その1
2-12-3	2.36	φ600	0.76	φ600	0.76	1.60	1200型	1.80	0.20	篠平その1
2-12-4	2.36	φ600	0.78	φ600	0.78	1.58	1200型	1.80	0.22	篠平その1
2-12-5	2.36	φ600	0.86	φ600	0.86	1.50	1200型	1.70	0.20	篠平その1
2-12-6	2.36	φ600	0.94	φ600	0.94	1.42	1000型	1.60	0.18	篠平その1
2-12-7	2.36	φ600	1.02	φ600	1.02	1.34	1000型	1.50	0.16	篠平その1
2-12-8	2.36	φ600	1.08	φ600	1.08	1.28	1000型	1.50	0.22	篠平その1
2-12-9	2.36	φ600	1.15	φ75	1.08	1.28	1000型	1.50	0.22	篠平その1
2-13-1	2.19	φ600	0.93	φ600	0.93	1.26	1000型	1.50	0.24	篠平その1
2-13-2	2.30	φ600	0.94	φ600	0.94	1.36	1000型	1.60	0.24	篠平その1
2-13-3	2.30	φ600	1.00	φ600	1.00	1.30	1000型	1.50	0.20	契約対象外
2-13-4	2.30	φ600	1.05	φ600	1.05	1.25	1000型	1.40	0.15	契約対象外
2-13-5	2.30	φ600	1.07	φ75	1.07	1.23	1000型	1.40	0.17	契約対象外
2-14-1	2.19	φ700	0.62	φ700	0.62	1.57	1200型	1.80	0.23	篠平その1
2-14-2	2.19	φ700	0.69	φ700	0.69	1.50	1200型	1.70	0.20	篠平その1
2-14-3	2.19	φ700	0.76	φ700	0.76	1.43	1000型	1.60	0.17	篠平その1
2-14-4	2.19	φ700	0.82	φ700	0.82	1.37	1000型	1.60	0.23	篠平その1
2-14-5	2.19	φ700	0.88	φ700	0.88	1.31	1000型	1.50	0.19	篠平その1

※2-12-9，2-13-5：上流側のφ75は排泥管接続

断面図



断面図

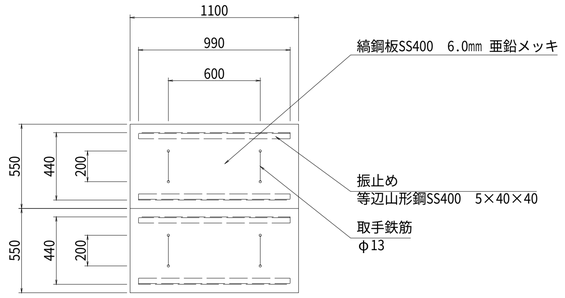


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	排水管渠管理工　標準図		
年月日			
縮尺	1:20	図面番号	14-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

排水管渠管理工　標準図(2)

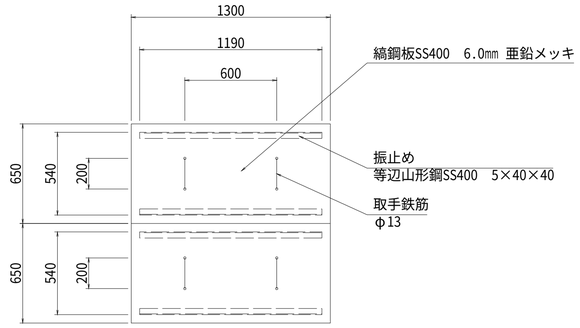
管理工桝蓋標準図

1000型
S=1:20



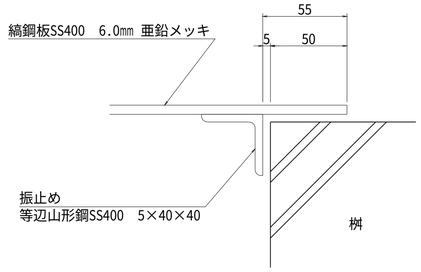
注）亜鉛メッキ膜厚 HDZ35

1200型
S=1:20

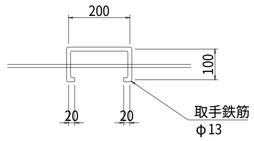


注）亜鉛メッキ膜厚 HDZ35

振止め取付詳細図
S=1:2



取手鉄筋
S=1:10

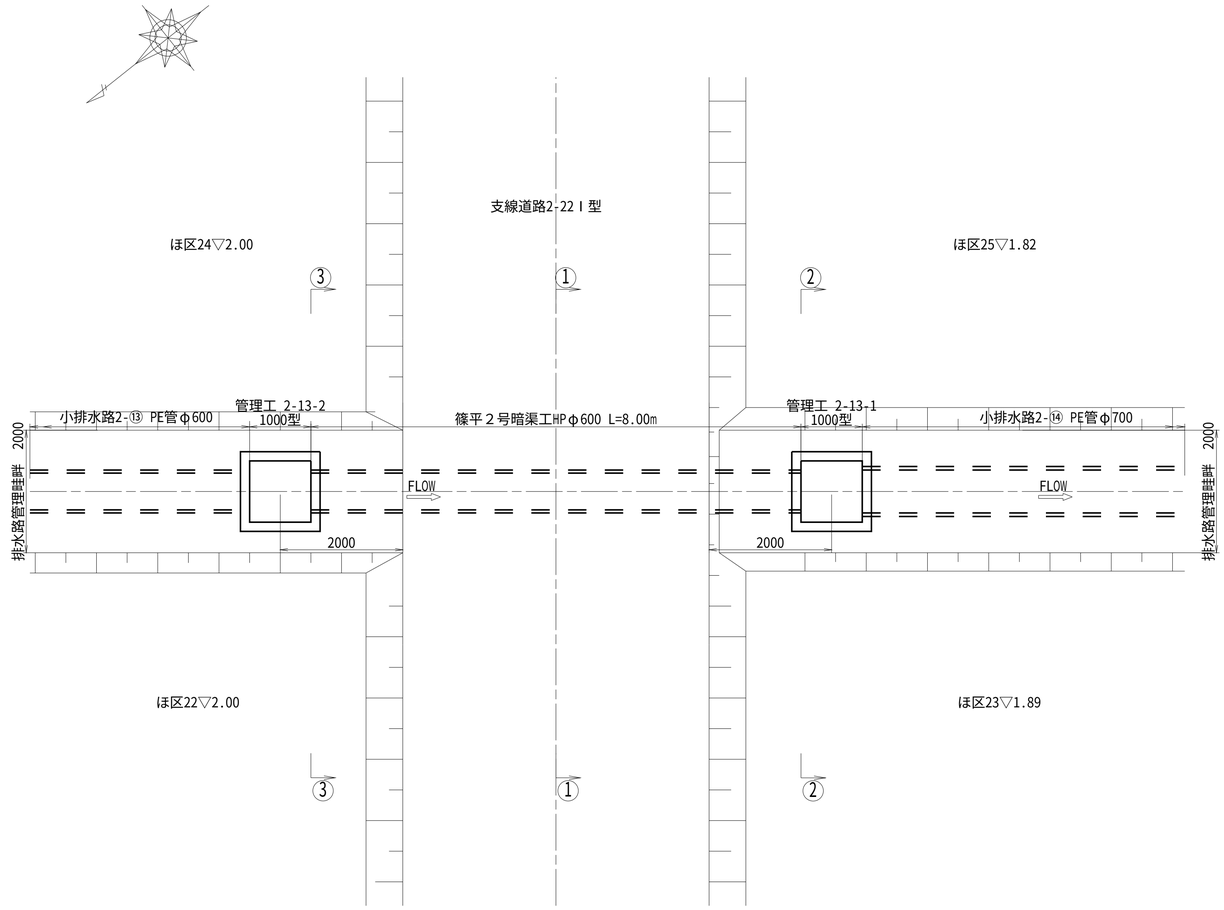


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	排水管渠管理工　標準図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	14-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

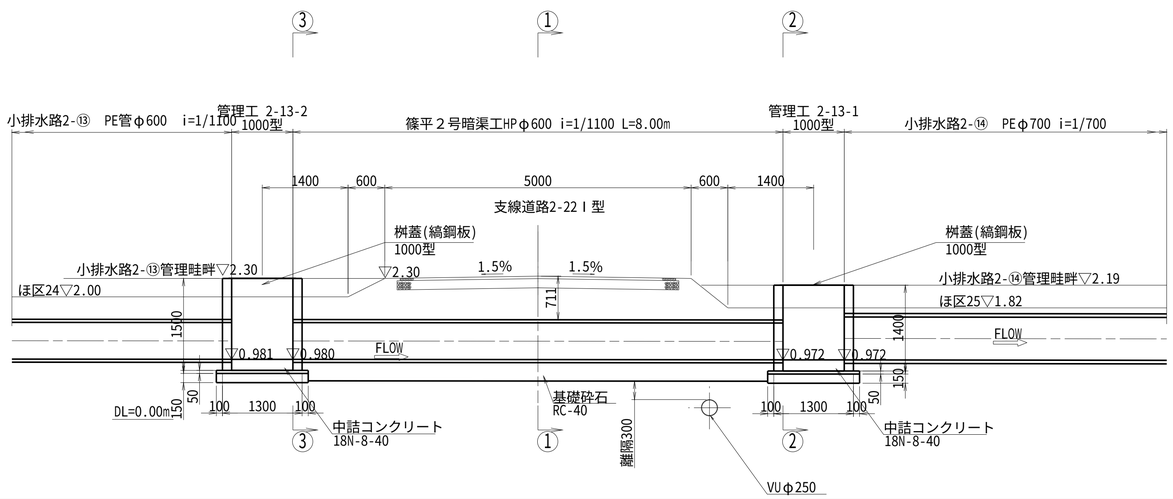
排水路工　道路横断工構造図

(篠平2号暗渠工)　　S=1:50

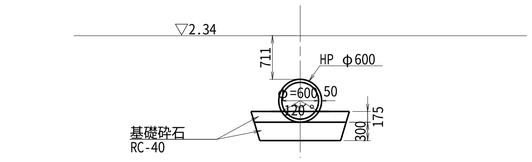
平　面　図



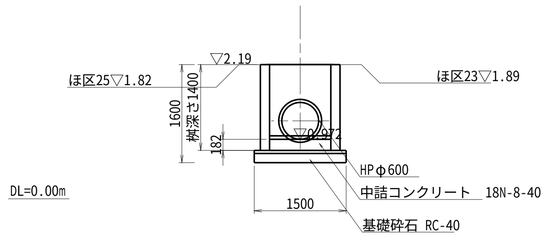
縦　断　面　図



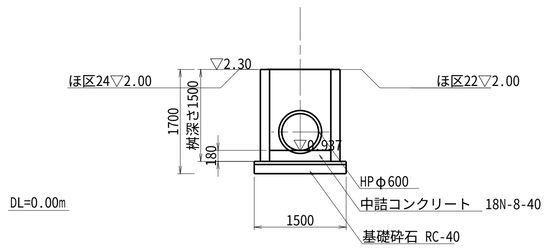
①－① 断面図



②－② 断面図



③－③ 断面図

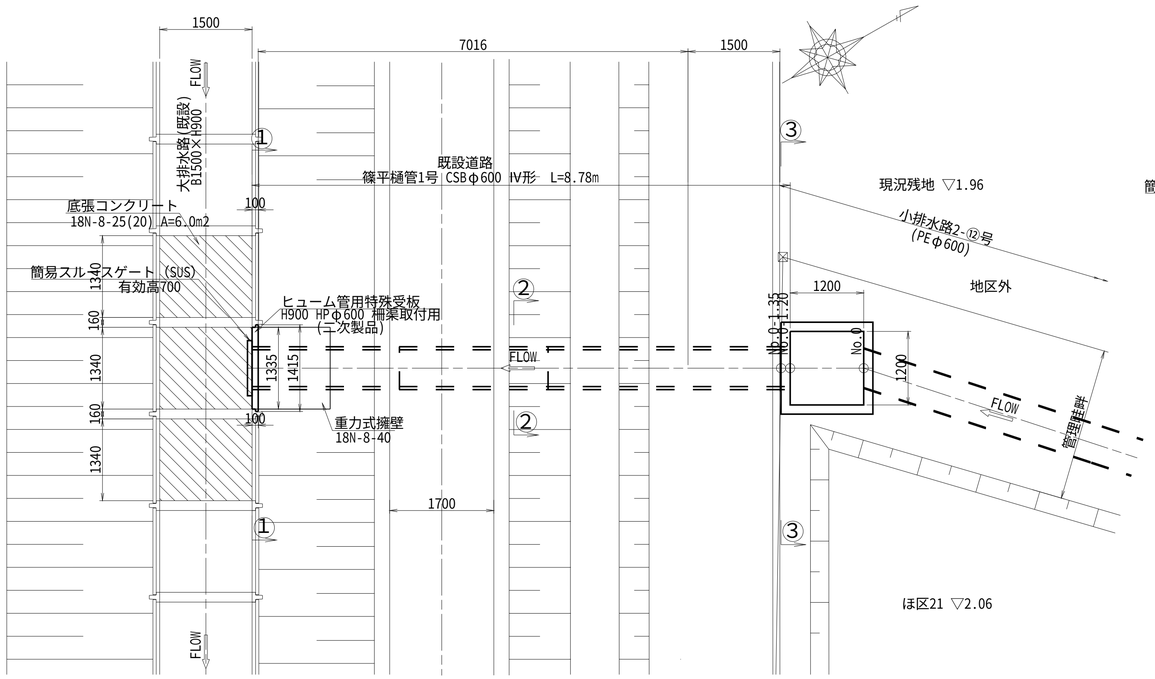


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	排水路工　道路横断工構造図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	15
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

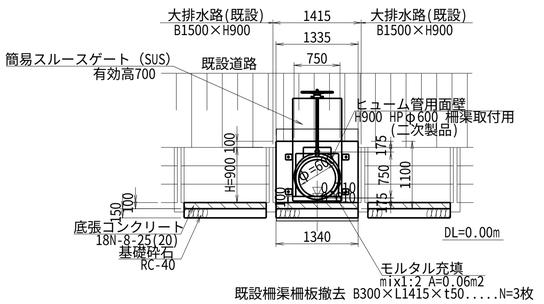
排水路合流工・接続桝一般図(1)

(篠平樋管１号)　　S=1:50

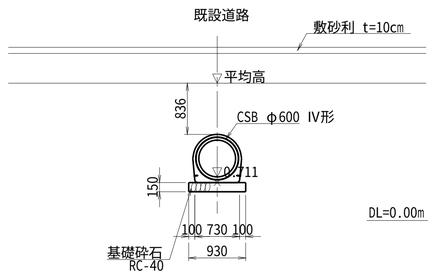
平　面　図



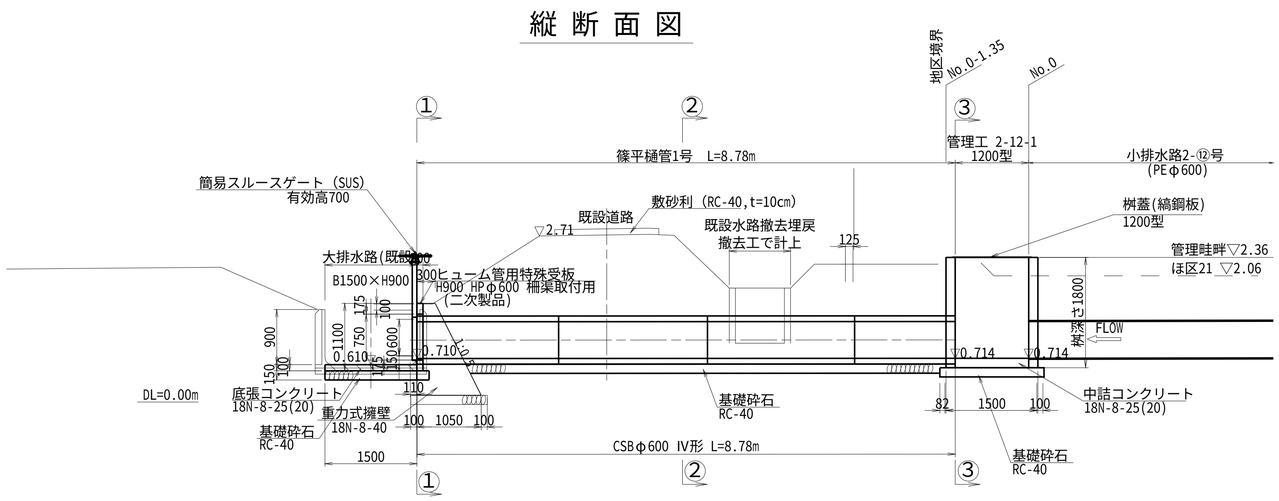
①-①断面図



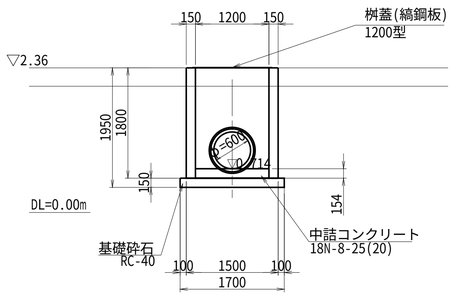
②-②断面図



縦　断　面　図



③-③断面図

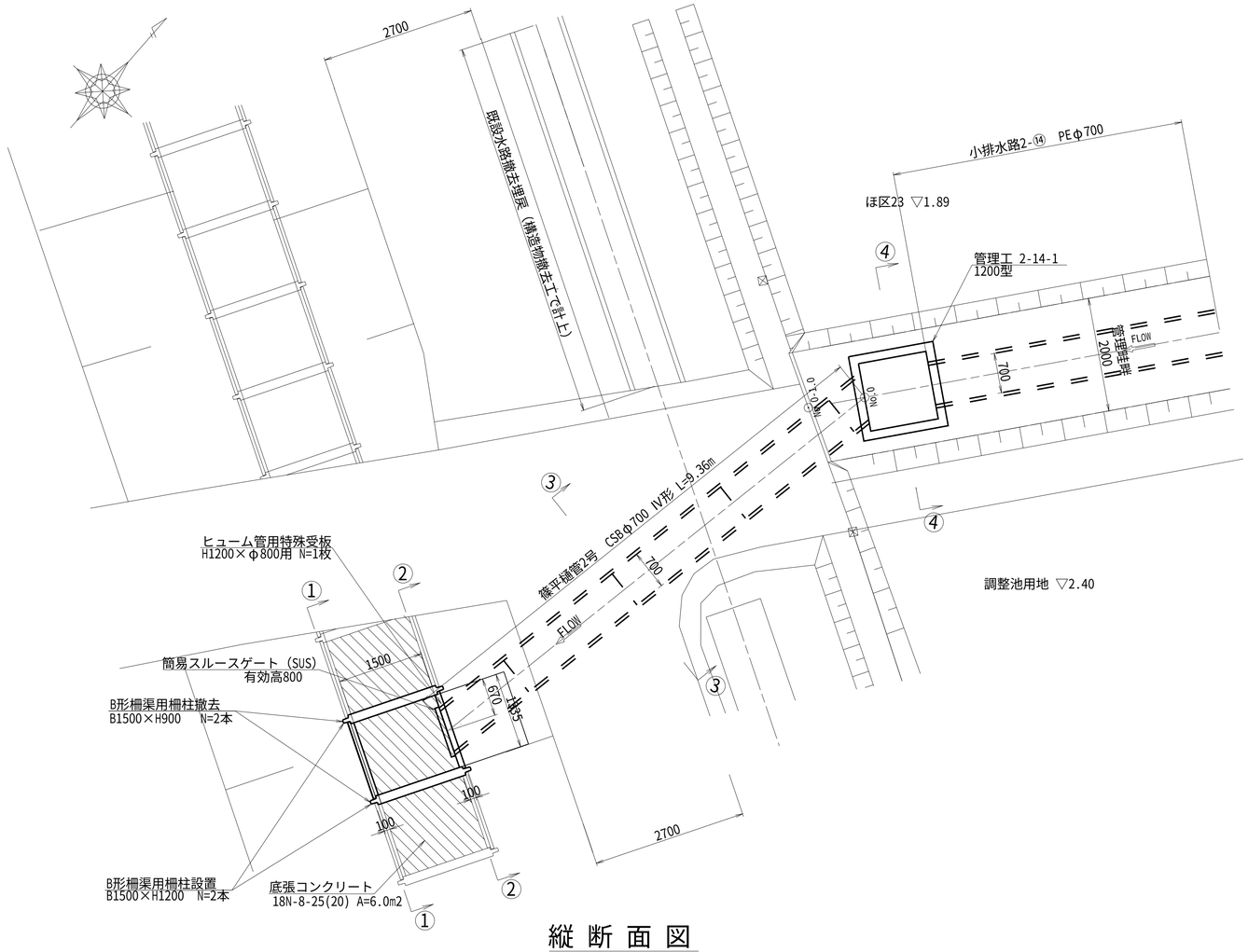


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	排水路合流工・接続桝一般図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	16-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

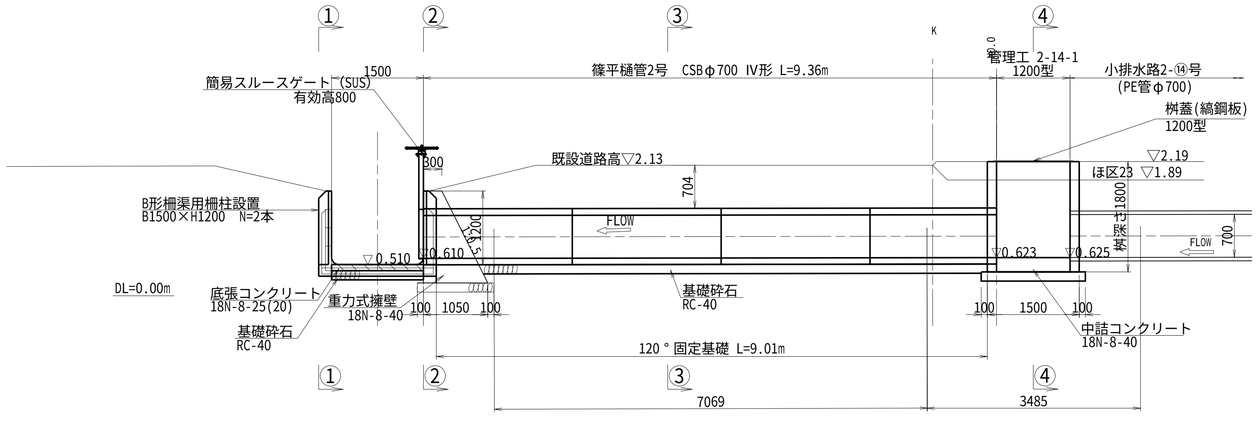
排水路合流工・接続桝一般図(2)

(篠平樋管２号)　　S=1:50

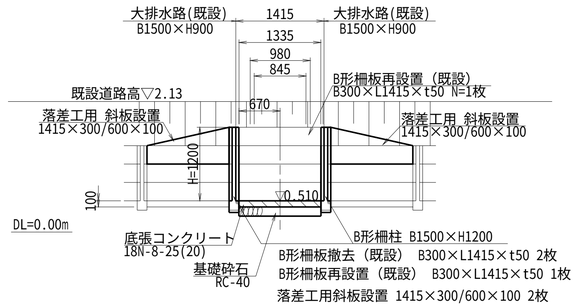
平　面　図



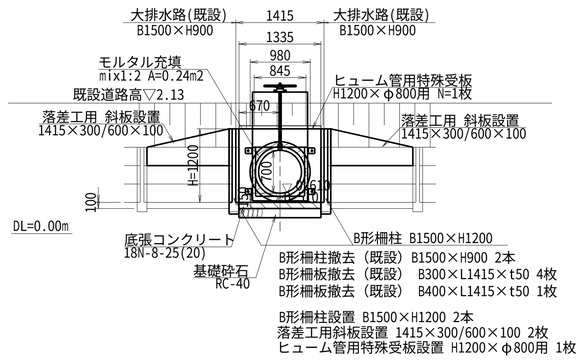
縦　断　面　図



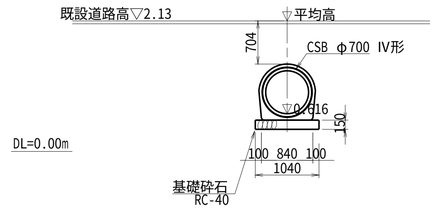
①-①断面図



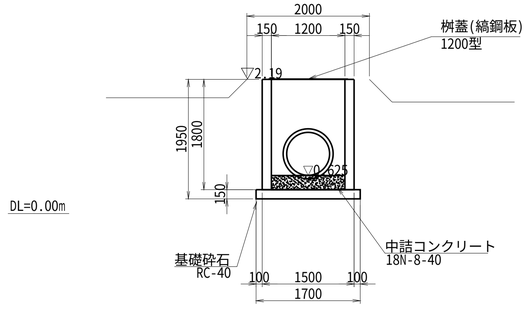
②-②断面図



③-③断面図



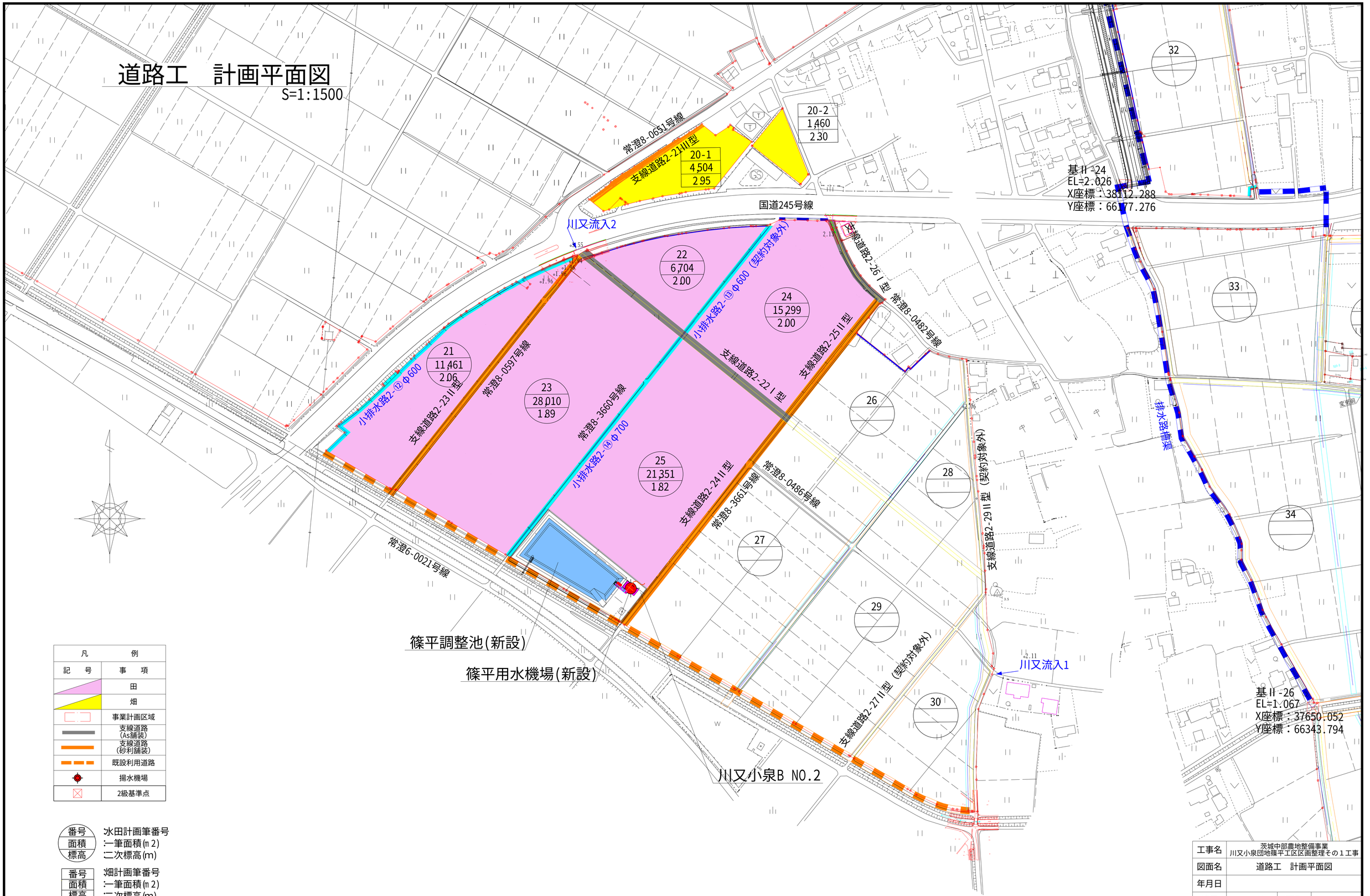
④-④断面図



工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	排水路合流工・接続桝一般図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	16-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

道路工　計画平面図

S=1:1500



凡	例
記　号	事　項
	田
	畑
	事業計画区域
	支線道路（As舗装）
	支線道路（砂利舗装）
	既設利用道路
	揚水機場
	2級基準点

番号　水田計画筆番号
面積　：一筆面積(㎡)
標高　：二次標高(m)

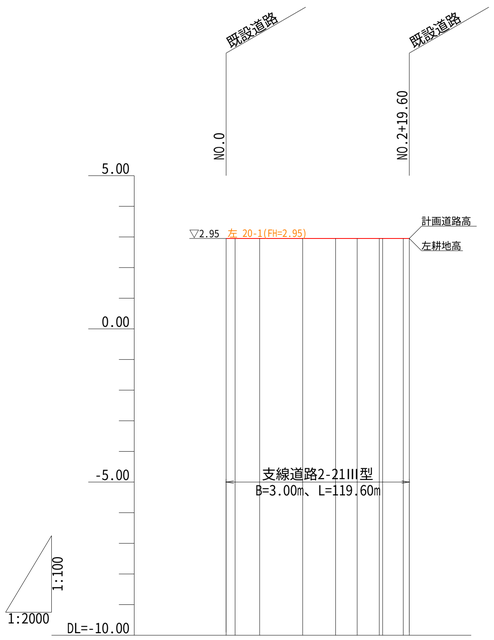
番号	畑計画筆番号
面積	：一筆面積(㎡)
標高	：二次標高(m)

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	道路工　計画平面図		
年月日			
縮尺	1:1500	図面番号	17
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

道路工　計画縦断図(1)

SV=1：100
SH=1:2000

[支線道路2-21III型]

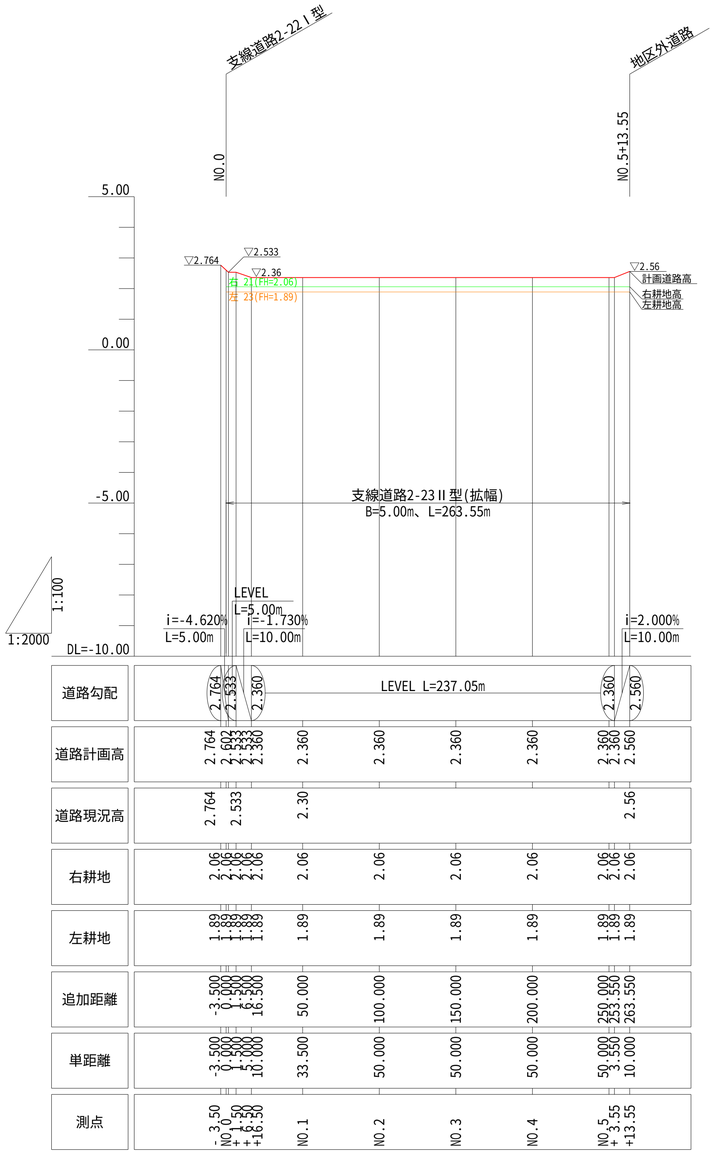


| | | |

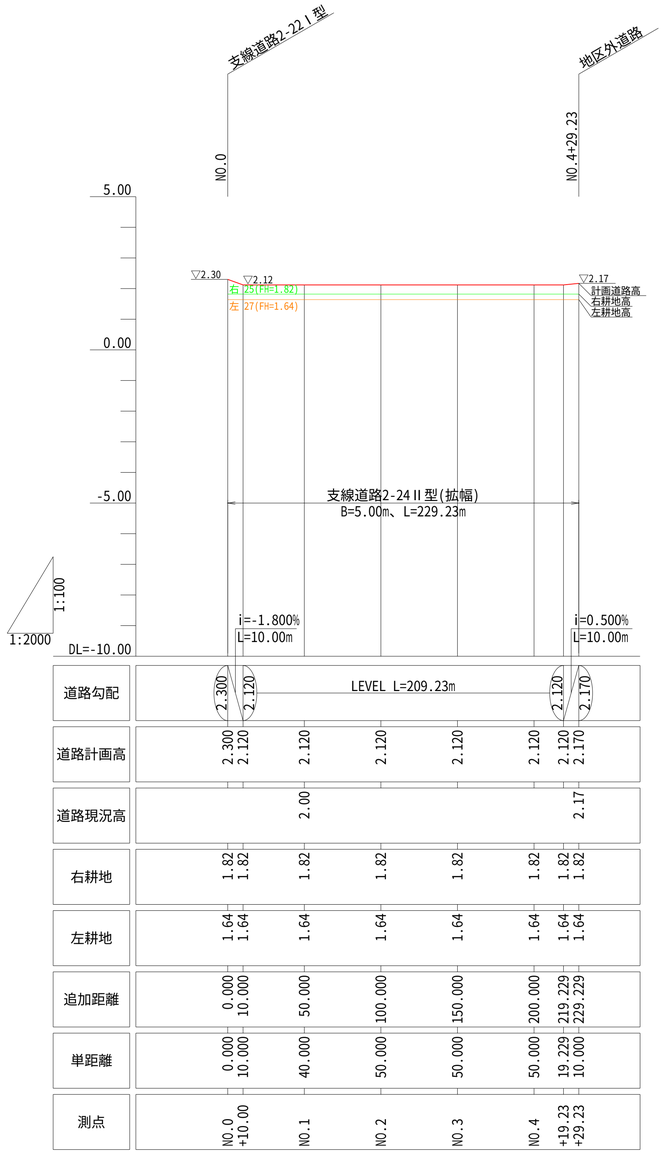
道路工　計画縦断図(2)

SV=1：100
SH=1:2000

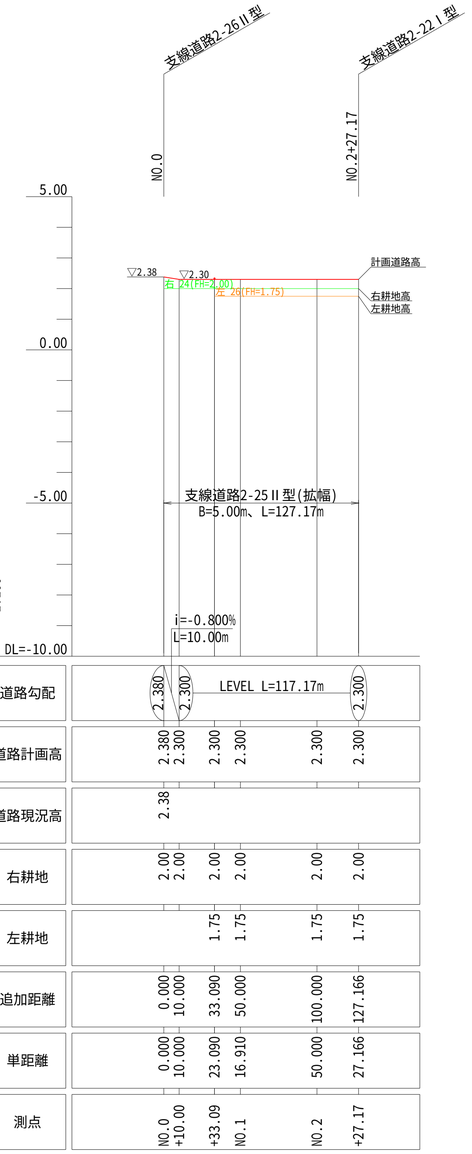
[支線道路2-23Ⅱ型]



[支線道路2-24Ⅱ型]



[支線道路2-25Ⅱ型]



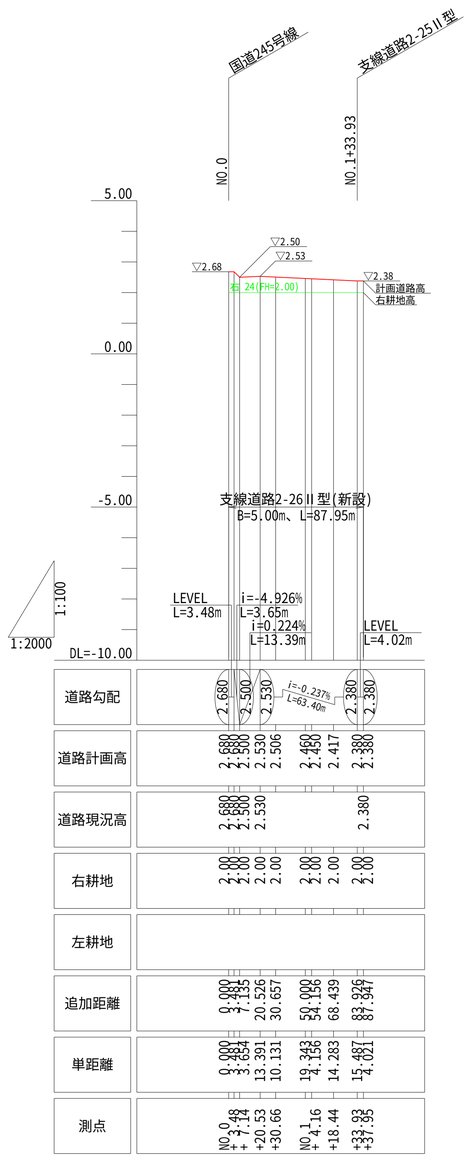
	計画道路高
	右耕地高
	左耕地高

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	道路工　計画縦断図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	18-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

道路工　計画縦断図(3)

SV=1：100
SH=1:2000

［支線道路2-26Ⅰ型］

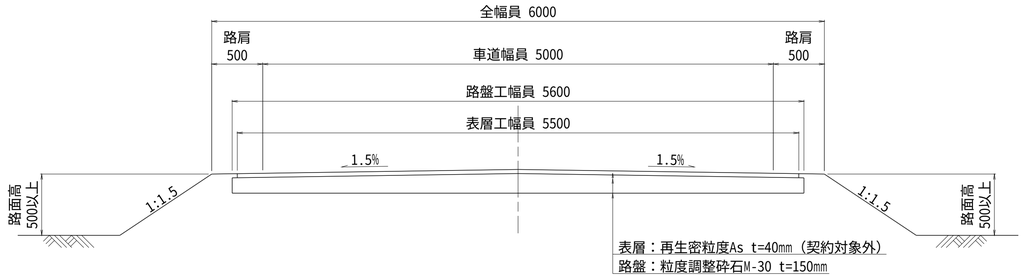


	計画道路高
	右耕地高
	左耕地高

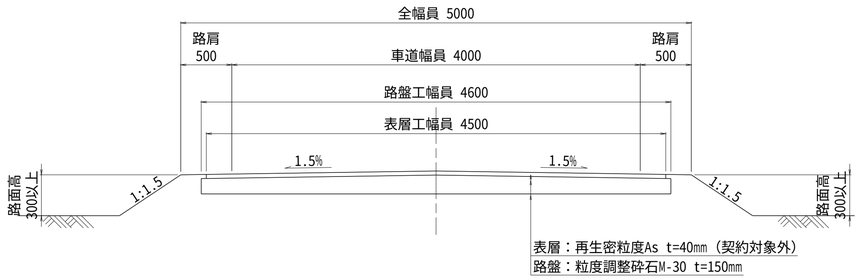
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	道路工　計画縦断図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	18-3
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

道路工　標準図(1)

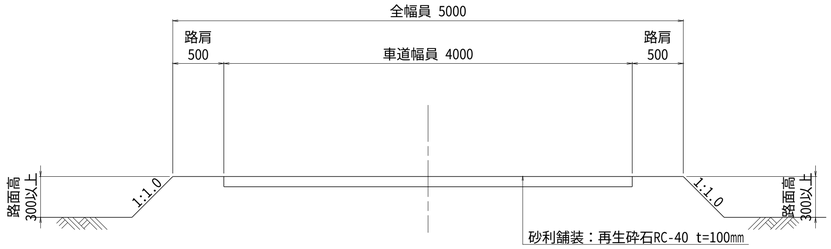
幹線道路
As舗装



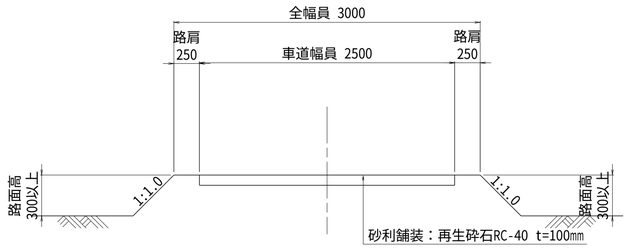
支線道路Ⅰ型
As舗装



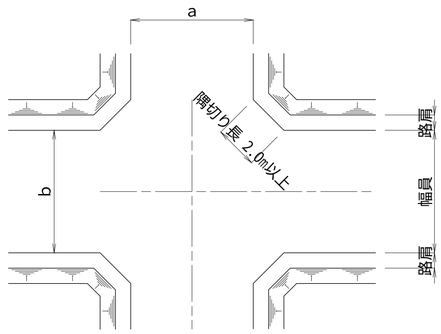
支線道路Ⅱ型
砂利舗装



支線道路Ⅲ型
砂利舗装

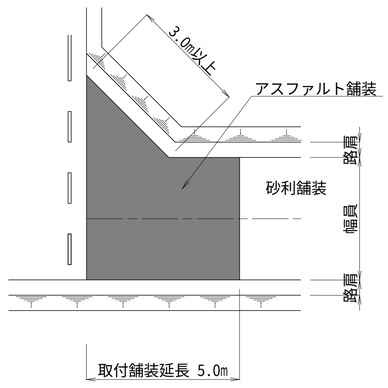


道路交差部（隅切り）
S=1/100

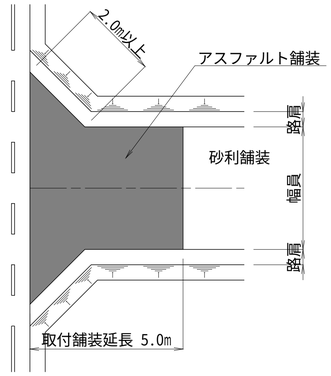


・交差点、屈曲箇所、既設道路の接続部は隅切りを設ける。
・隅切り長は2.0m以上（片側のみの場合は3.0m以上）とする。
・接続道路に対して、角度が60度以下は隅切りを1.5m以上とする。
・接続道路に対して、角度が120度以上の場合は隅切り不要とする。

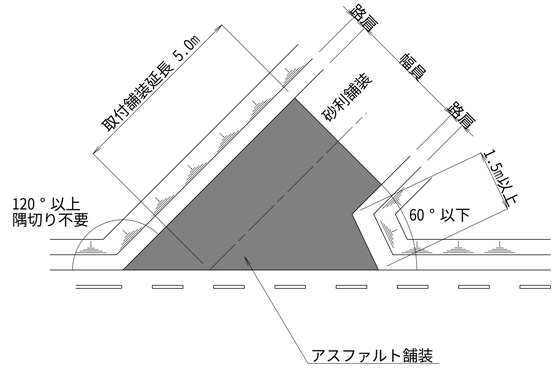
道路交差部（片側取付舗装(1)）
S=1/100



道路交差部（両側取付舗装）
S=1/100



道路交差部（片側取付舗装(2)）
S=1/100



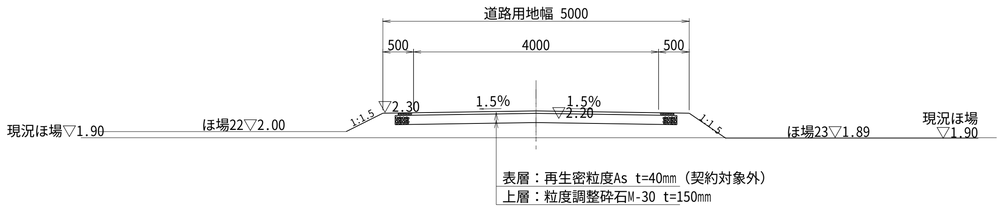
補足事項
1．路面から標高差2m以上連続する場合は、
　転落防止柵等の設置を検討する。
2．地区外道路の取付構造等は道路協議による。
3．砂利舗装は埋込式のうえ転圧を行う。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	道路工　標準図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	19-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

道路工　標準図(2)

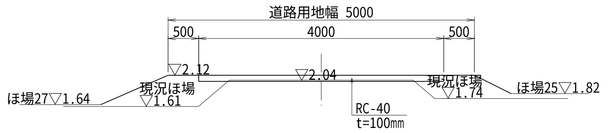
S=1:50

2-22 Ⅰ型
NO.1 付近



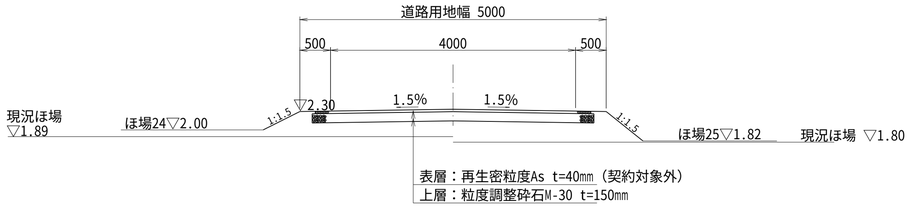
DL=0.00m

2-24 Ⅱ型



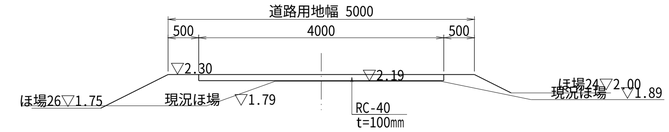
DL=0.00m

2-22 Ⅰ型
NO.3 付近



DL=0.00m

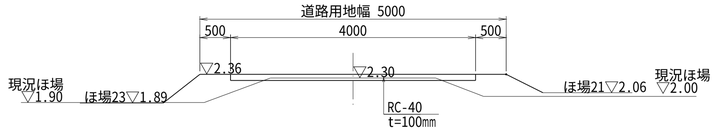
2-25 Ⅱ型



DL=0.00m

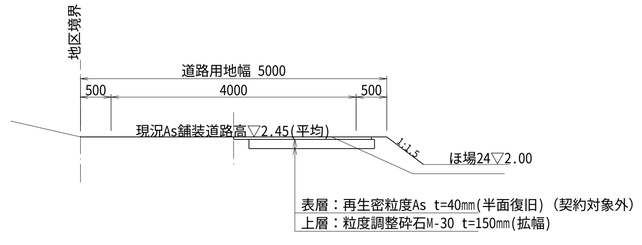
2-23 Ⅱ型

2-23 Ⅱ型



DL=0.00m

2-26 Ⅰ型



DL=0.00m

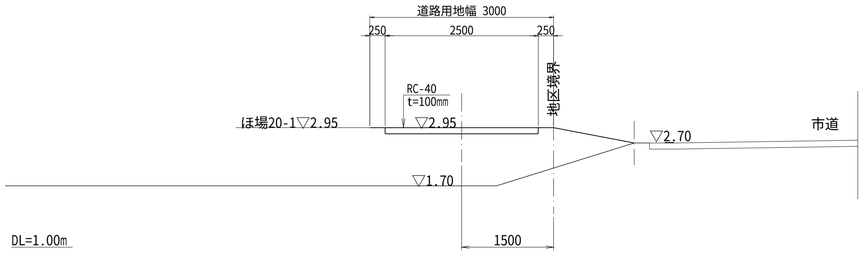
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	道路工　標準図		
年月日			
縮尺	1:50	図面番号	19-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

道路工　標準図(3)

S=1:50

2-21 III型

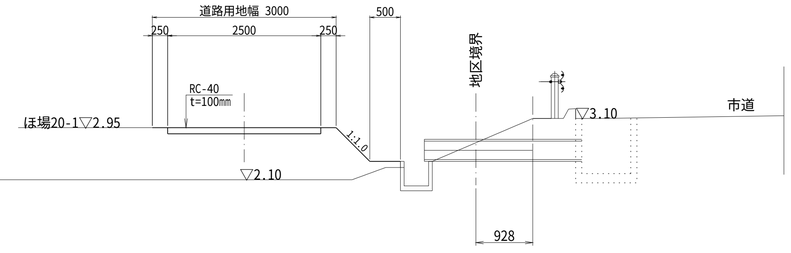
NO.0



DL=1.00m

2-21 III型

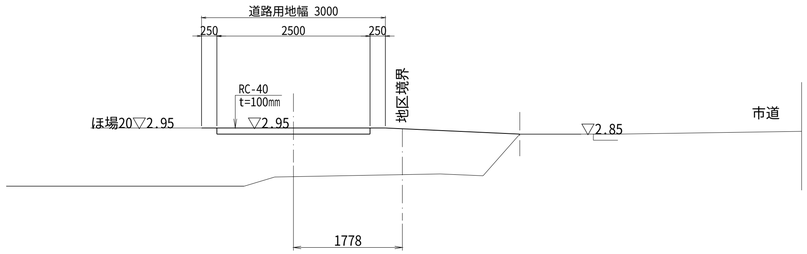
NO.1+35.58



DL=1.00m

2-21 III型

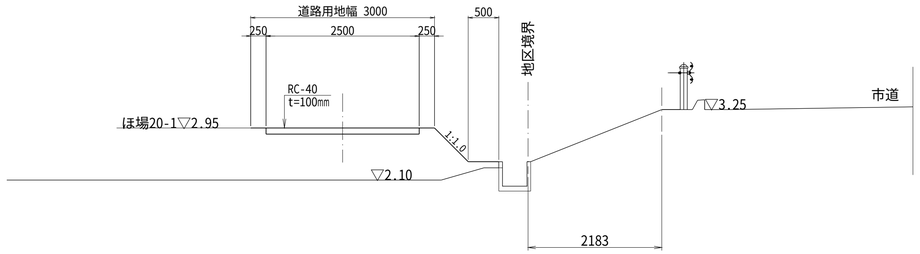
NO.0+21.9



DL=1.00m

2-21 III型

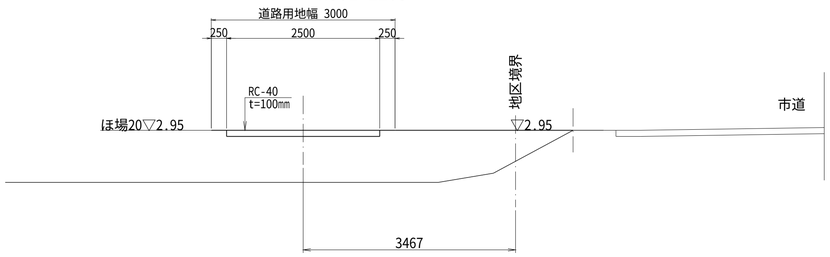
NO.2+2.21



DL=1.00m

2-21 III型

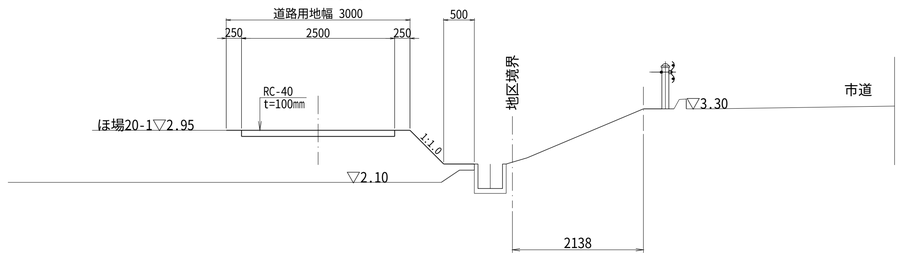
NO.1+21.5



DL=1.00m

2-21 III型

NO.2+15.67



DL=1.00m

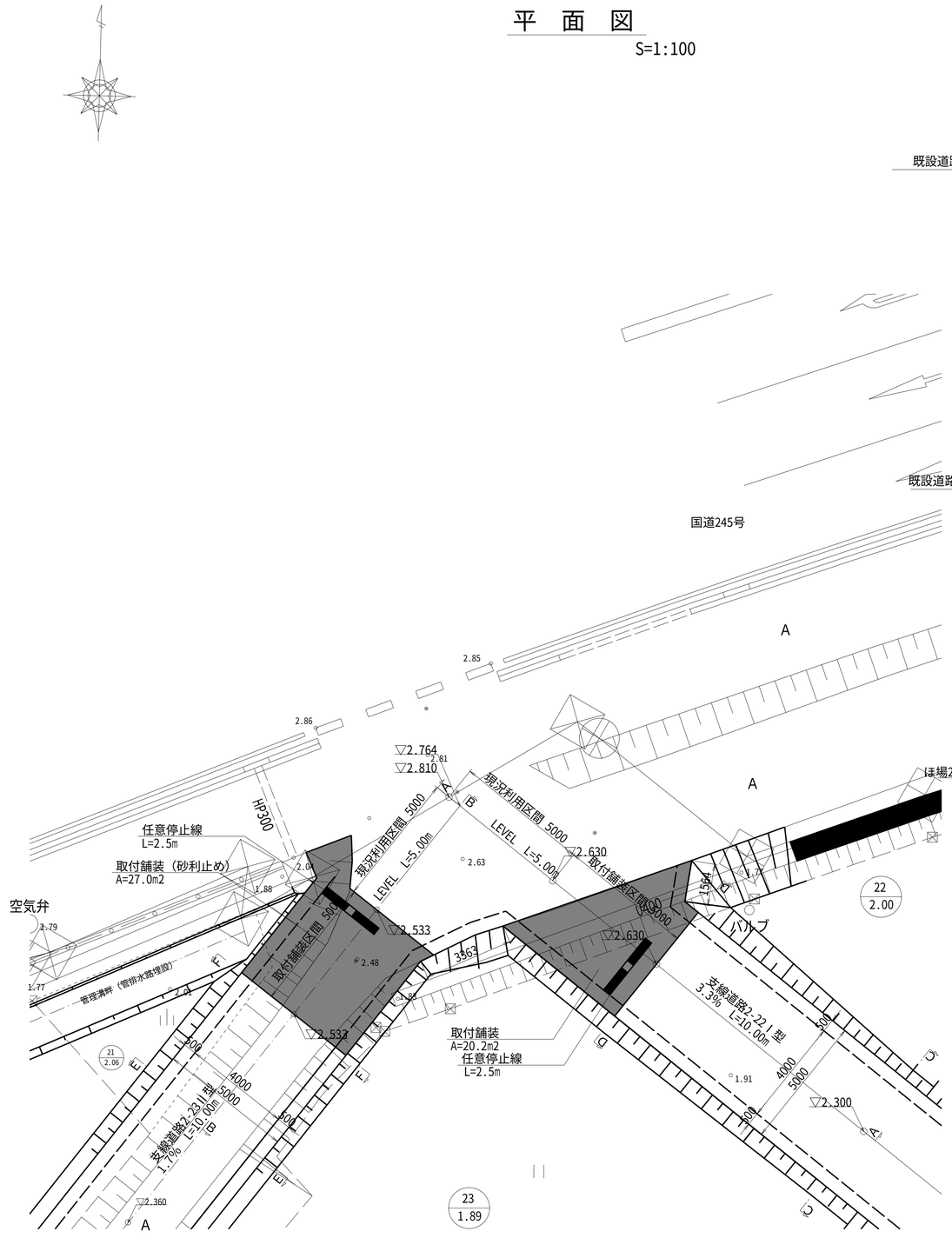
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	道路工　標準図		
年月日			
縮尺	1:50	図面番号	19-3
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

道路工　道路取付詳細図(1)

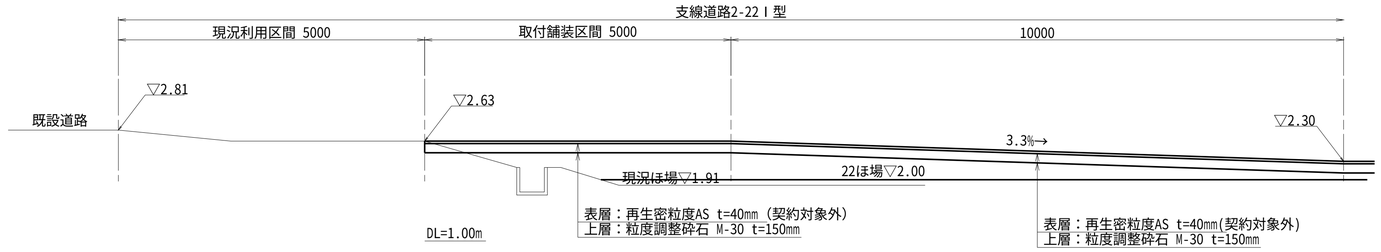
(支線道路2-22Ⅰ型)　　S=1:50

平　面　図

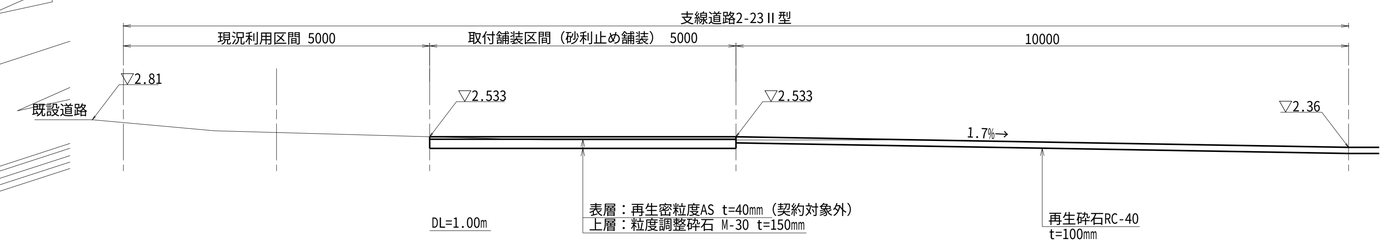
S=1:100



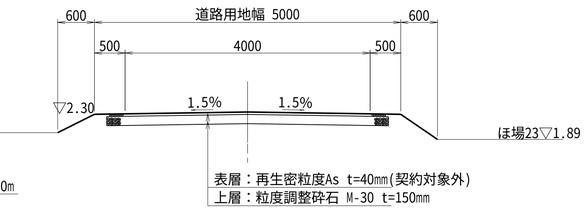
縦断図(Ａ－Ａ)



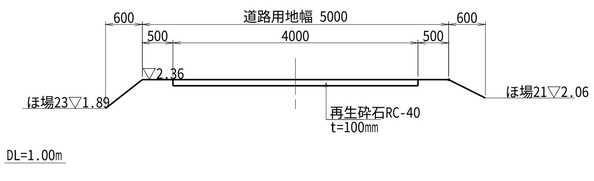
縦断図(Ｂ－Ｂ)



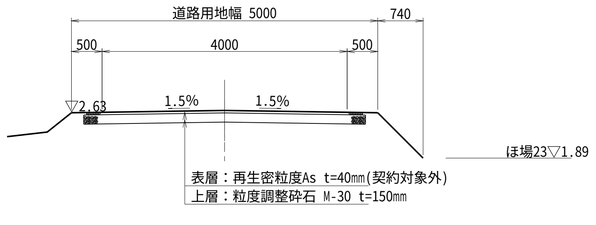
道路標準断面図(Ｃ－Ｃ)



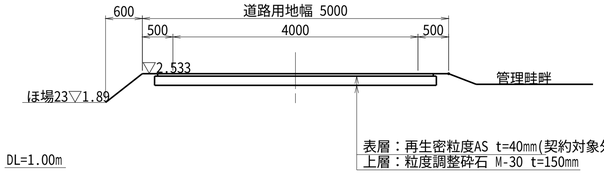
道路標準断面図(Ｅ－Ｅ)



取付道路舗装断面図(Ｄ－Ｄ)



取付道路舗装断面図(Ｆ－Ｆ)



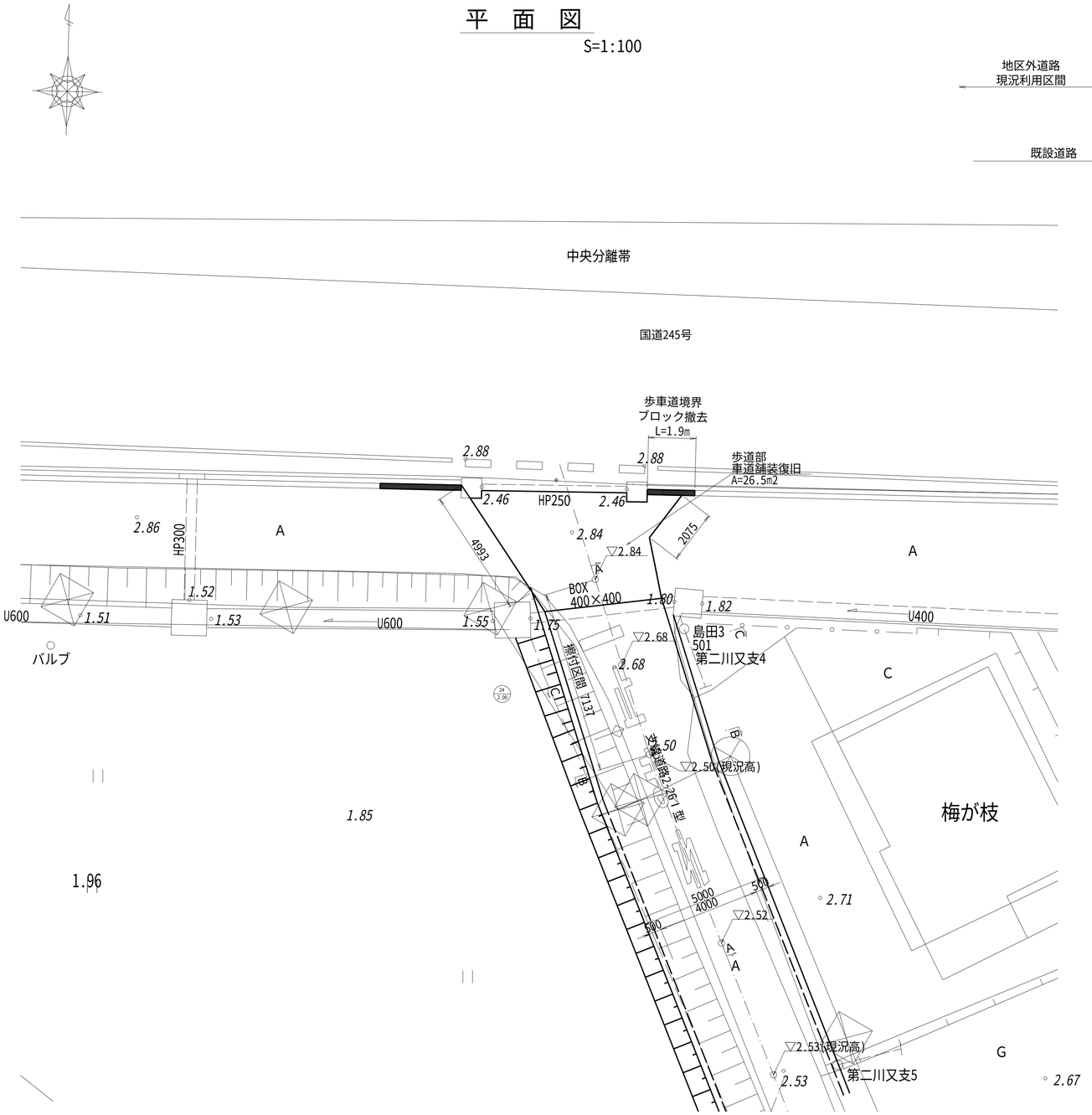
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	道路工　道路取付詳細図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	20-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

道路工　道路取付詳細図(2)

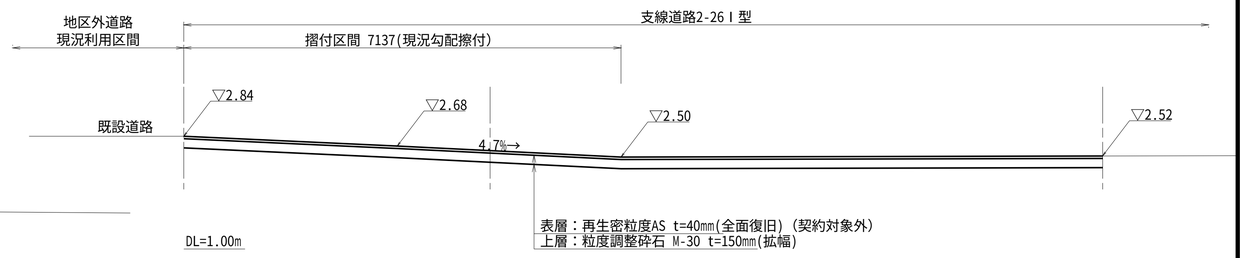
（支線道路2-26Ｉ型）　S=1:50

平　面　図

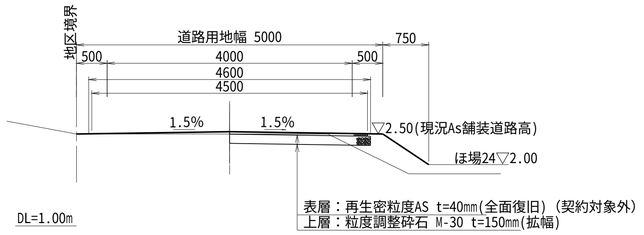
S=1:100



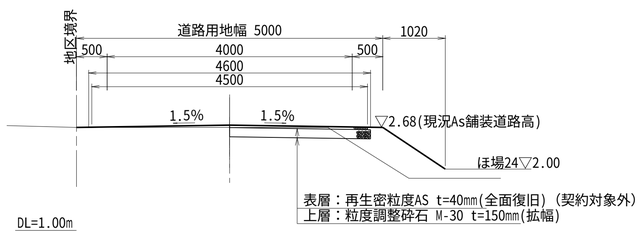
縦断図(A-A)



道路標準断面図(B-B)



擦付区間断面図(C-C)



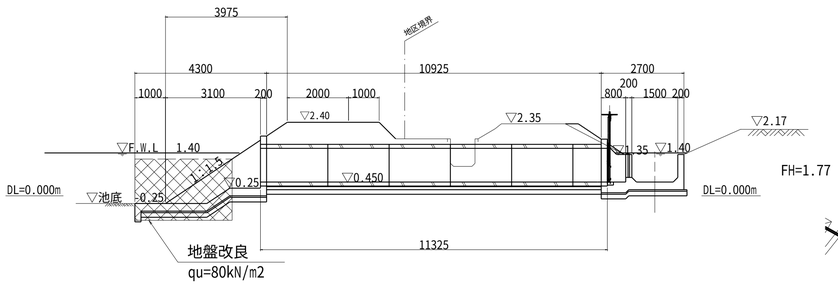
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	道路工　道路取付詳細図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	20-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

調整池工　一般図

S=1:250

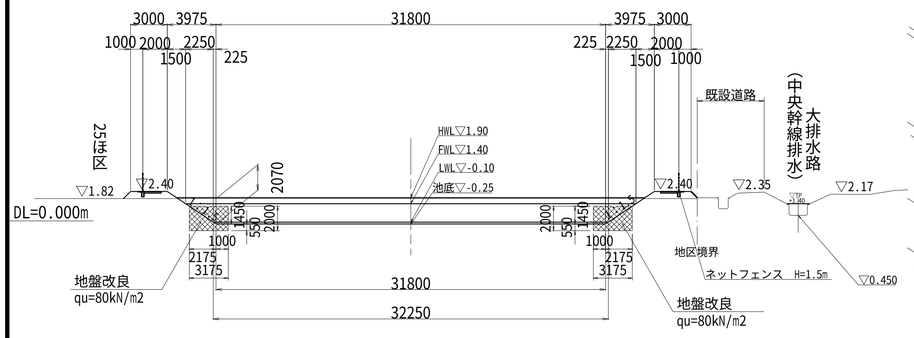
C - C 断面

s=1/100



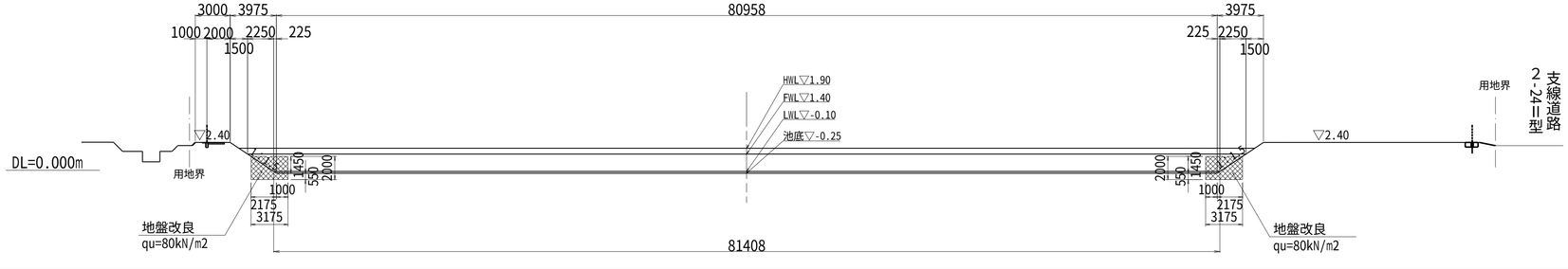
B - B 断面

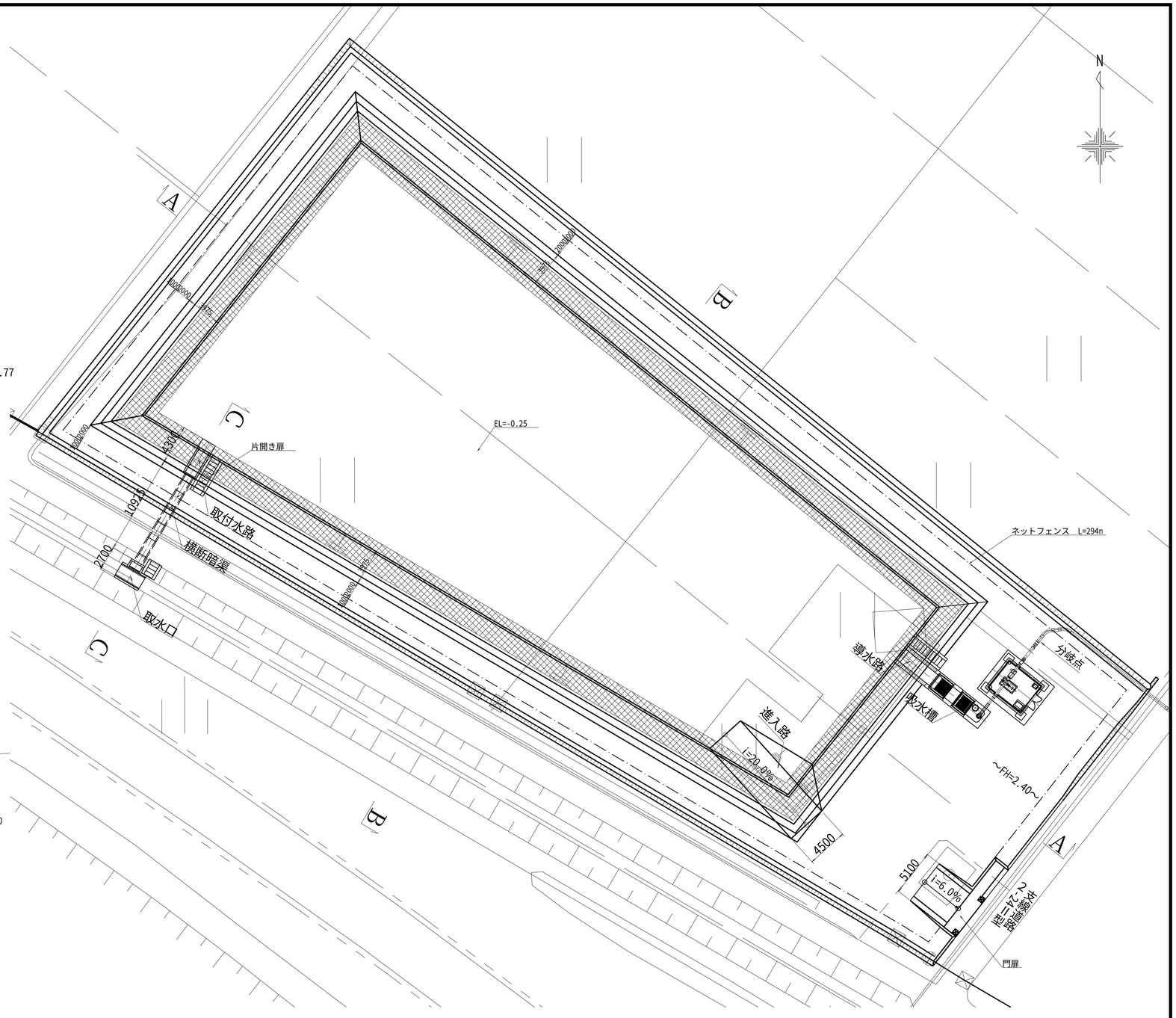
s=1/250



A - A 断面

s=1/250



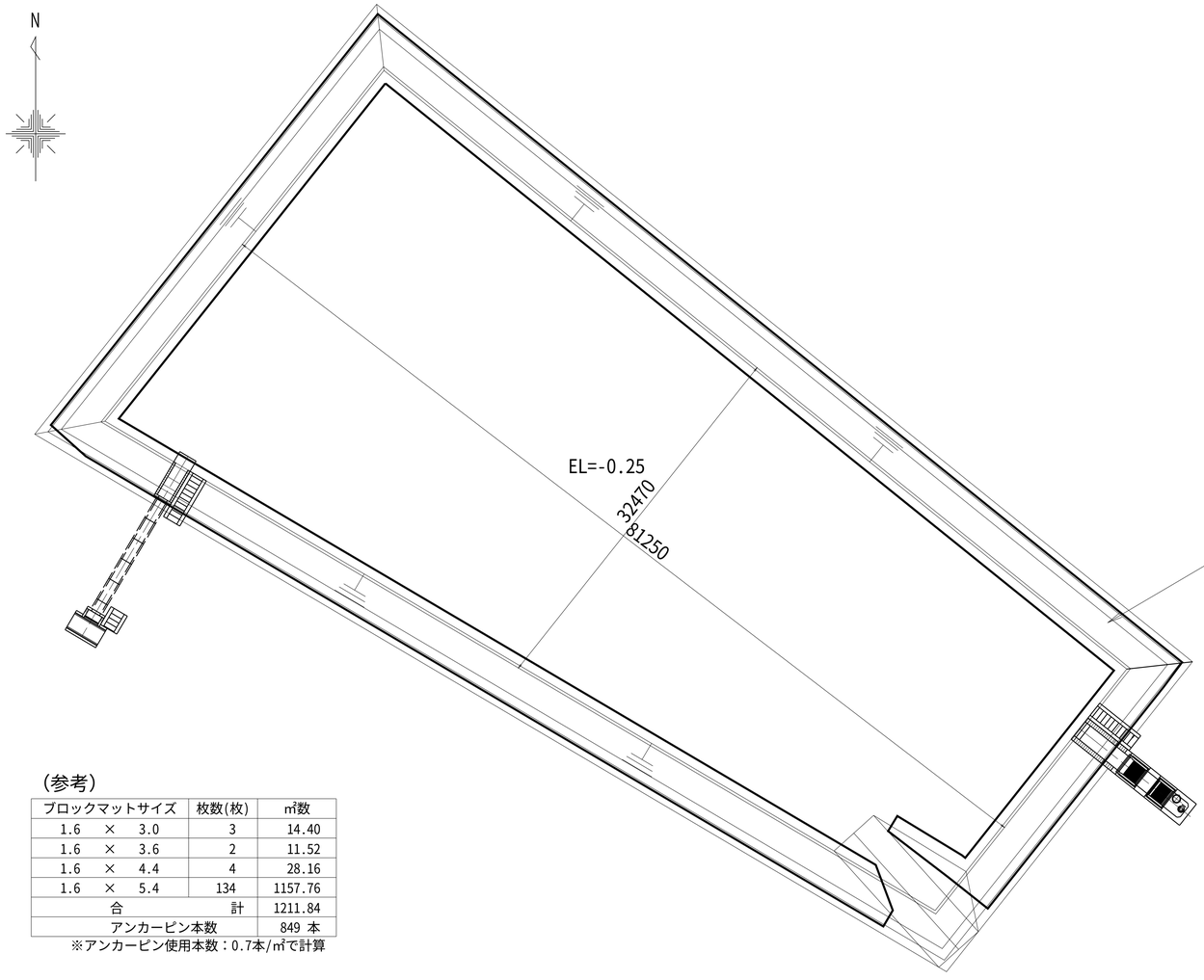

N
A
B
C
C
B
A
1000
1000
1000

調整池工　護岸工一般図

篠平調整池

平面図

S=1:250



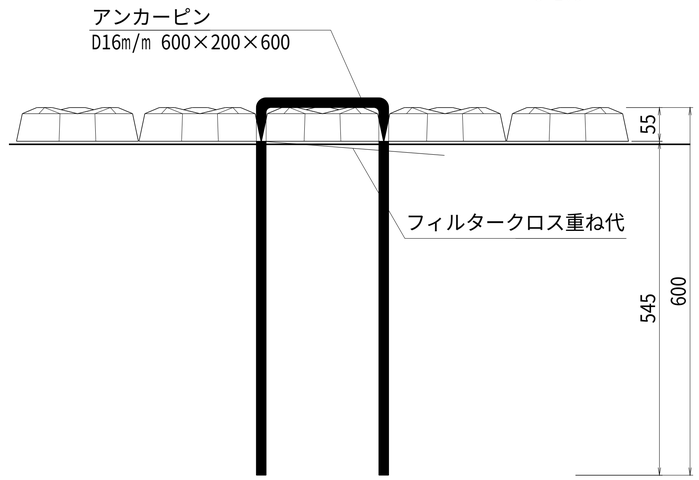
（参考）

ブロックマットサイズ			枚数(枚)	㎡数
1.6	×	3.0	3	14.40
1.6	×	3.6	2	11.52
1.6	×	4.4	4	28.16
1.6	×	5.4	134	1157.76
合		計		1211.84
アンカーピン本数				849 本

※アンカーピン使用本数：0.7本/㎡で計算

アンカーピン詳細図（参考）

S=1:5

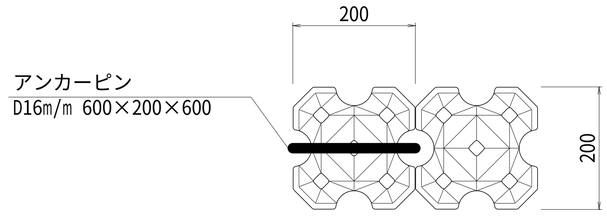


フィルタークロス規格（参考）

引張強度	2.94kN/5cm以上
伸び率	25%以下

ブロックマット製品図（参考）

S=1:5

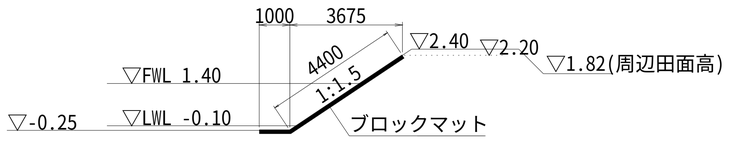


ブロック規格（参考）

ブロック寸法	200×200×100㎜
ブロック単位重量	80.0kg/m2（軽量型）
ブロック個数	25個/m2
有孔率	25～30%
圧縮強度	18N/mm2

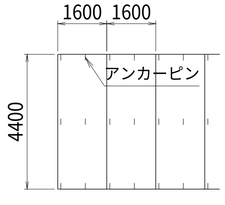
標準断面図

S=1:100



アンカーピン打設箇所(例)

S=1:100



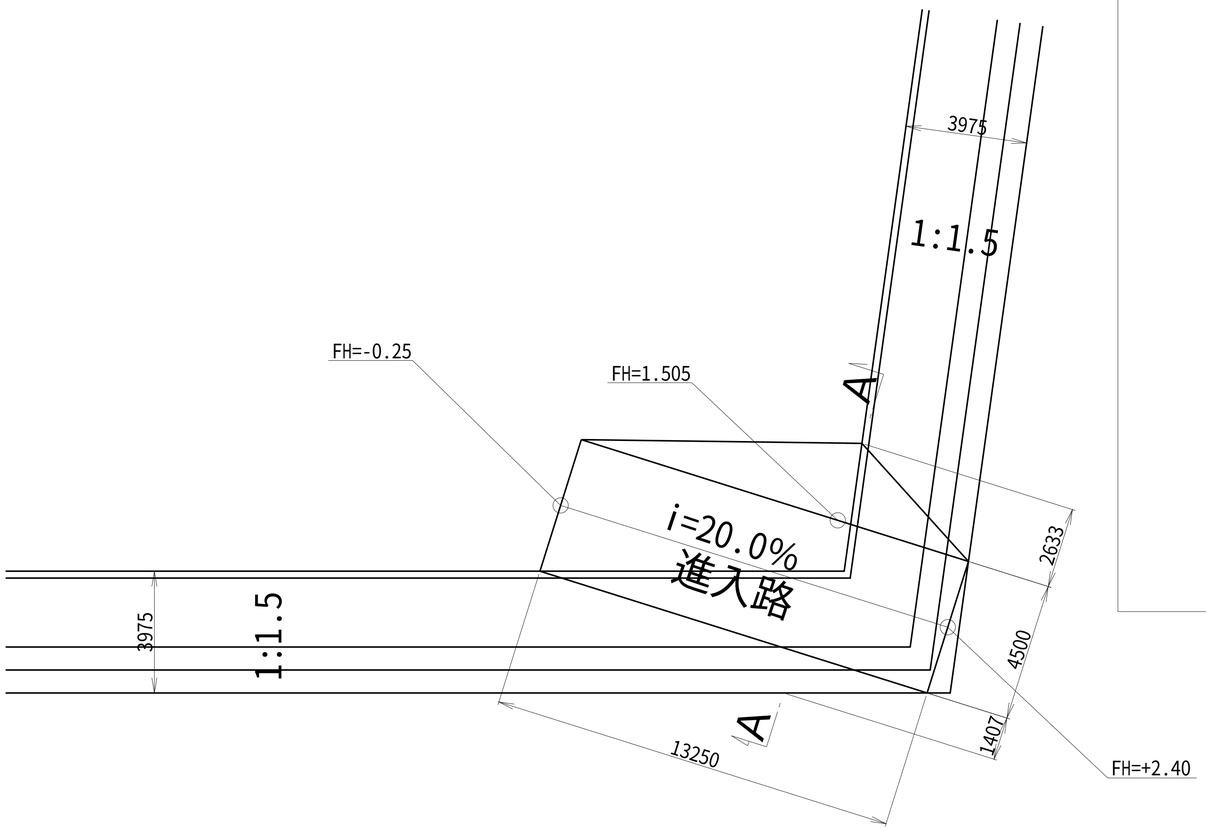
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	調整池工　護岸工一般図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	22
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

調整池工　進入路工一般図

篠平調整池

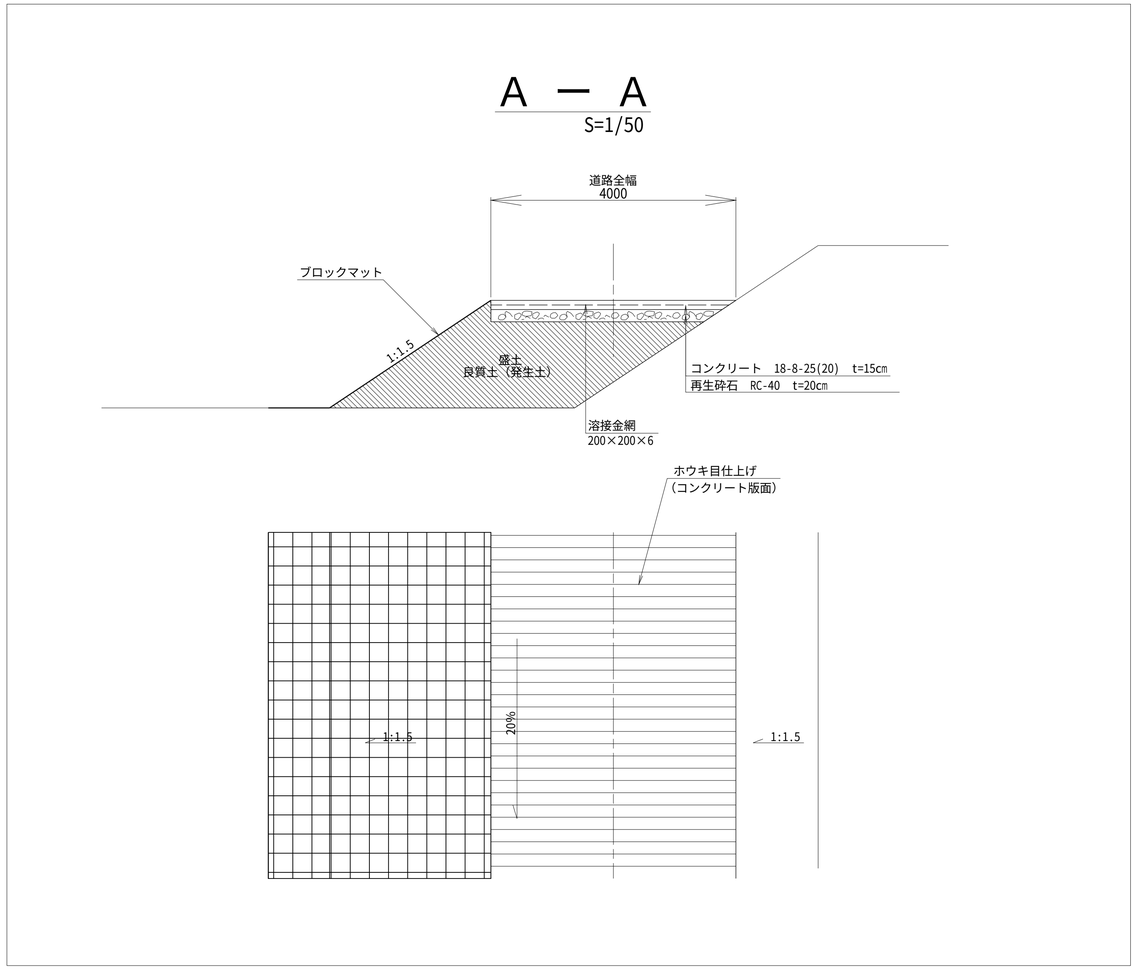
平面図

S=1/100



A － A

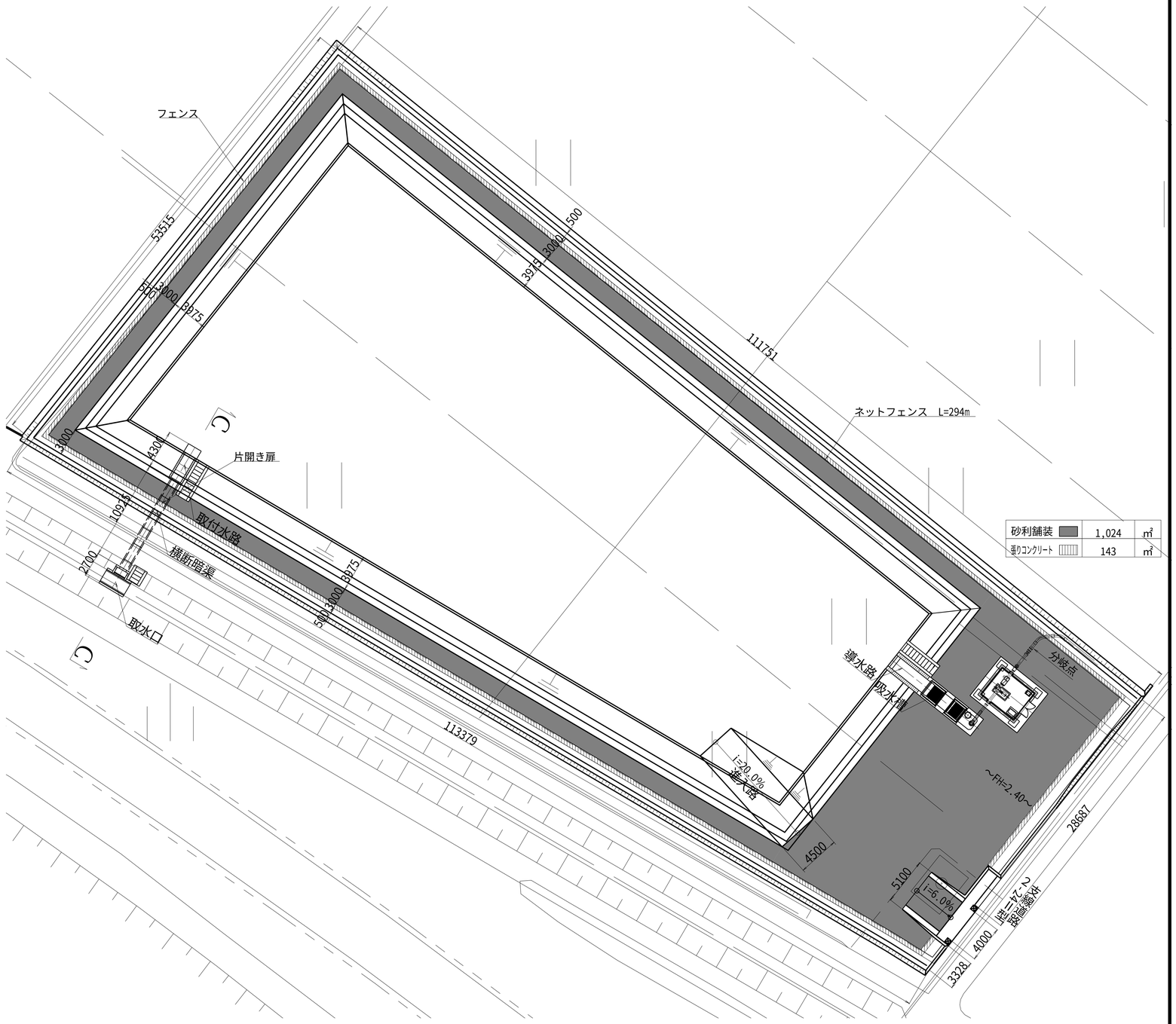
S=1/50



工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	調整池工　進入路工一般図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	23
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

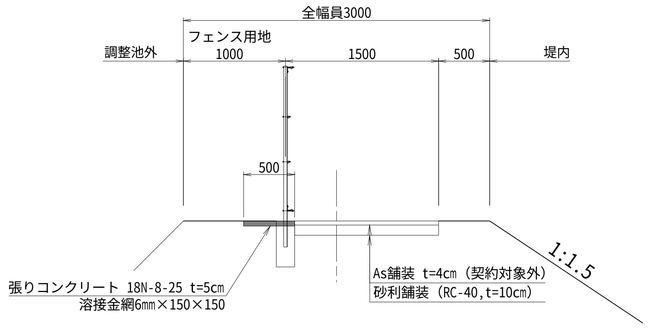
調整池工　場内整備工一般図

S=1:250



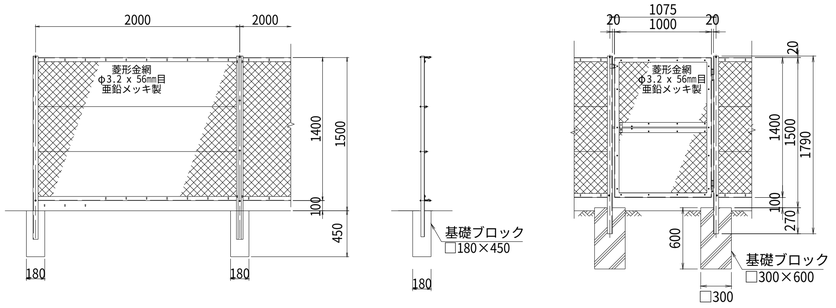
場内道路標準断面図

S=1/30



ネットフェンス一般図（参考）

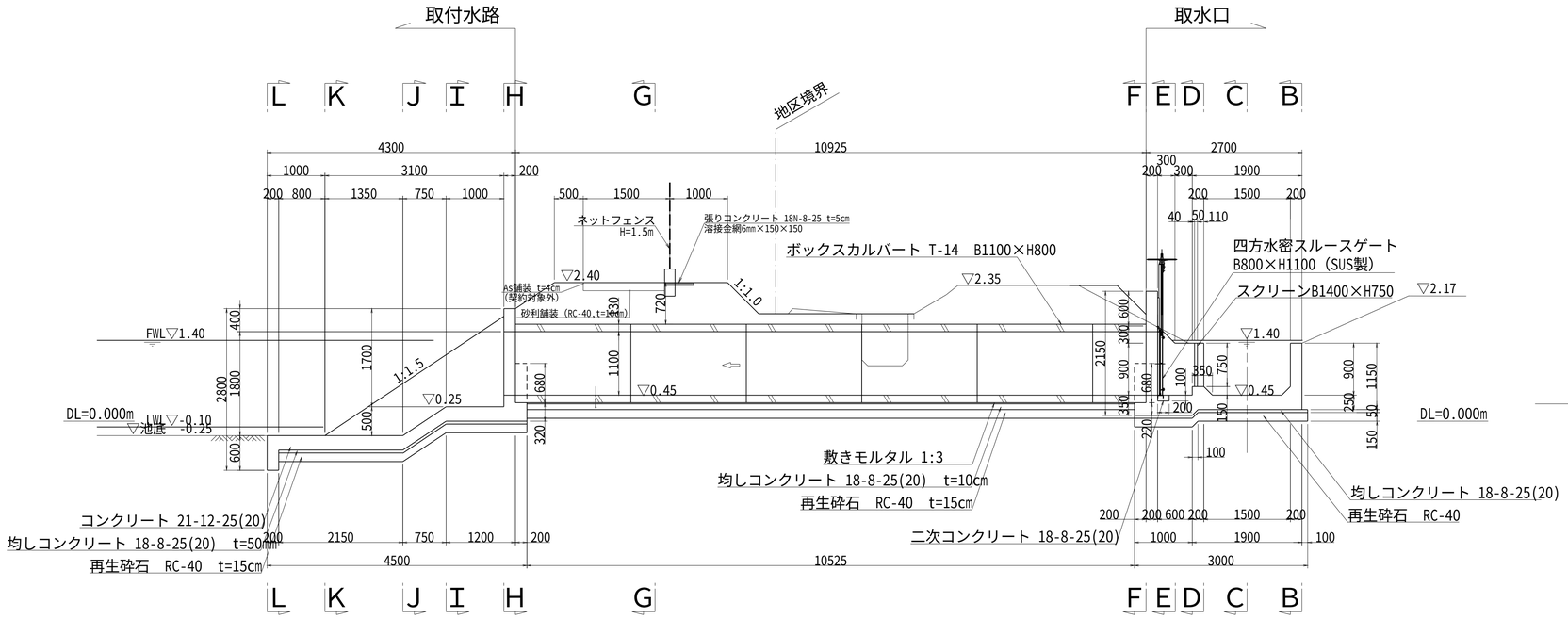
S=1/30



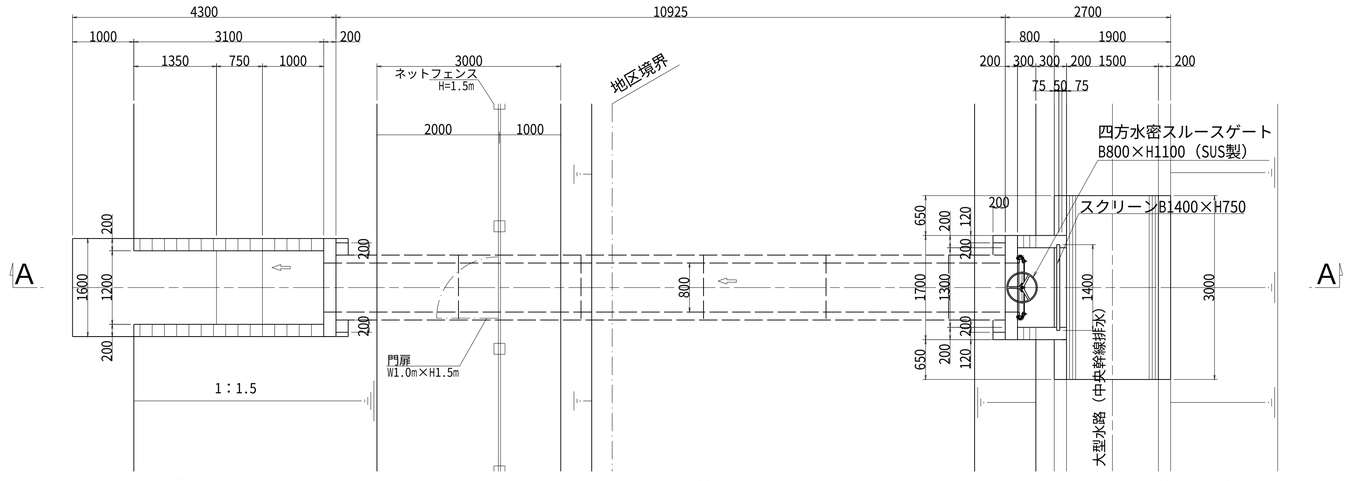
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	調整池工　場内整備工一般図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	24
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

調整池工　取水口・取付水路構造図(1)

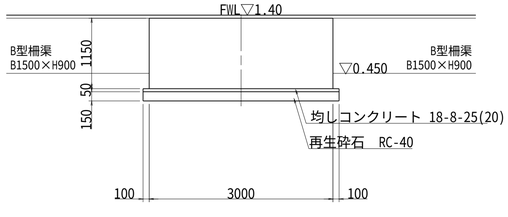
S=1/50



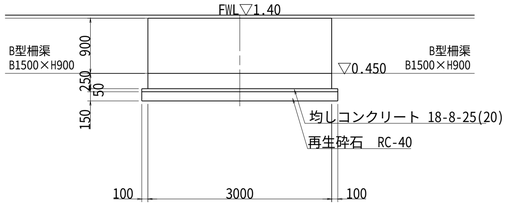
平面図



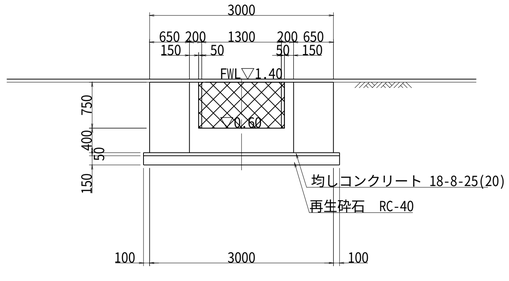
B － B

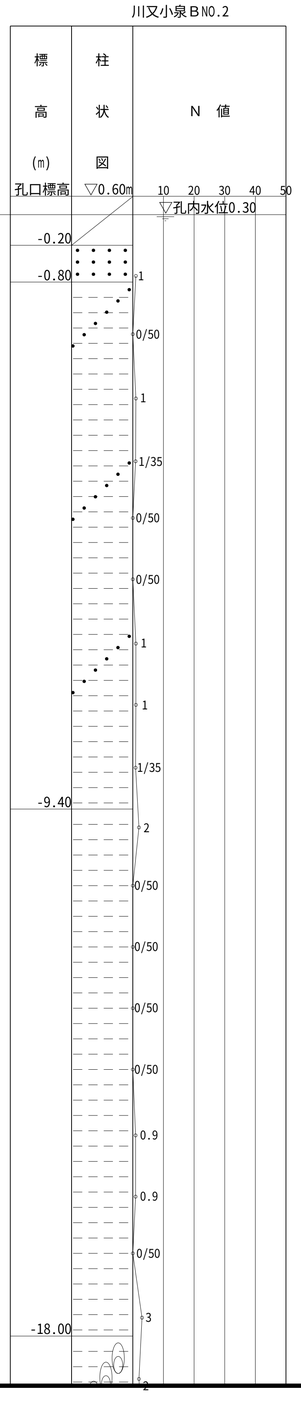


C － C

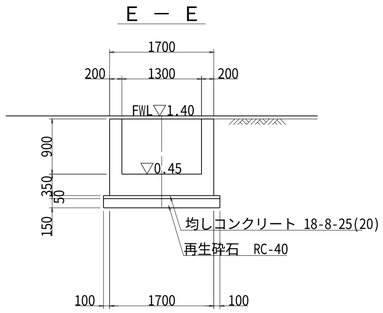


D － D

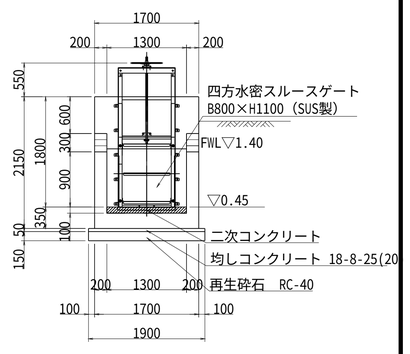




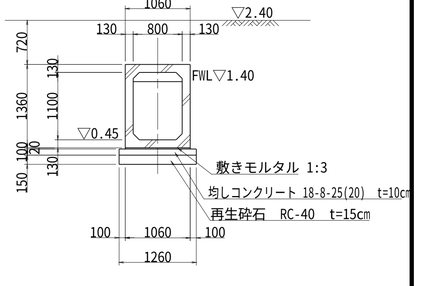
E － E



F － F



G － G

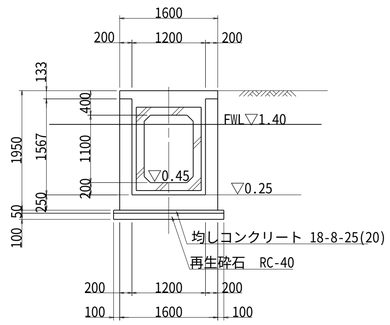


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	調整池工　取水口・取付水路構造図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	25-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

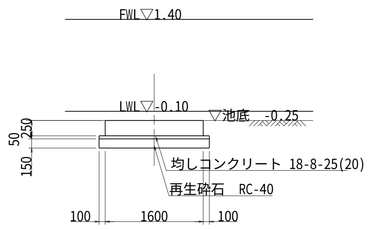
調整池工　取水口・取付水路構造図(2)

S=1/50

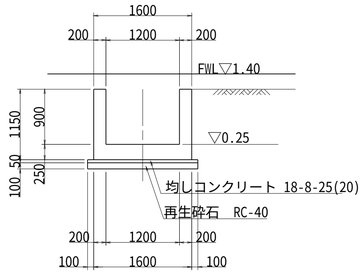
Ｈ － Ｈ



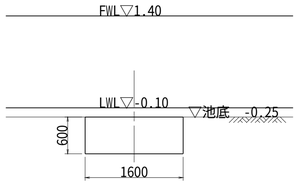
Ｋ － Ｋ



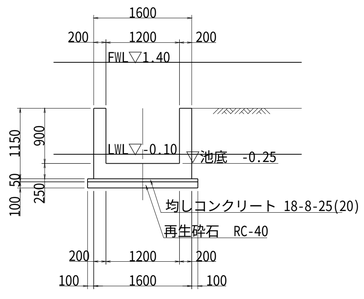
Ｉ － Ｉ



Ｌ － Ｌ



Ｊ － Ｊ

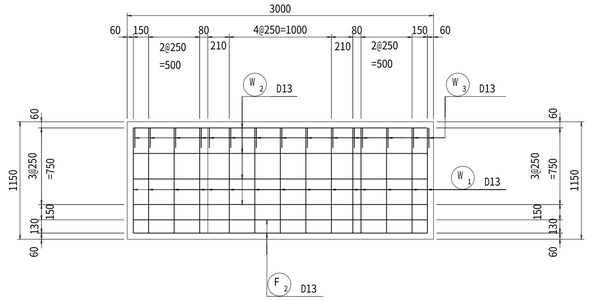


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	調整池工　取水口・取付水路構造図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	25-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

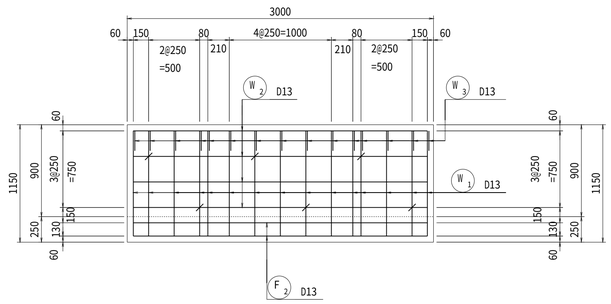
調整池工　取水口配筋図(1)

S=1:30

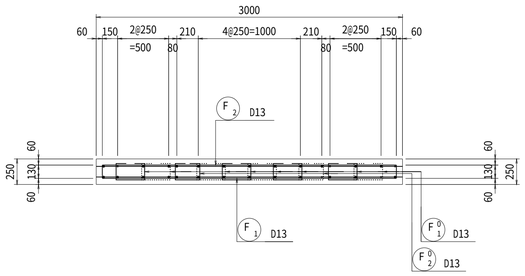
1 - 1



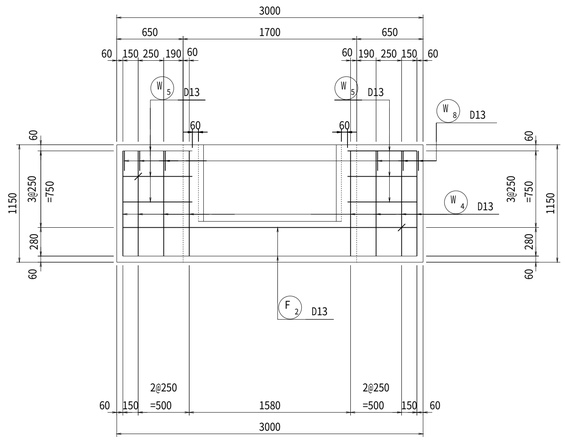
2 - 2



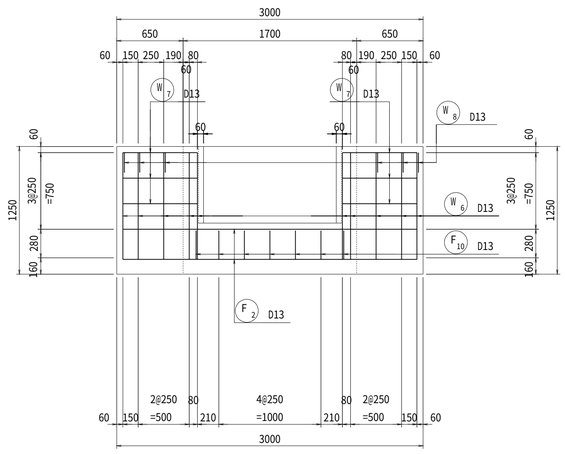
3 - 3



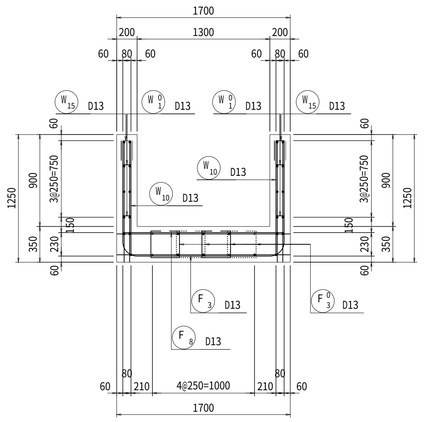
4 - 4



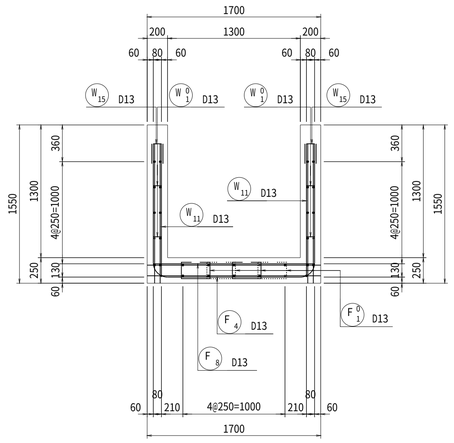
5 - 5



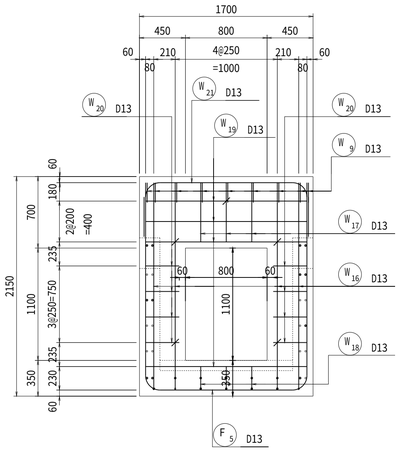
6 - 6



7 - 7

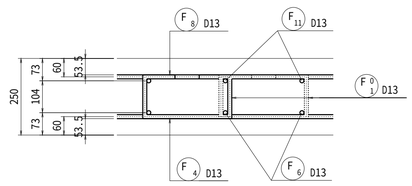


8 - 8(9 - 9)

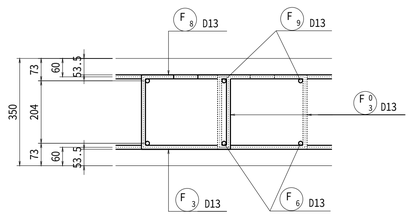


かぶり詳細図　S=1:10

底版

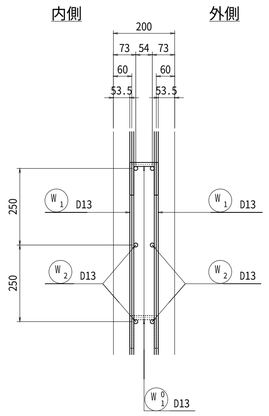


底版

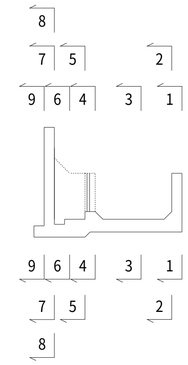


側壁

内側　　外側



位置図



1．鉄筋の材質は、D16㎜以下をSD295
　D19㎜以上をSD345とすること。

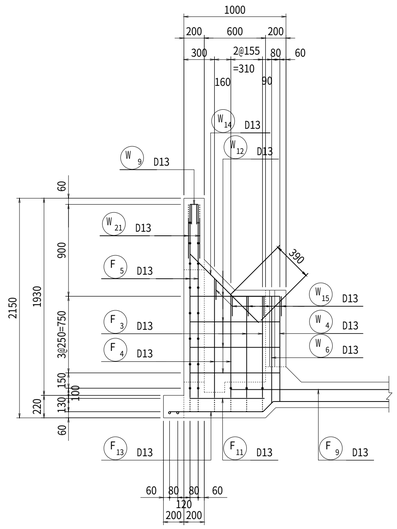
2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	調整池工　取水口配筋図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	26-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

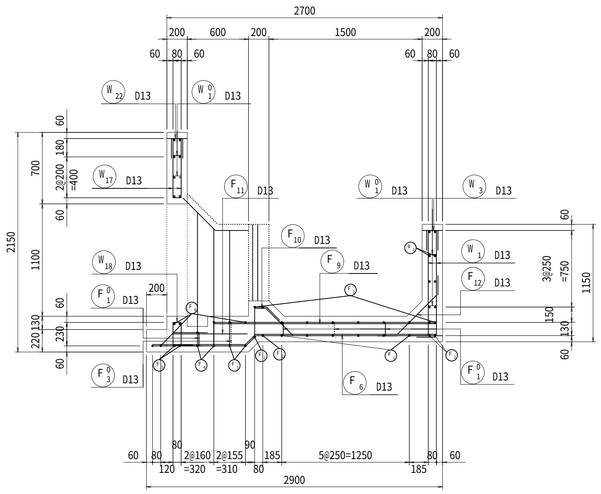
調整池工　取水口配筋図(2)

S=1:30

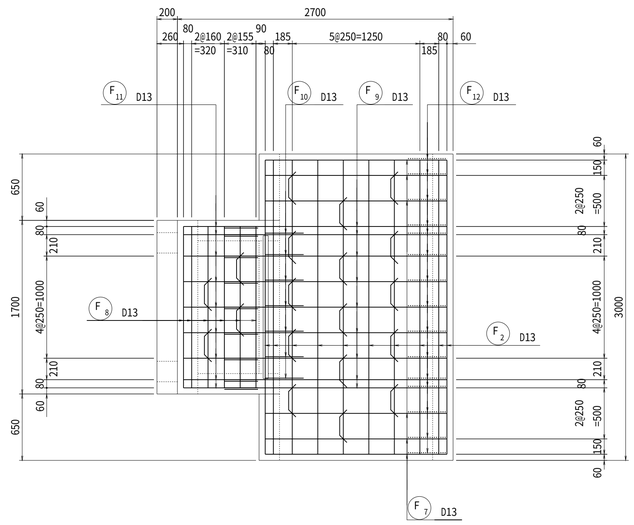
10 - 10



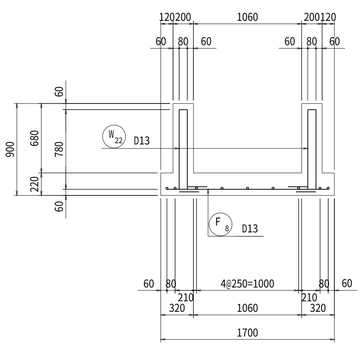
12 - 12



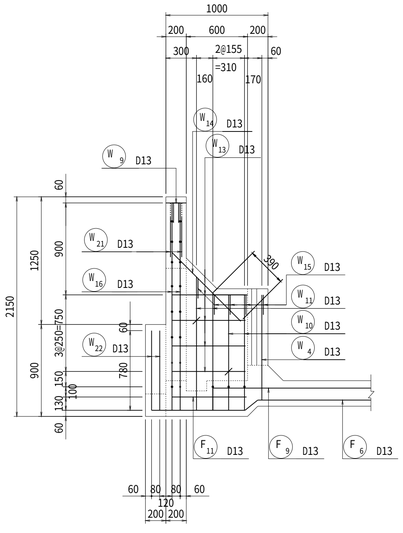
14 - 14



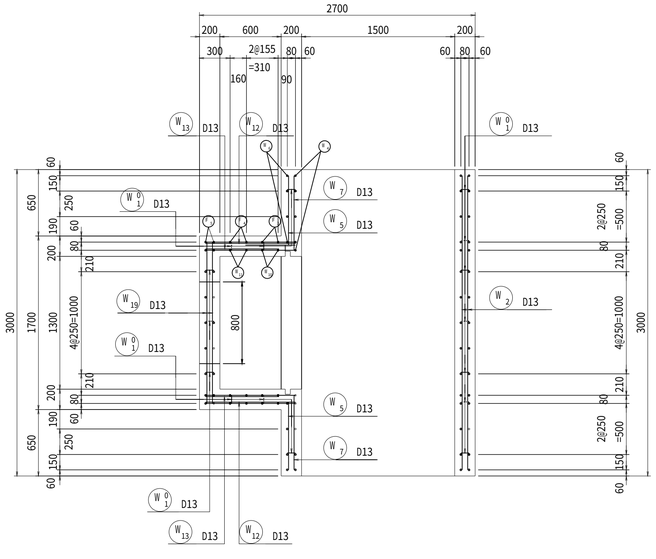
受台断面図



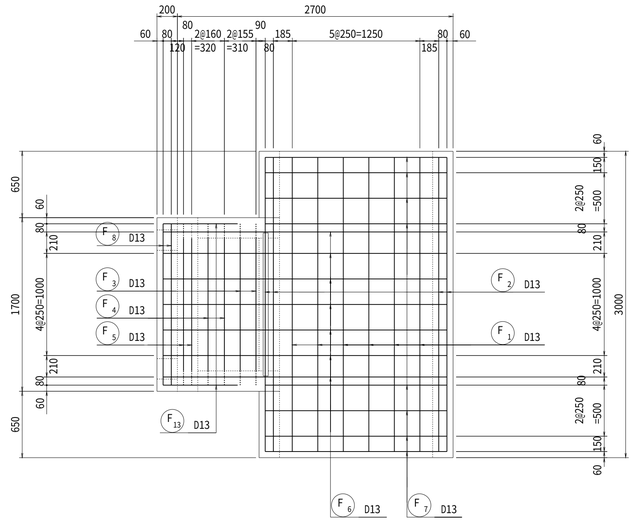
11 - 11



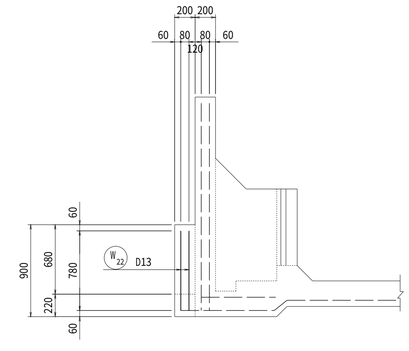
13 - 13



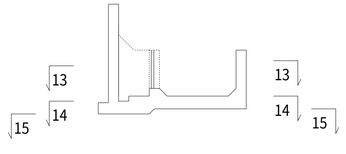
15 - 15

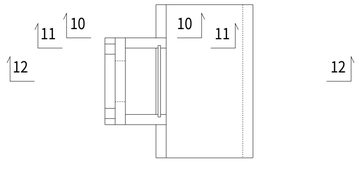


受台側面図



位置図





1．鉄筋の材質は、D16㎜以下をSD295
　D19㎜以上をSD345とすること。

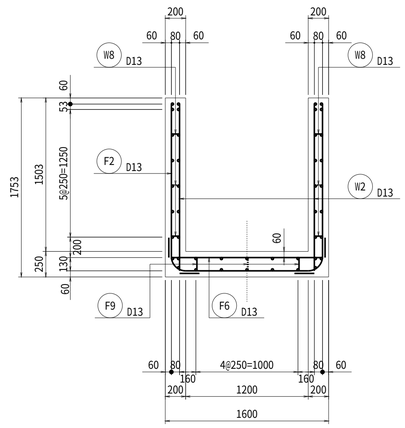
2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	調整池工　取水口配筋図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	26-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

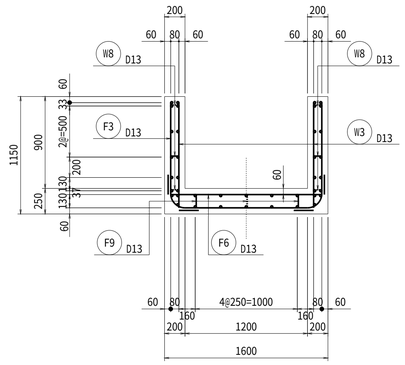
調整池工　取付水路配筋図(1)

S=1/30

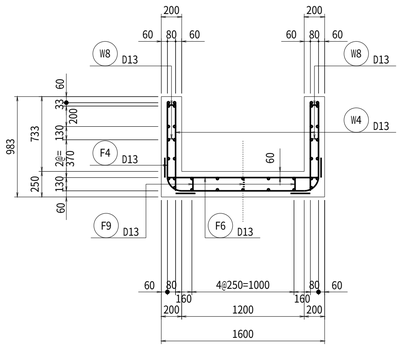
A - A



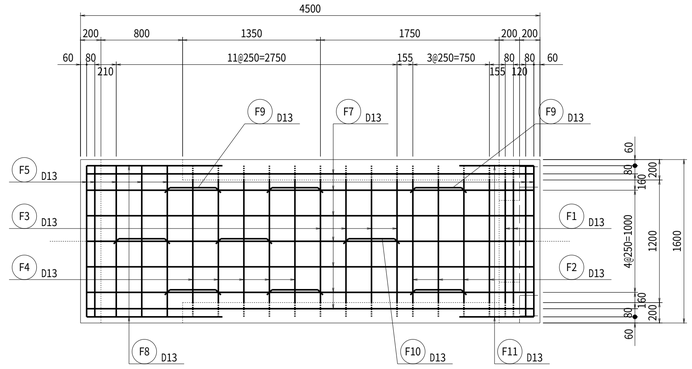
B - B



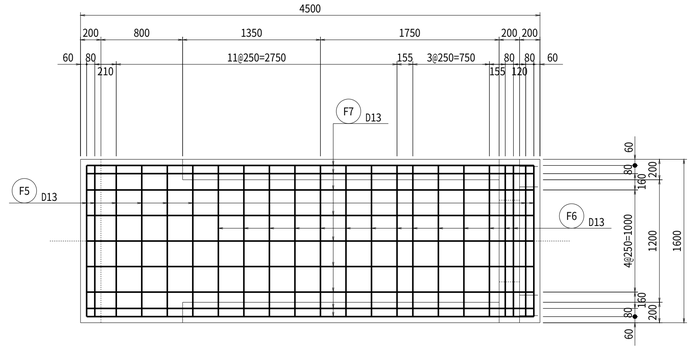
C - C



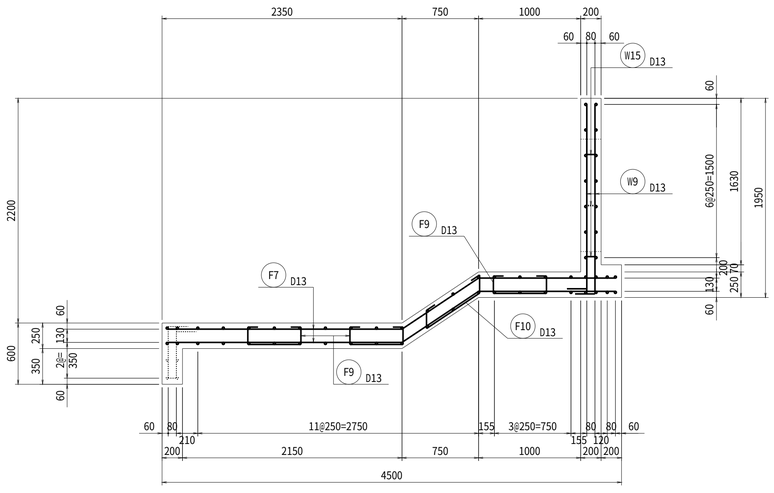
底版下面図



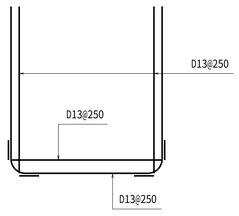
底版上面図



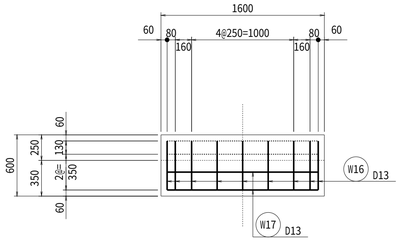
D - D



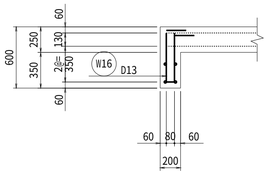
主鉄筋概要図



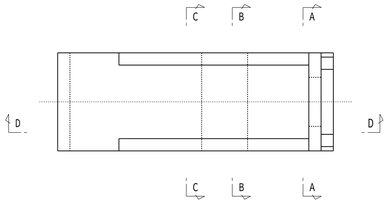
止水壁正面図



止水壁断面図



位　置　図



1．鉄筋の材質は、D16mm以下をSD295
　D19mm以上をSD345とすること。

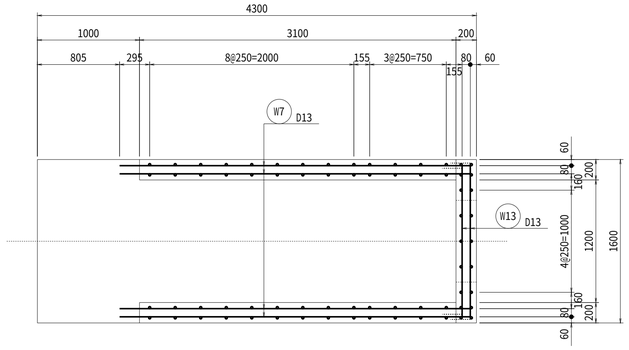
2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	調整池工　取付水路配筋図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	27-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

調整池工　取付水路配筋図(2)

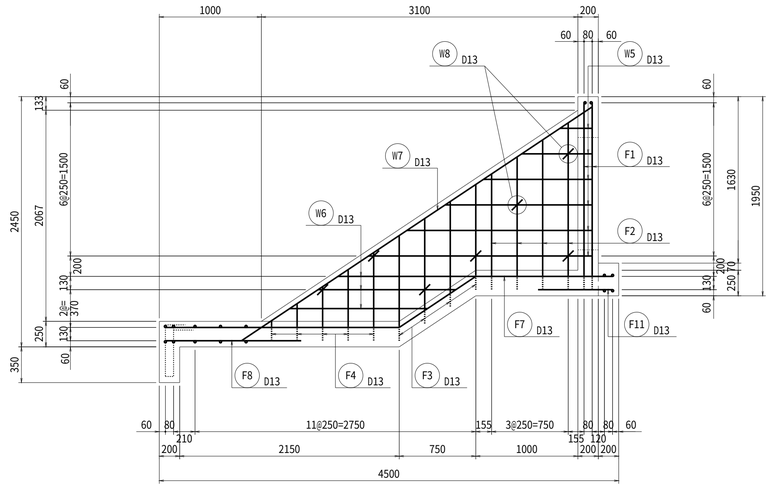
S=1/30

側壁天端平面図

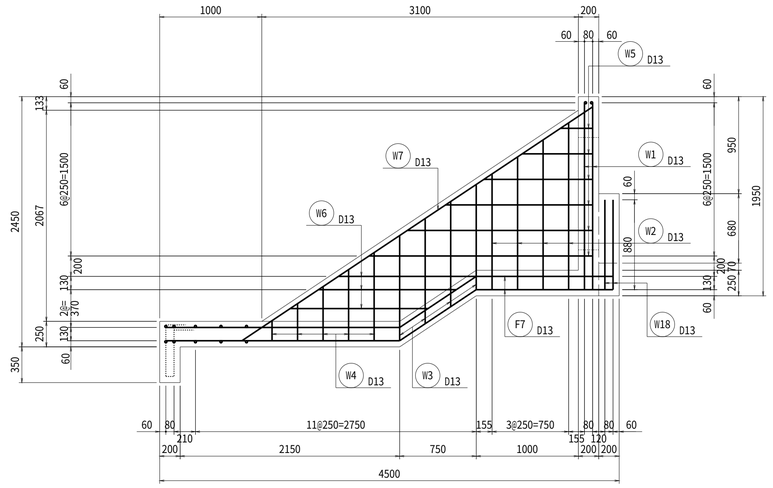


※　直角フックはW12鉄筋を表す。

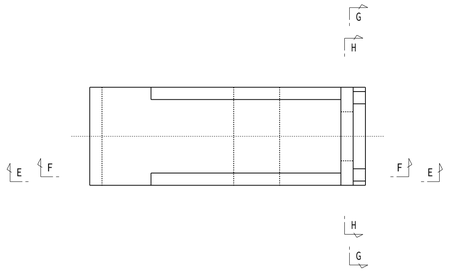
E - E



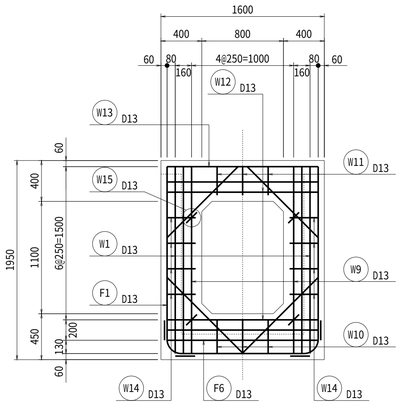
F - F



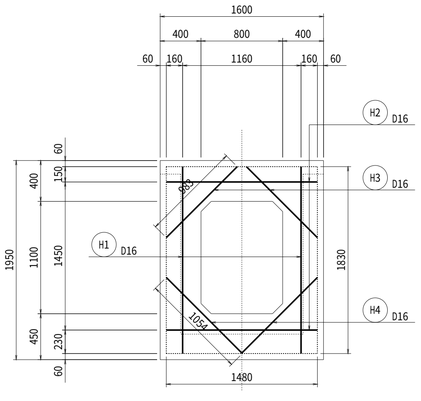
位　置　図



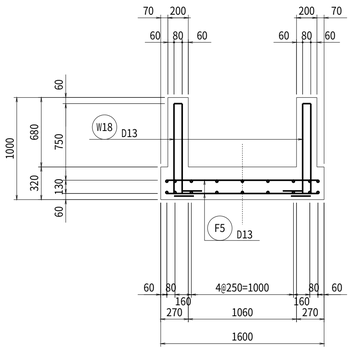
G - G
H - H



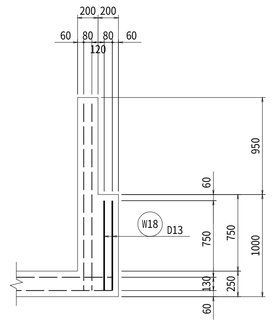
箱抜き部補強鉄筋詳細図
(G-G、H-H断面共通)



受台断面図



受台側面図



1．鉄筋の材質は、D16㎜以下をSD295
　D19㎜以上をSD345とすること。

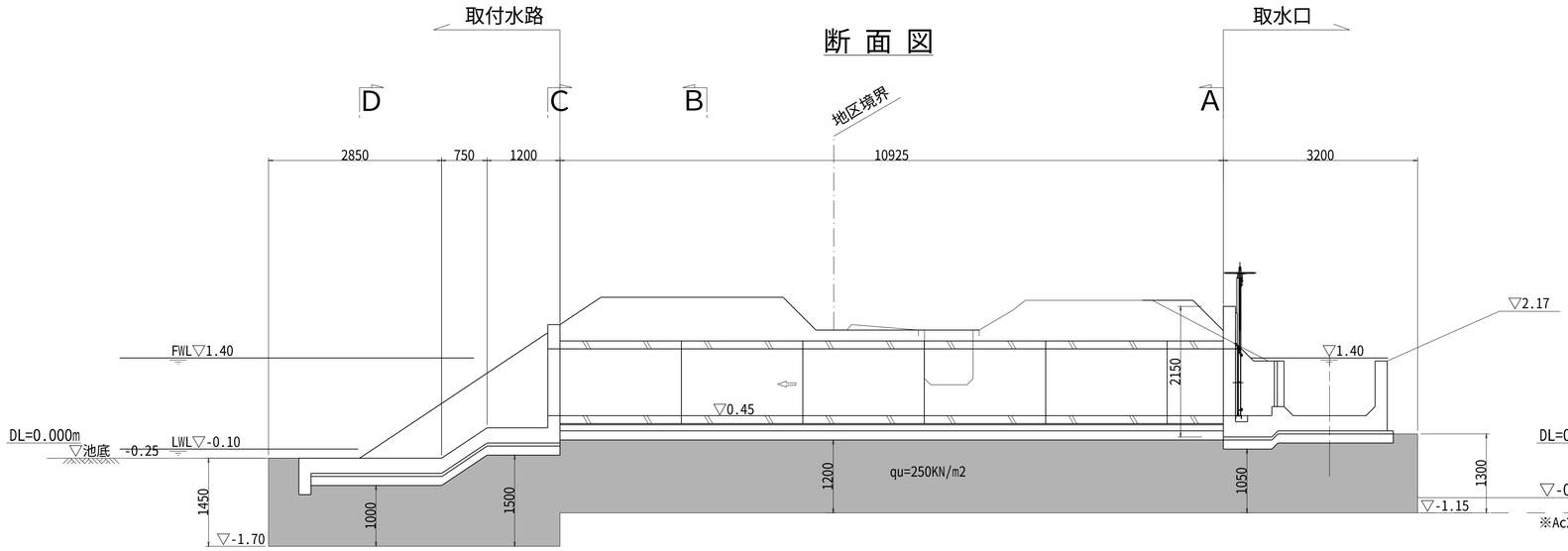
2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	調整池工　取付水路配筋図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	27-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

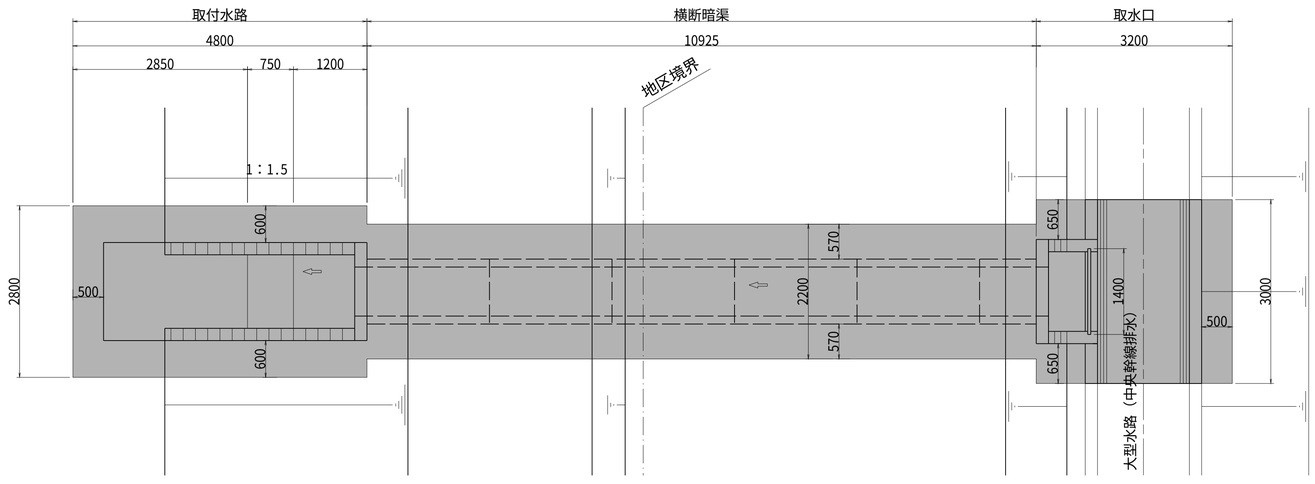
取水口・取付水路　地盤改良図

S=1/50

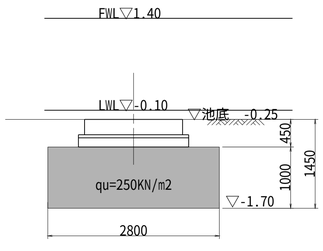
断面図



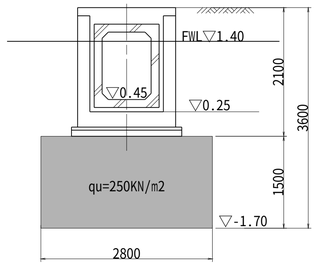
平面図

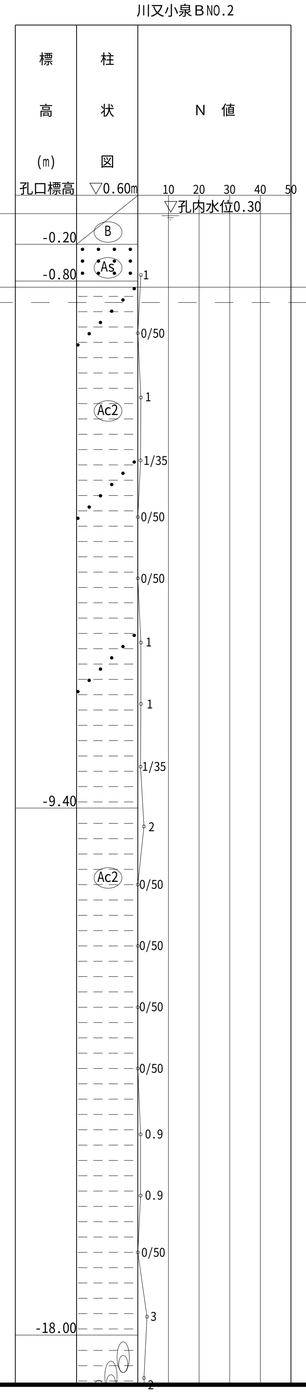


D － D
（取付水路）



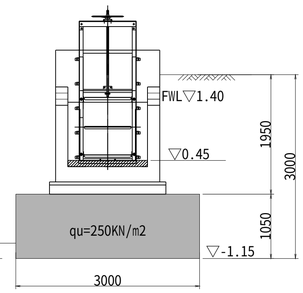
C － C
（取付水路）



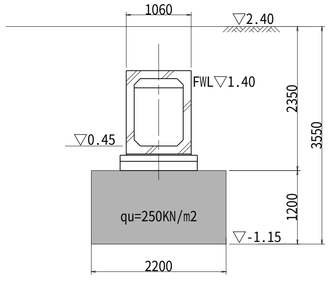


DL=0.000m
▽-0.90m
※Ac2層に貫入させる

A － A
（取水口）



B － B
（横断暗渠）



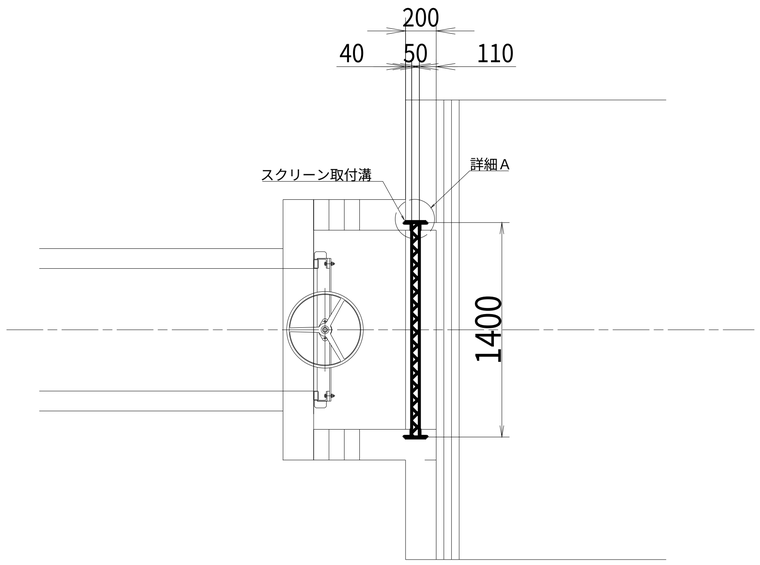
：地盤改良範囲

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	取水口・取付水路　地盤改良図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	28
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

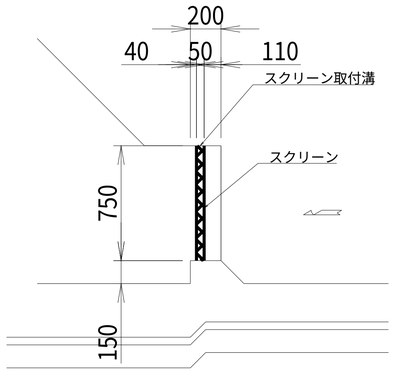
スクリーン詳細図(取水口)

篠平調整池　取水口

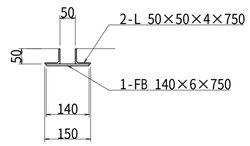
平面図　S=1/20



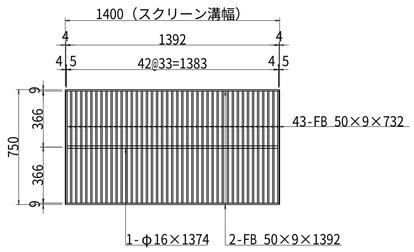
断面図　S=1/20



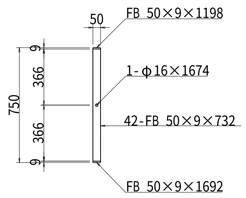
詳細図Ａ　S=1/10



正 面 図　S=1/20



断 面 図　S=1/20



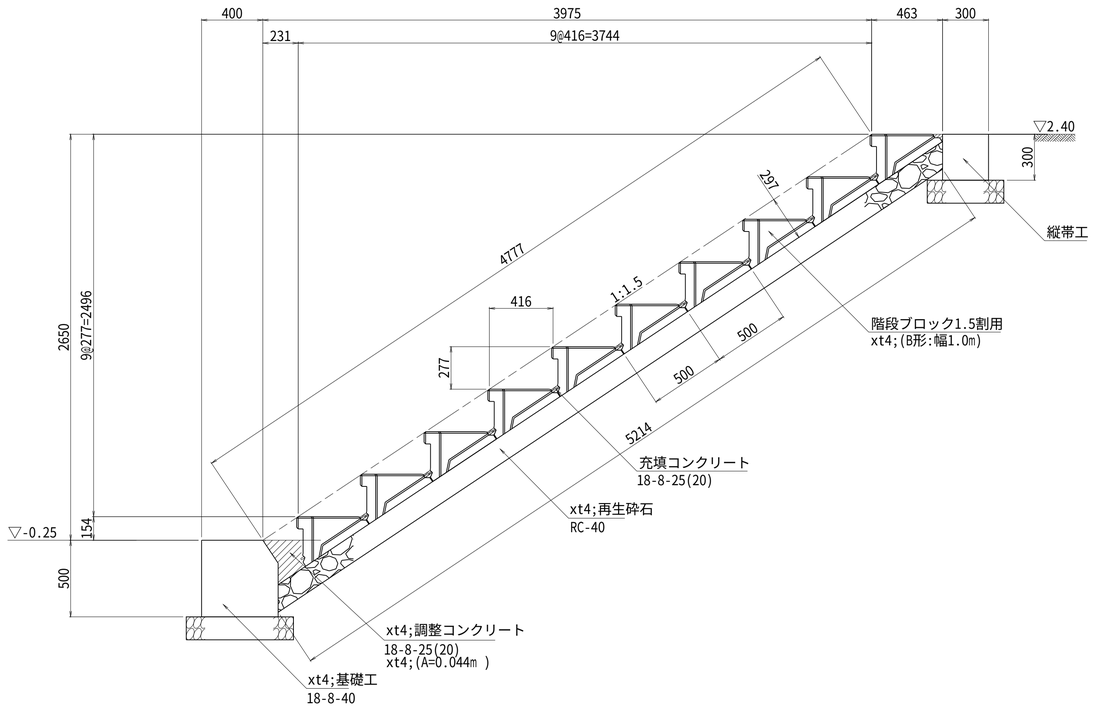
特記なき材質は、SUS304材とする。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	スクリーン詳細図（取水口）		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	29
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

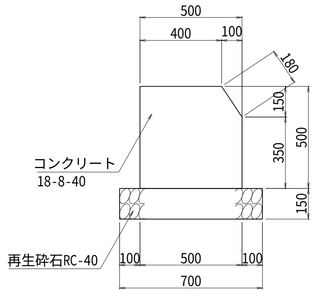
管理用階段工詳細図(1)

～篠平調整池　吸水槽・取付水路～

標準断面図（参考）　S=1:20



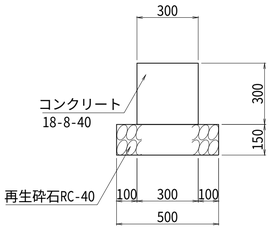
基礎工詳細図 S=1:15



基礎工：数量表　（10m当り）

名　称	規　格	単位	数 量	摘　要
コンクリート	18-8-40	m^3	2.43	
型　枠		m^2	10.30	
再 生 砕 石	RC-40 t＝150	m^2	7.00	
目 地 材	t＝10	m	0.24	

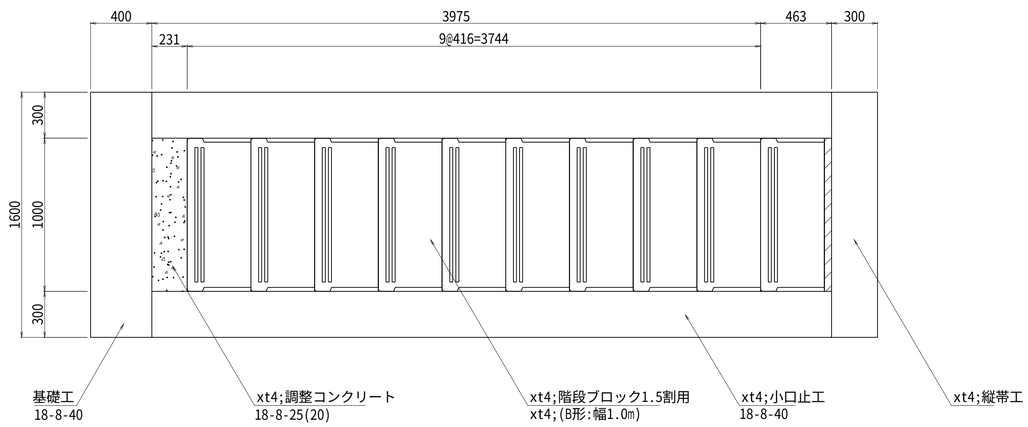
縦帯工詳細図 S=1:15



縦帯工：数量表　（10m当り）

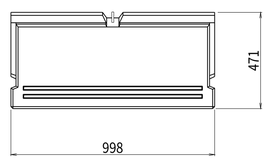
名　称	規　格	単位	数 量	摘　要
コンクリート	18-8-40	m^3	1.50	
型　枠		m^2	10.00	
再 生 砕 石	RC-40 t＝150	m^2	5.00	
目 地 材	t＝10	m^2	0.15	

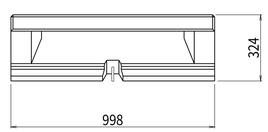
平面図（参考）　S=1:20

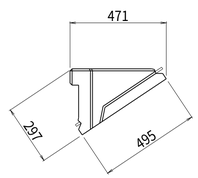


階段ブロック1.5割用 製品図（参考）S=1:15

B形（幅1.0m）







階段ブロック規格（参考）

勾　配	1：1.5
踏　面	400㎜程度
蹴　上	250㎜程度
長　さ	1000㎜程度

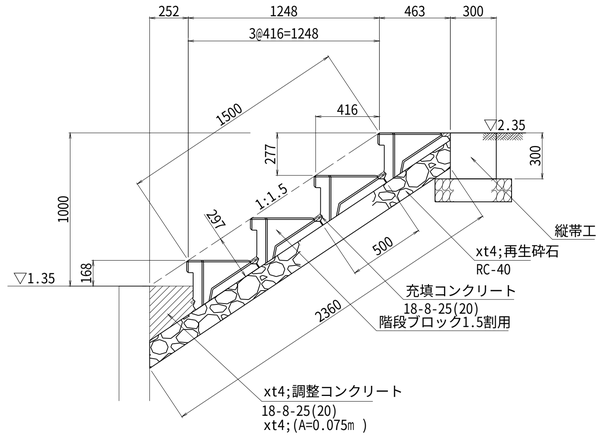
参考重量：156 kg/個

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	管理用階段工詳細図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	30-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

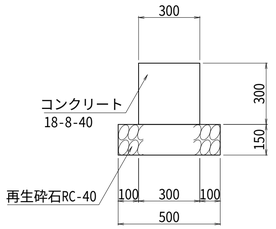
管理用階段工詳細図(2)

～篠平調整池　取水口～

標準断面図（参考）　S=1:20



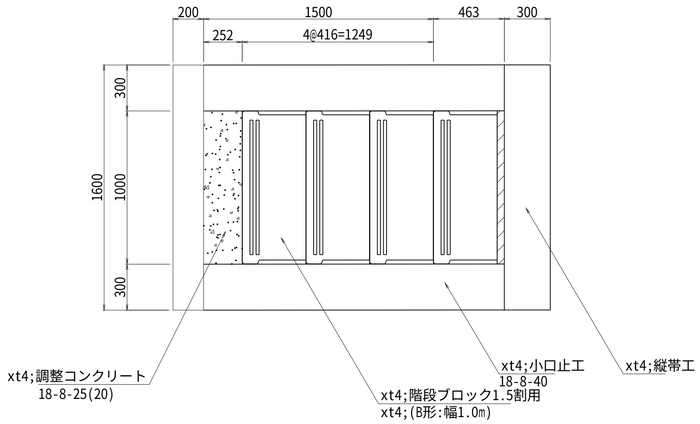
縦帯工詳細図 S=1:15



縦帯工：数量表　　(10m当り)

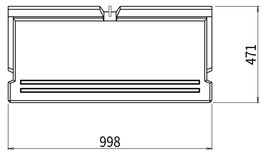
名　称	規　格	単位	数 量	摘　要
コンクリート	18-8-25(20)	m^3	1.50	
型　枠		m^2	10.00	
再 生 砕 石	RC-40　t＝150	m^2	5.00	
目 地 材	t＝10	m^2	0.15	

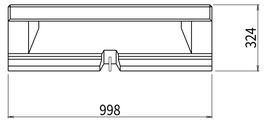
平面図（参考）　S=1:20

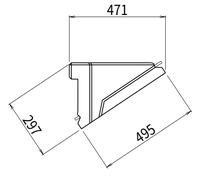


階段ブロック1.5割用 製品図（参考）S=1:15

B形（幅1.0m）







階段ブロック規格（参考）

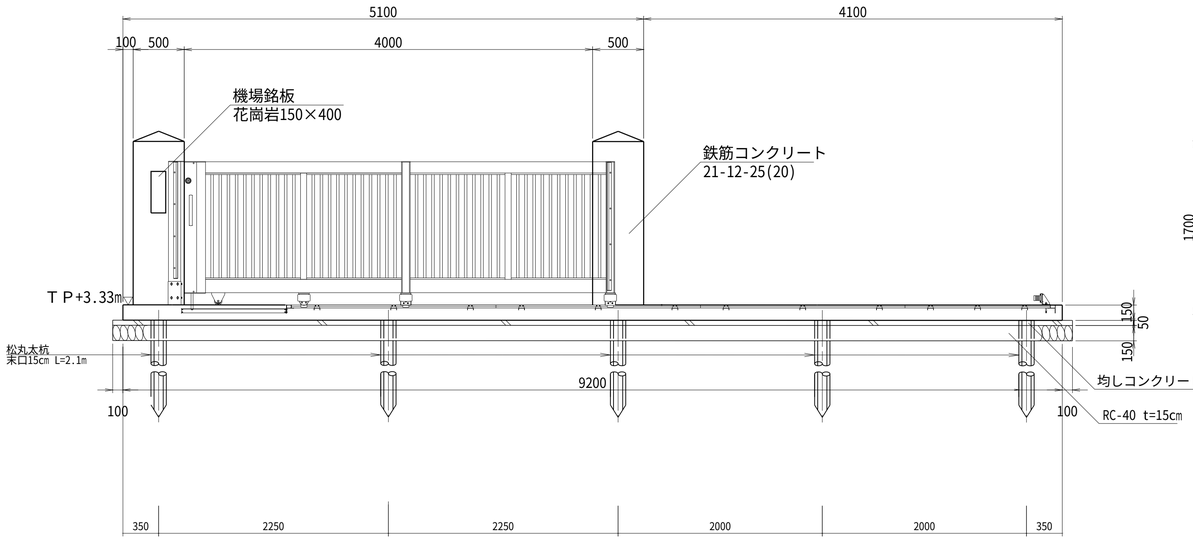
勾　配	1：1.5
踏　面	400㎜程度
蹴　上	250㎜程度
長　さ	1000㎜程度

参考重量：156 kg/個

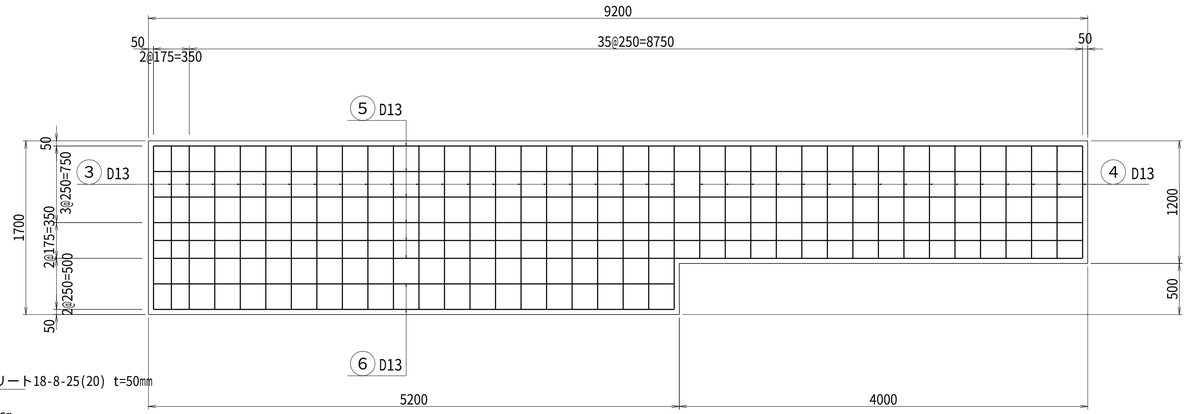
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	管理用階段工詳細図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	30-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

用水機場　門柱構造図

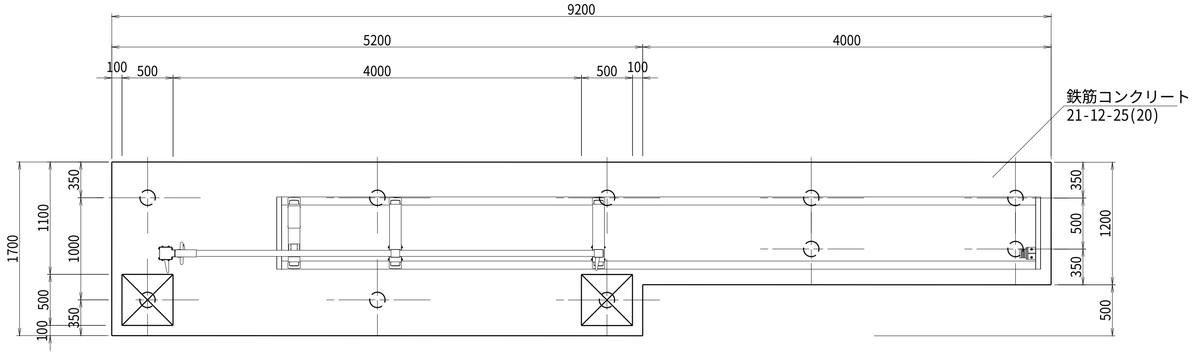
構造図
正面図



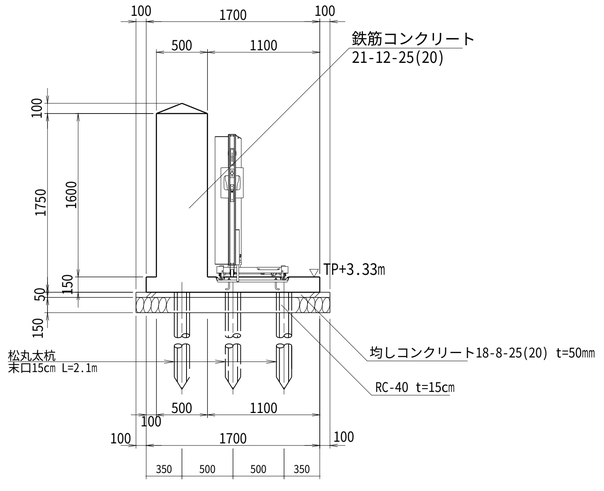
配筋図
平面図



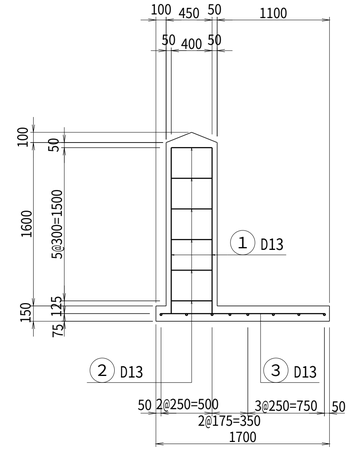
平面図



側面図



側面図



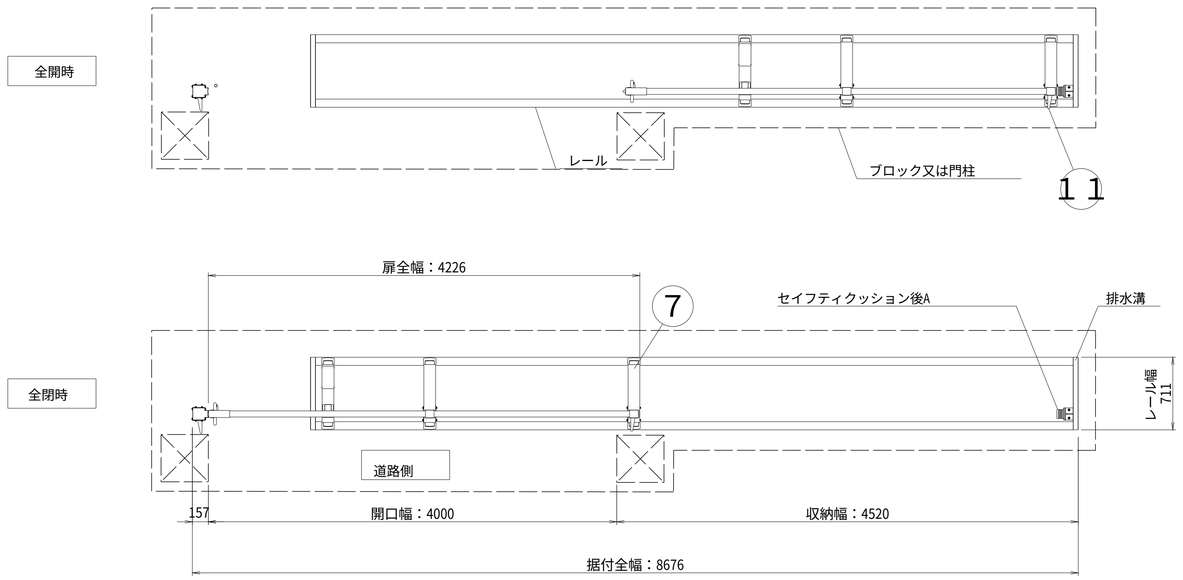
1．鉄筋の材質は、D16㎜以下をSD295
　D19㎜以上をSD345とすること。

2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水機場　門柱構造図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	31
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

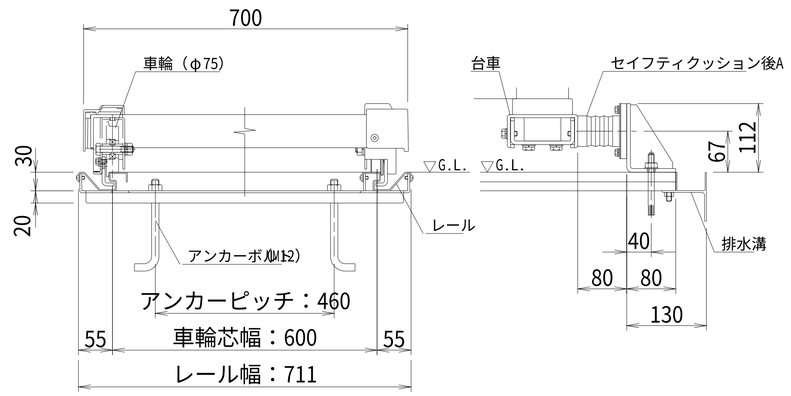
用水機場　門扉構造図（参考）

平面図（S＝1/30）

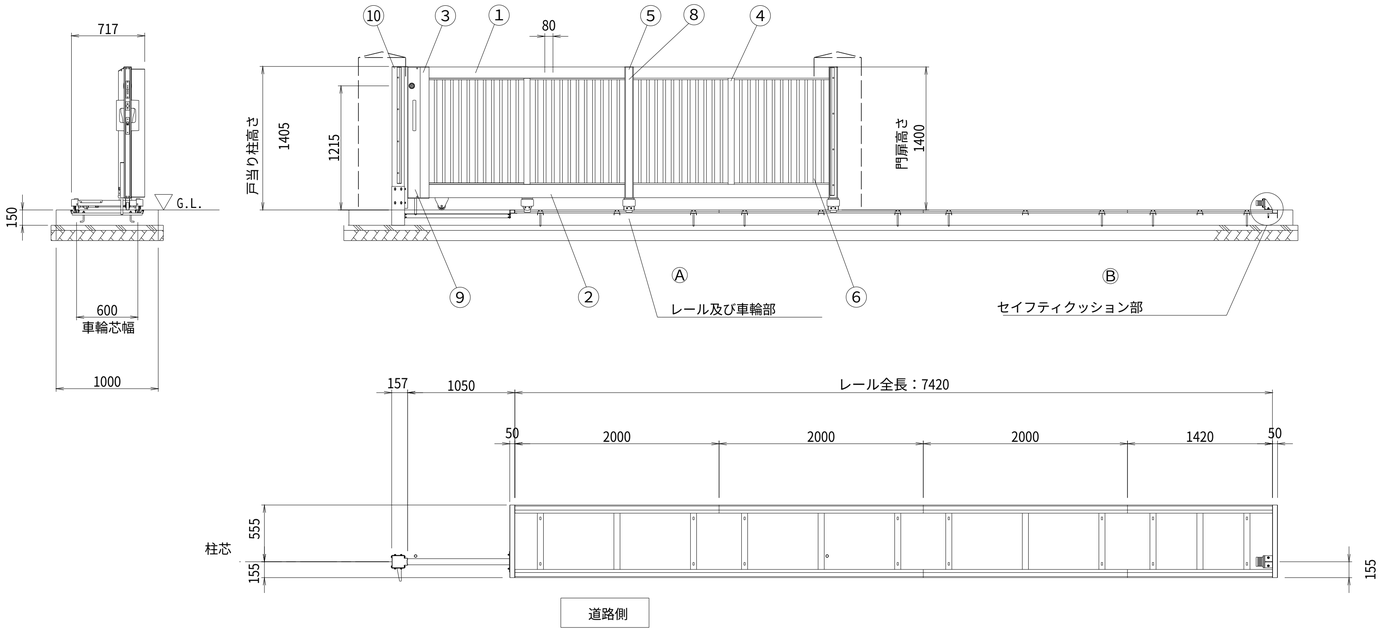


（参考図）

Ⓐ レール及び車輪部詳細図（S=1/10）　Ⓑ セイフティクッション部詳細図（S=1/10）



正面図（S＝1/30）



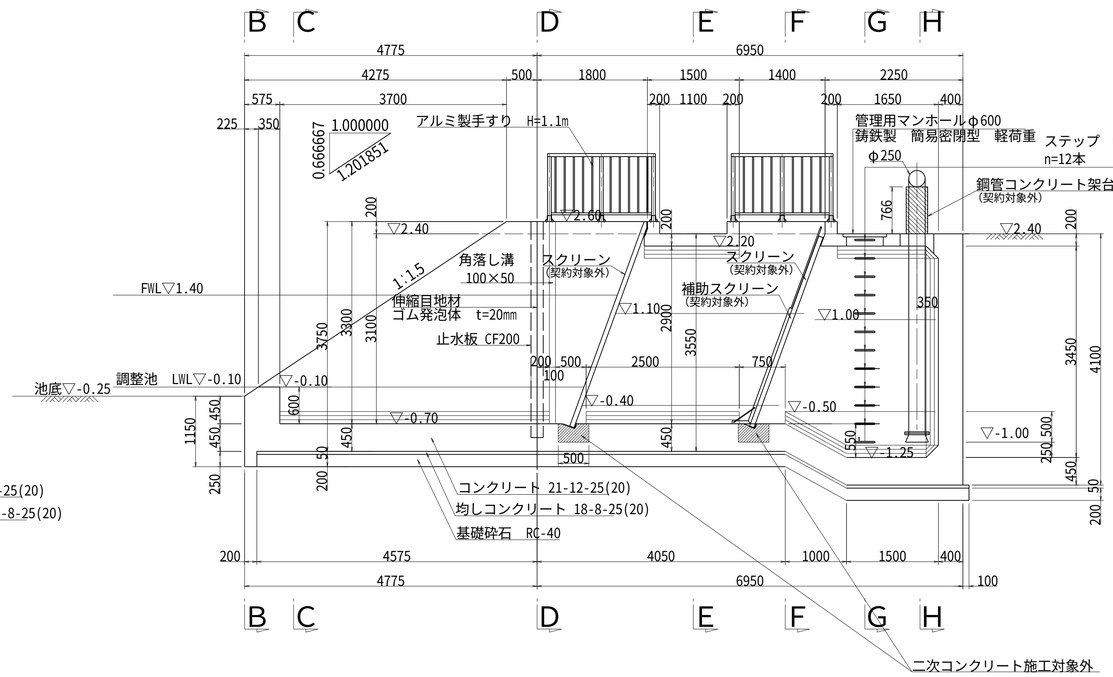
主 要 部 材	仕様（材質・塗装）
ねじ類	ステンレス
レール	ステンレス鋼
⑪ 隙間ガード	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
⑩ 戸当り柱	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
⑨ 施錠框	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
⑧ 台車支柱	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
⑦ 台　車	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
⑥ 縦格子	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
⑤ ジョイント材	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
④ 縦　桟	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
③ 縦　框	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
② 下横框	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
① 上横框	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水機場　門扉構造図(参考)		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	32
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

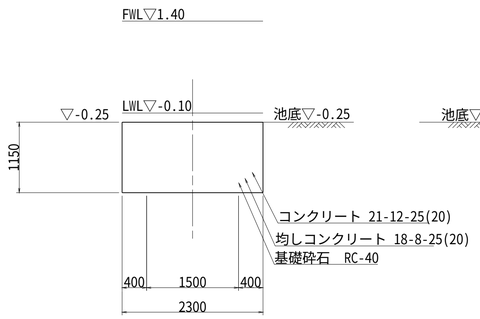
用水機場　導水路・吸水槽構造図(1)

S=1/50

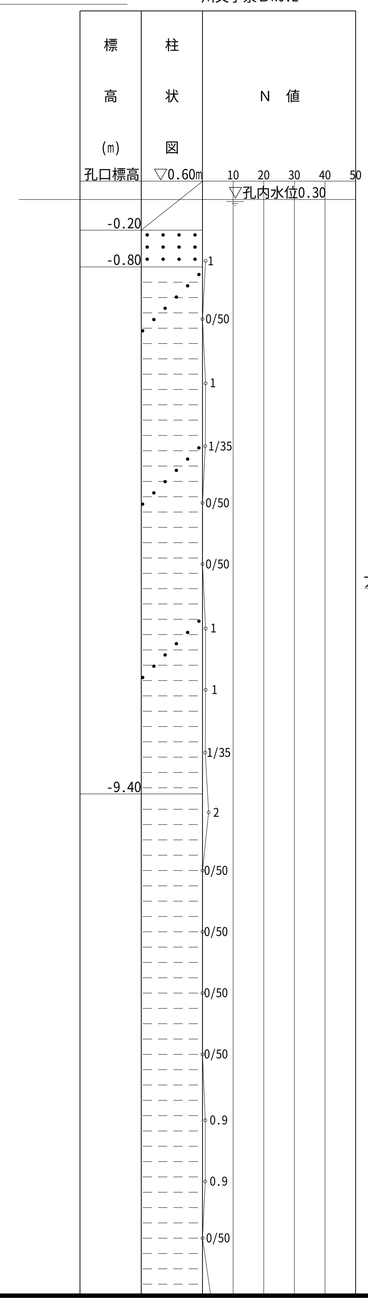
A - A



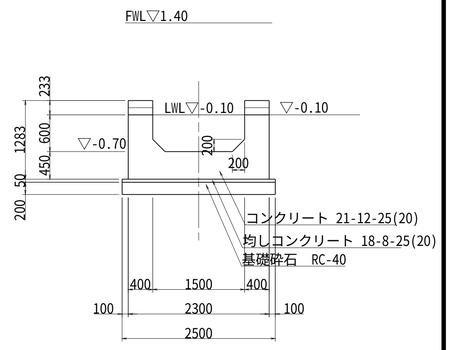
B - B



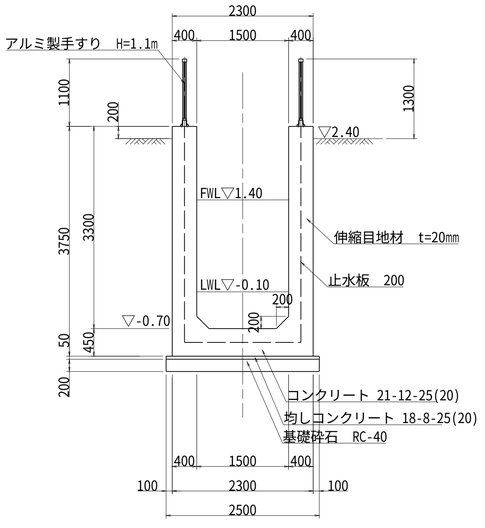
川又小泉ＢNO.2



C - C

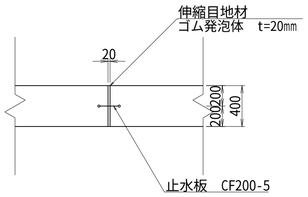


D - D

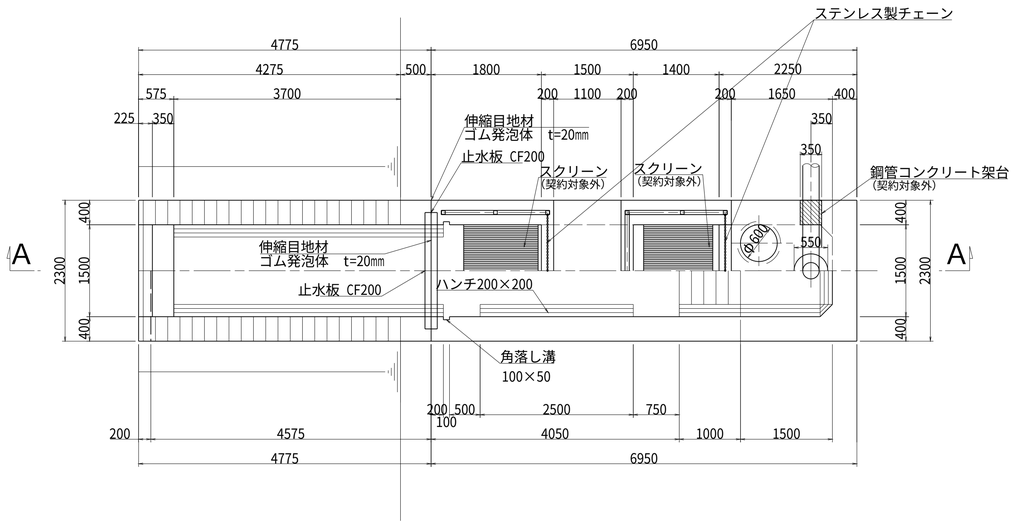


目地部詳細図

S=1/30



平 面 図

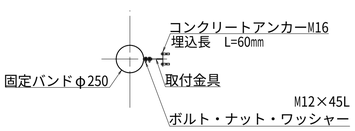


吸込管固定詳細図

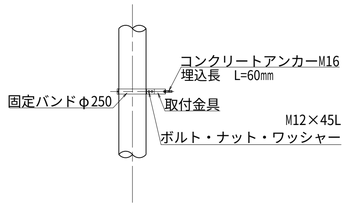
S=1/30

（契約対象外）

平 面 図



側 面 図

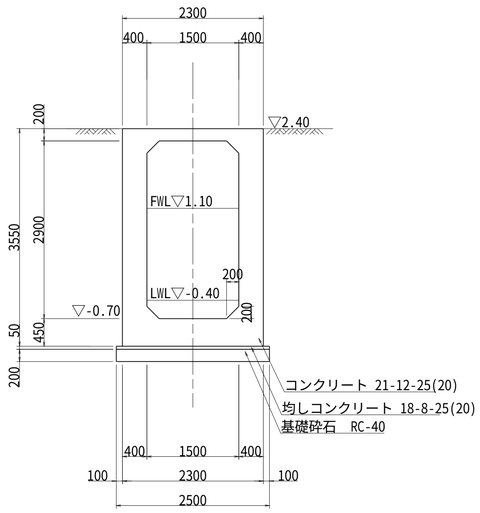


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水機場　導水路・吸水槽構造図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	33-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

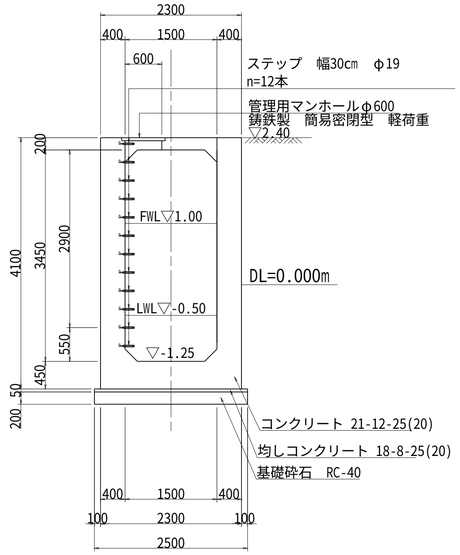
用水機場　導水路・吸水槽構造図(2)

S=1/50

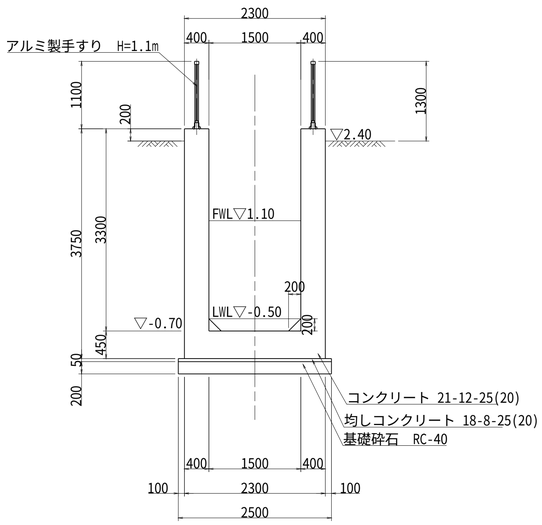
E - E



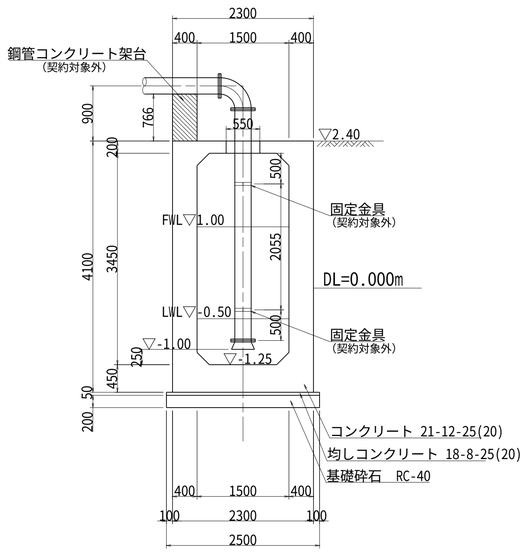
G - G



F - F



H - H

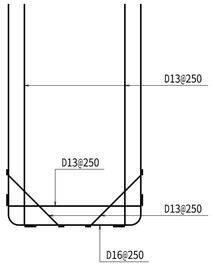


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水機場　導水路・吸水槽構造図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	33-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

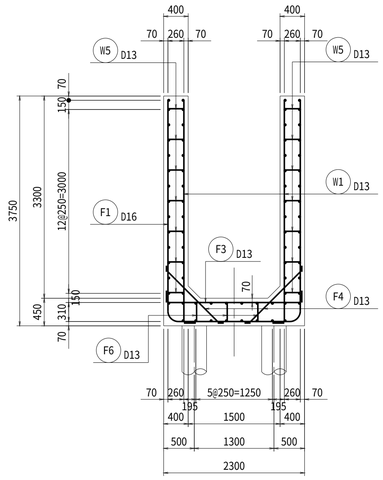
用水機場　導水路配筋図(1)

S=1/50

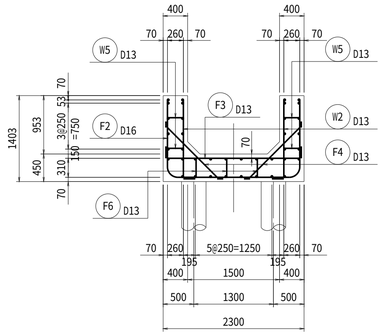
主鉄筋概要図



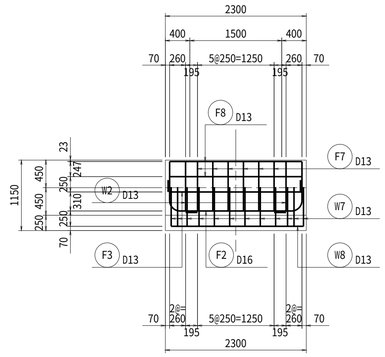
A - A



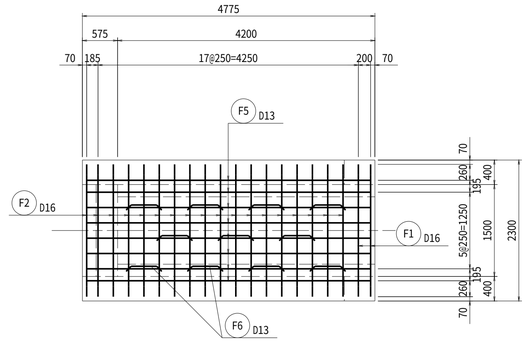
B - B



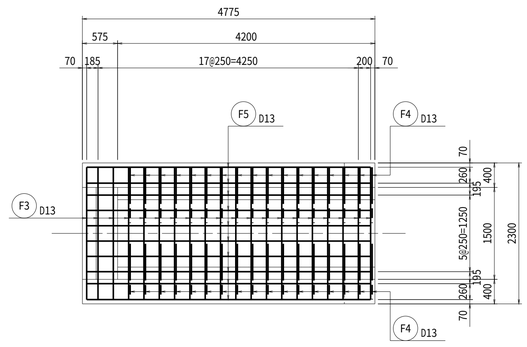
C - C



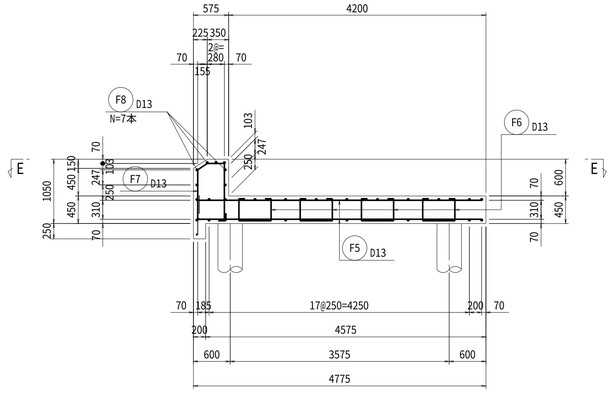
底版下面図



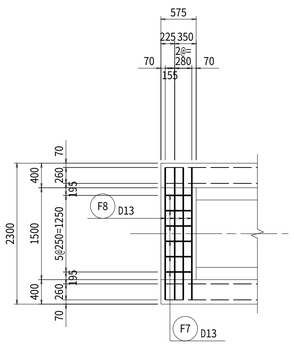
底版上面図



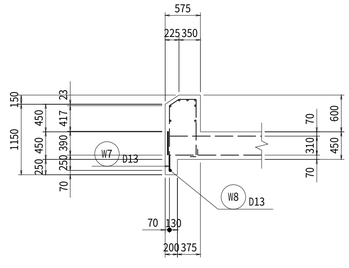
D - D



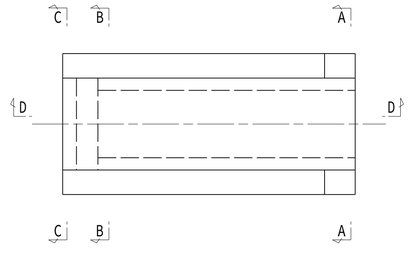
E - E



止水壁断面図



位　置　図



1．鉄筋の材質は、D16㎜以下をSD295
　D19㎜以上をSD345とすること。

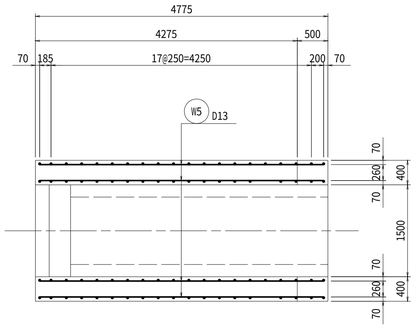
2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水機場　導水路配筋図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	34-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

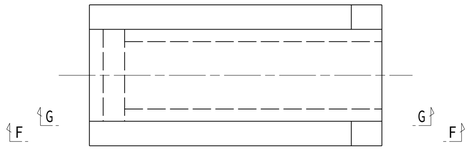
用水機場　導水路配筋図(2)

S=1/50

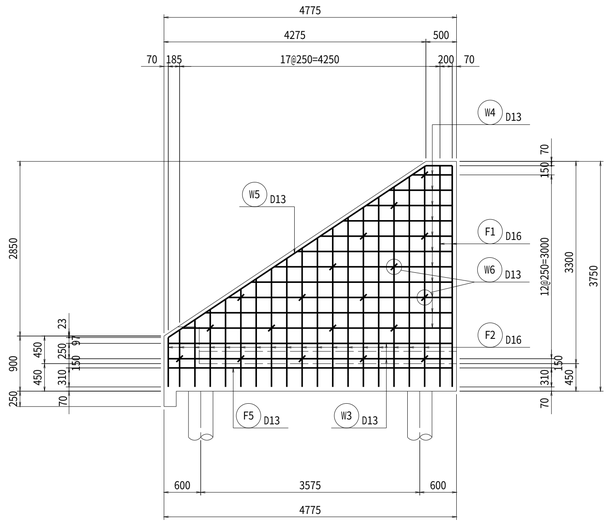
側壁天端平面図



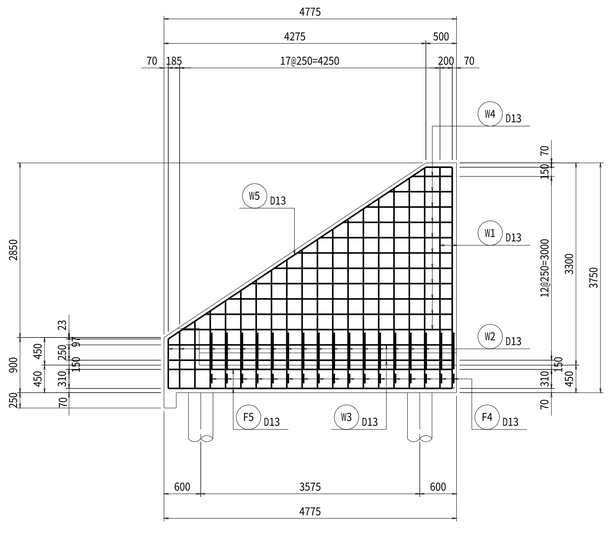
位　置　図



F - F



G - G



1．鉄筋の材質は、D16mm以下をSD295
　D19mm以上をSD345とすること。

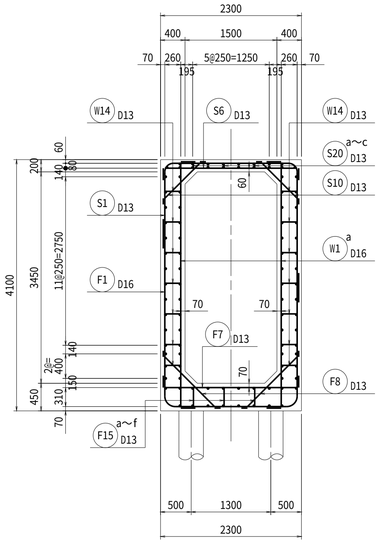
2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水機場　導水路配筋図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	34-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

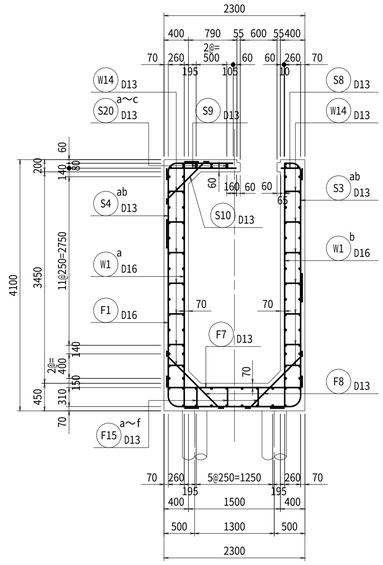
用水機場　吸水槽配筋図(1)

S=1/50

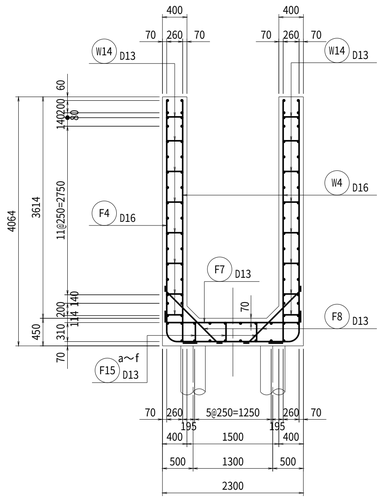
A - A



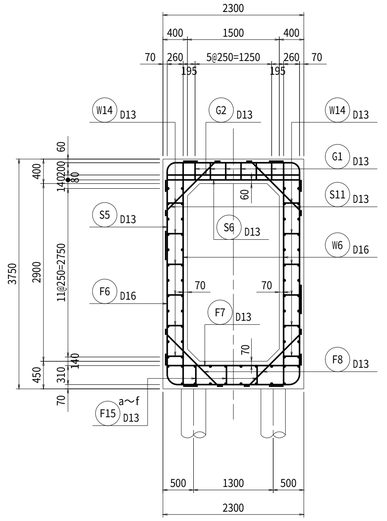
B - B



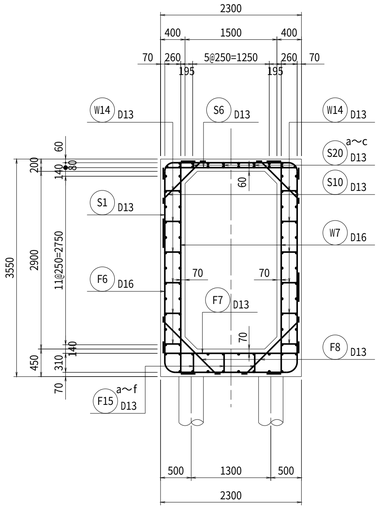
C - C



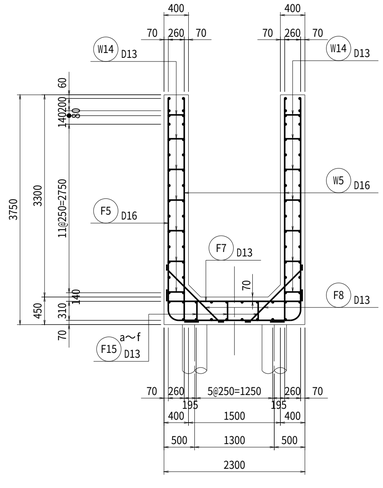
D - D



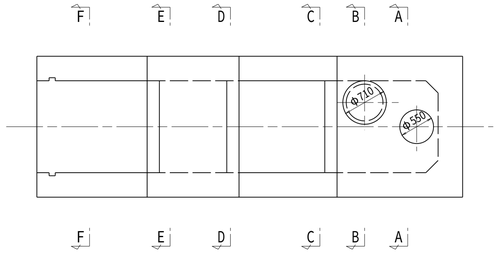
E - E



F - F

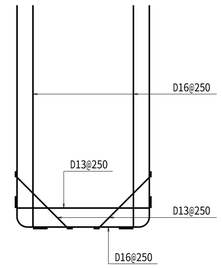


位　置　図

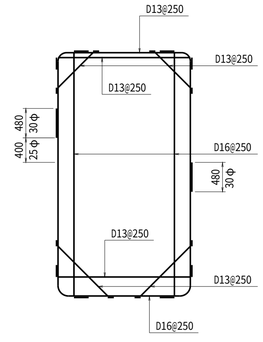


主鉄筋概要図

U型水路部



函　渠　部



※　現場継手は交互配置とすること。

1．鉄筋の材質は、D16㎜以下をSD295
　D19㎜以上をSD345とすること。

2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

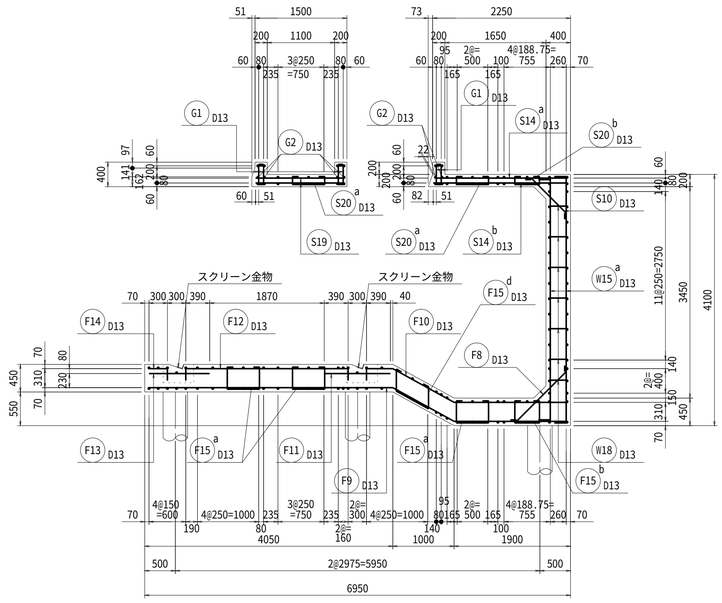
3．鉄筋被り
　側壁・底版・ハンチ・端部　70㎜
　頂版・地覆・天端　60㎜

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水機場　吸水槽配筋図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	35-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

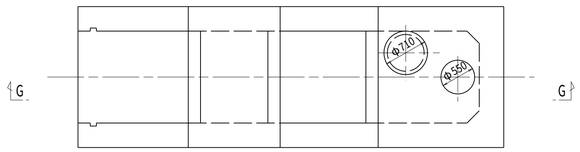
用水機場　吸水槽配筋図(2)

S=1/50

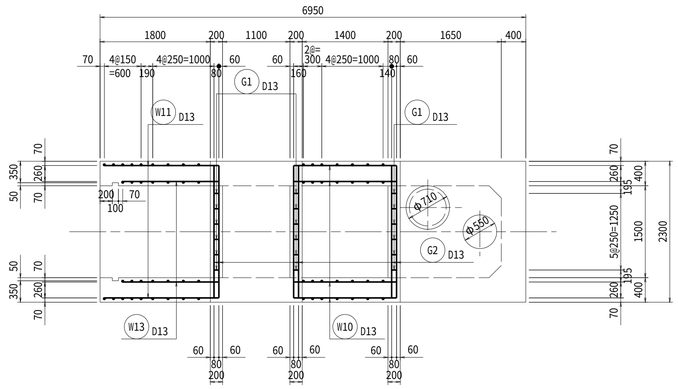
G - G



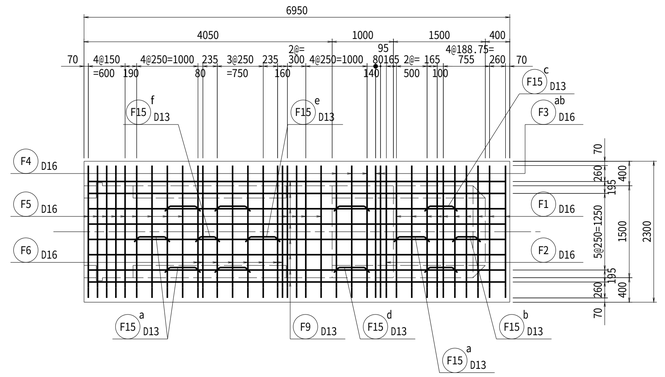
位　置　図



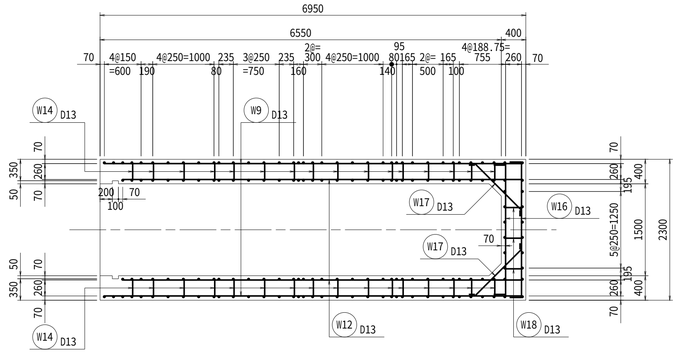
側壁天端平面図
(U型部・地覆部)



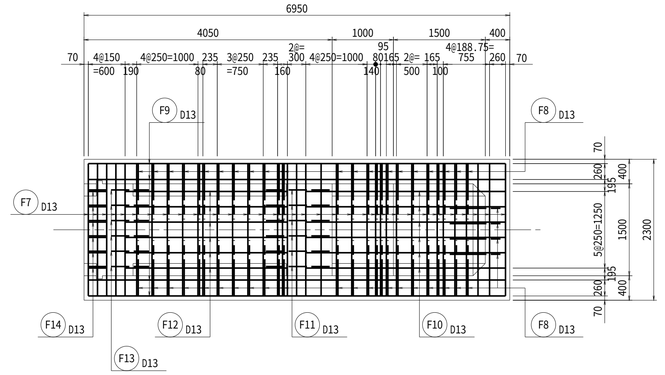
底版下面図



側壁平面図



底版上面図



1．鉄筋の材質は、D16㎜以下をSD295
　D19㎜以上をSD345とすること。

2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

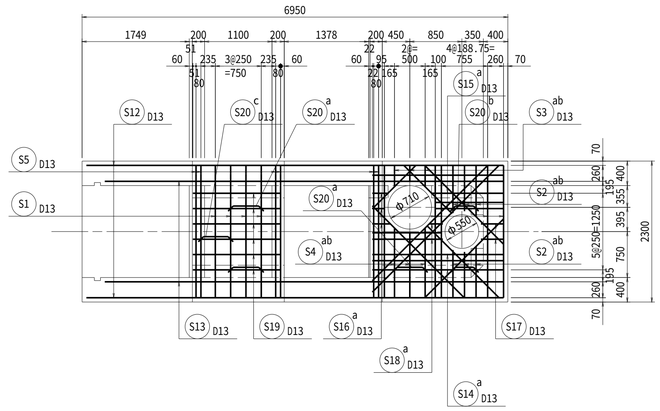
3．鉄筋被り
　側壁・底版・ハンチ・端部　70mm
　頂版・地覆・天端　60mm

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水機場　吸水槽配筋図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	35-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

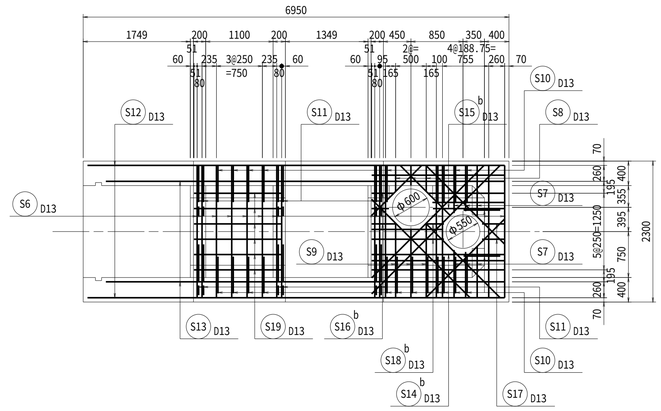
用水機場　吸水槽配筋図(3)

S=1/50

頂版上面図



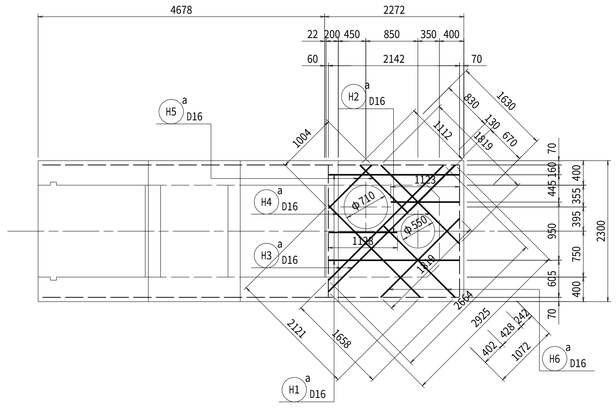
頂版下面図



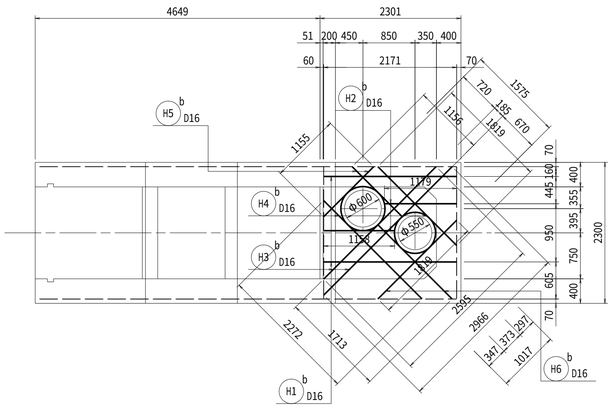
※　構造寸法は鉄筋配置位置寸法を表す。

箱抜き部補強鉄筋詳細図

頂版上面



頂版下面



1．鉄筋の材質は、D16㎜以下をSD295
　D19㎜以上をSD345とすること。

2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

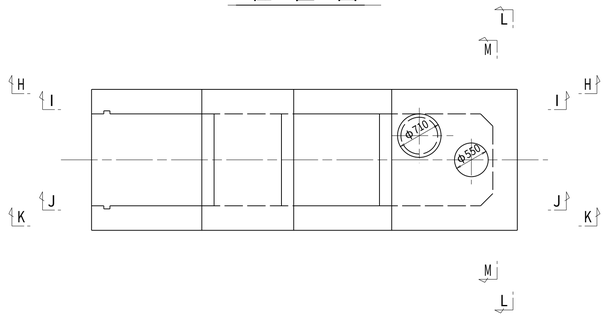
3．鉄筋被り
　側壁・底版・ハンチ・端部　70㎜
　頂版・地覆・天端　60㎜

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水機場　吸水槽配筋図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	35-3
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

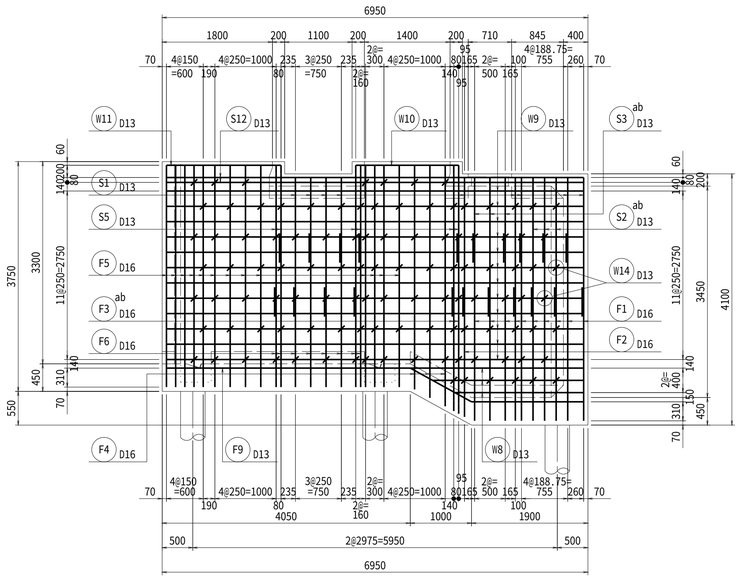
用水機場　吸水槽配筋図(4)

S=1/50

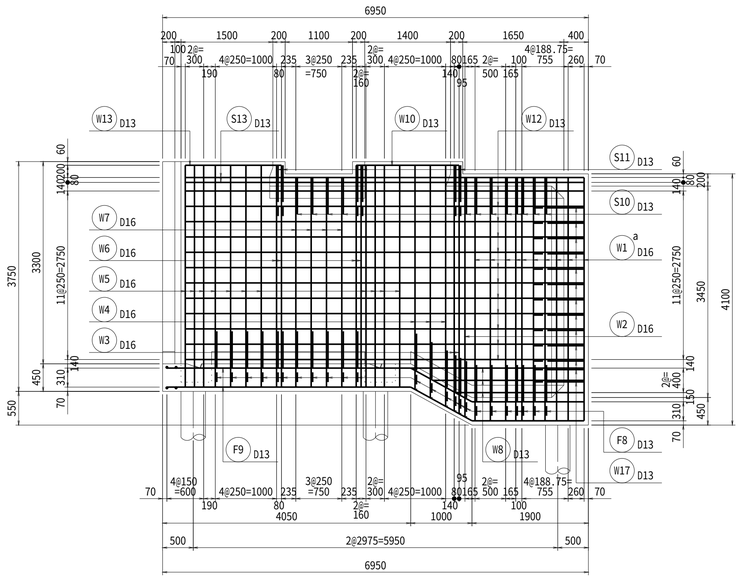
位置図



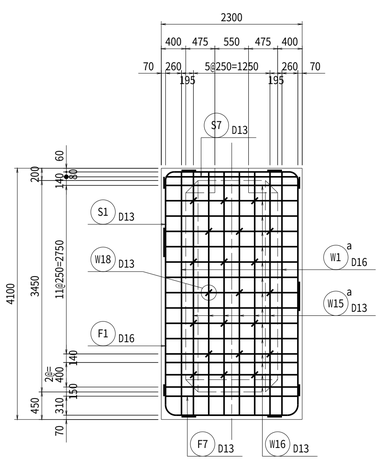
H - H



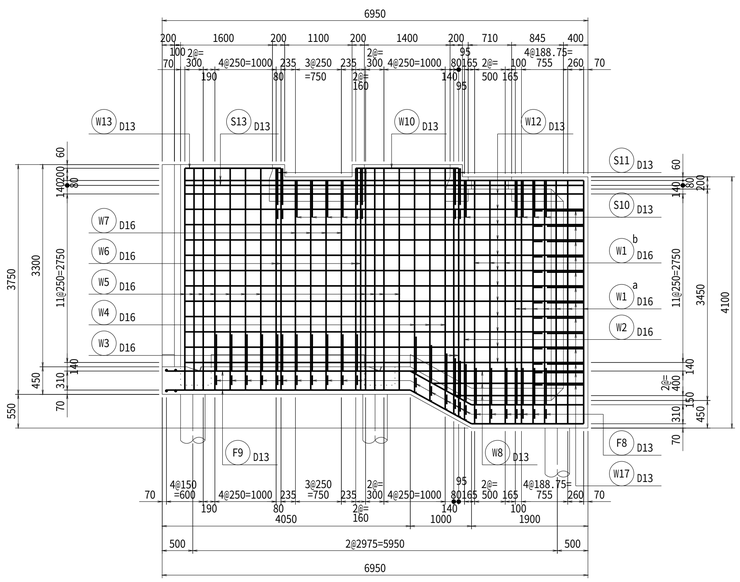
J - J



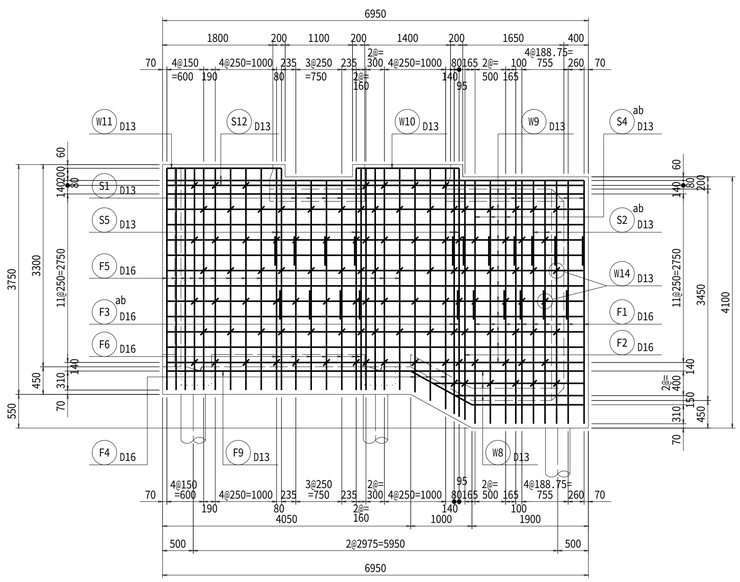
L - L



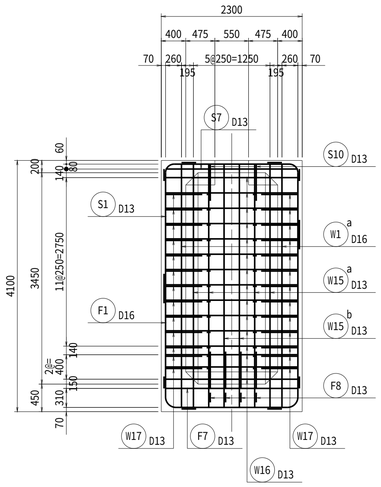
I - I



K - K



M - M



1．鉄筋の材質は、D16㎜以下をSD295
　D19㎜以上をSD345とすること。

2．鉄筋の継手が必要となる場合の引張
　鉄筋の基本定着長は、30φ以上と
　すること。

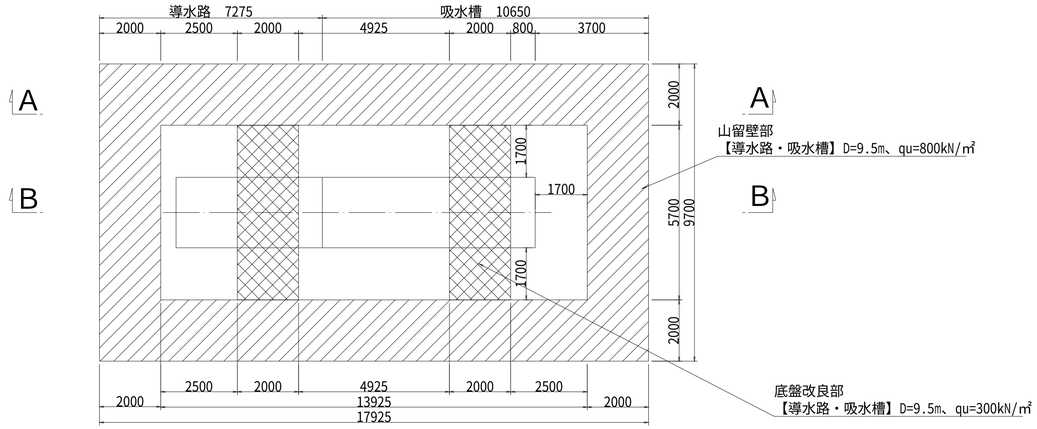
3．鉄筋被り
　側壁・底版・ハンチ・端部　70㎜
　頂版・地覆・天端　60㎜

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	用水機場　吸水槽配筋図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	35-4
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

導水路・吸水槽　地盤改良図

S=1:100

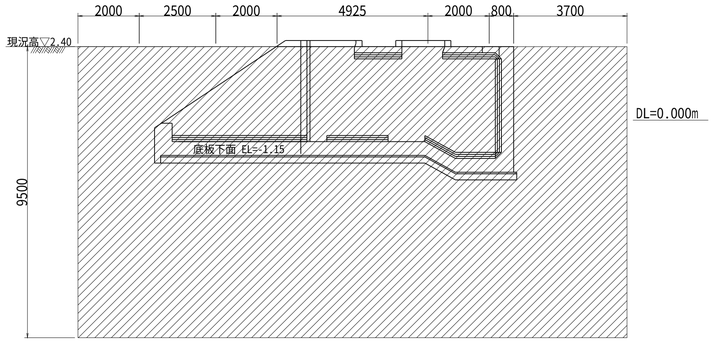
平面図



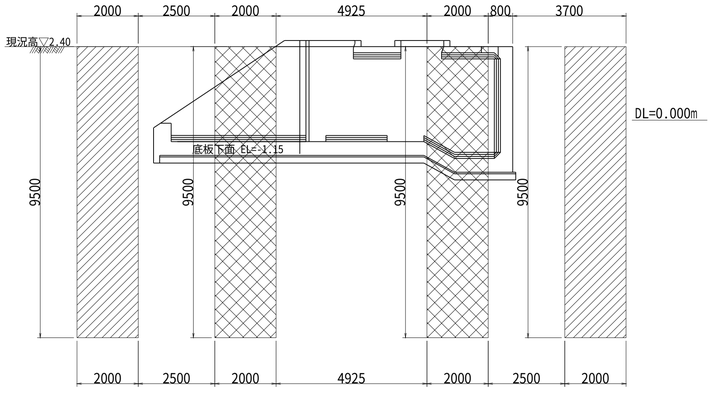
地盤改良範囲

山留壁部		94.5	㎡
底版改良部		22.8	㎡

A - A



B - B



地盤改良の工法は、中層混合処理工法を適用する。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	導水路・吸水槽　地盤改良図		
年月日			
縮尺	1:100	図面番号	36
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

仮設工　計画平面図

S=1:1500

仮置土（道路用）
V=500m3

仮設ヤード 敷鉄板（設置・撤去）
A=500m2

重機足場 敷鉄板（設置・撤去）
A=409m2

仮締切工
篠平樋管１号

仮締切工
篠平樋管２号・取水口工

仮設道路工（盛土施工済）
L=465m

国道245号線

常潜8-0651号線
常潜8-0597号線
常潜8-3660号線
常潜8-0482号線
常潜8-0486号線
常潜8-3661号線
常潜6-0021号線

支線道路2-22 I 型
支線道路2-24 II 型

20-1
4,504
2.95

20-2
1,460
2.30

21
11,461
2.06

22
6,704
2.00

23
28,010
1.89

24
15,299
2.00

25
21,351
1.82

26
27
28
29
30
32
33
34

12854
28657
6694
7637

基 II -24
EL=2.026
X座標：38112.288
Y座標：66177.276

基 II -26
EL=1.067
X座標：37650.052
Y座標：66343.794

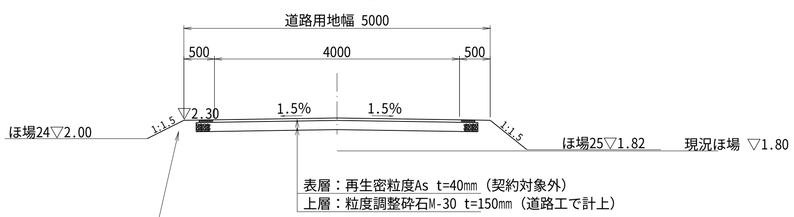
川又流入1

仮設道路工　標準図

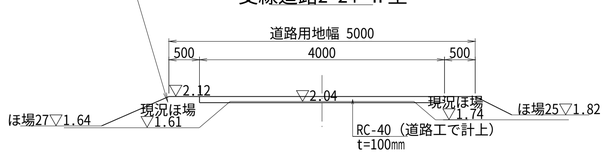
S=1:50

支線道路2-22　I 型

NO.3 付近



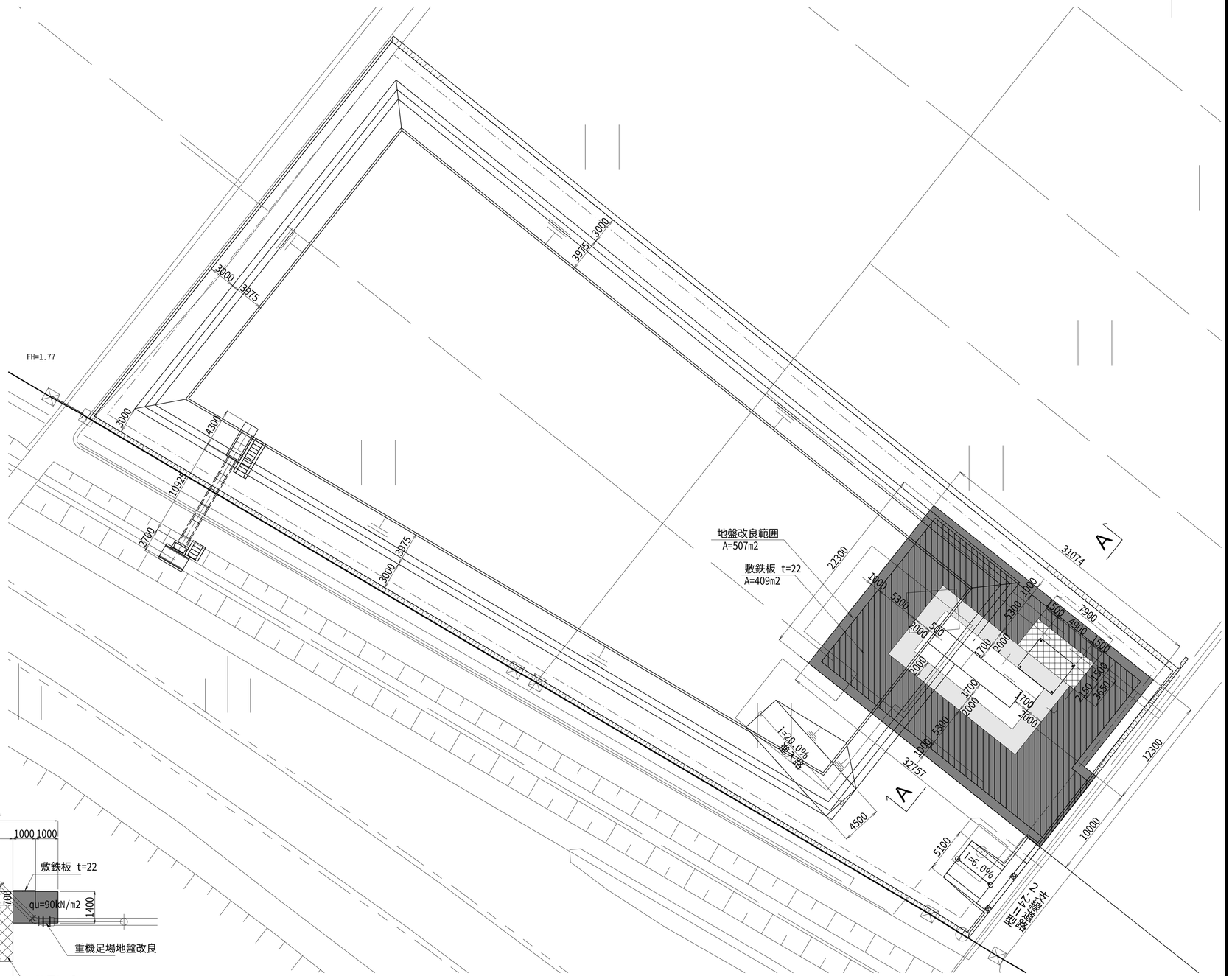
支線道路2-24　II 型



工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	仮設工　計画平面図		
年月日			
縮尺	1:1500	図面番号	37
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

仮設工　重機足場計画図

平 面 図
S=1:250

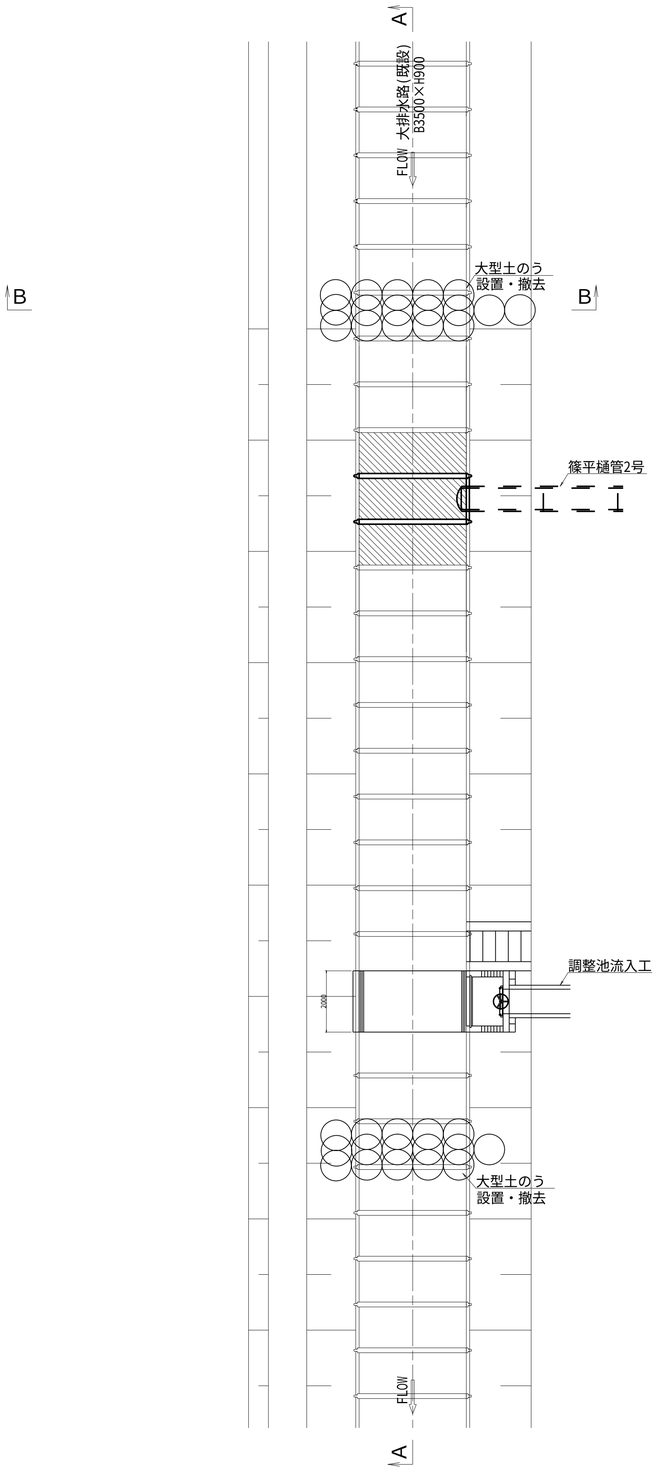

N
FH=1.77
3000
3975
3000
3975
3000
4300
10925
2700
3000
3975
地盤改良範囲
A=507m2
敷鉄板 t=22
A=409m2
22300
31074
32757
12300
10000
4500
5100
i=6.0%
i=20.0%
進入路
A
A
1000
5300
2000
1700
2000
7900
4900
1500
2150
1500
3650
1700
2000
1700
2000
2000
2000
1700
2000
1700
2000
1000
5300
1000
1700
2000
1700
2000
1700
2

仮設工一般図(1)

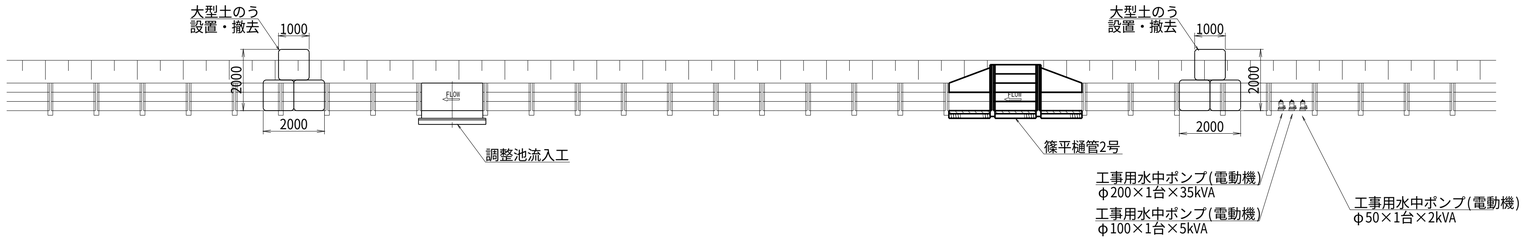
仮締切工（篠平樋管2号～取水口）

平　面　図

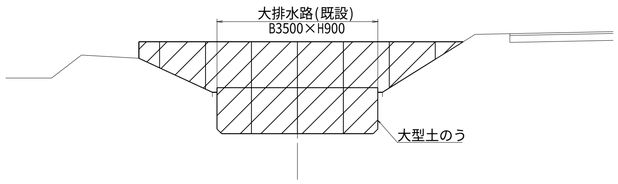
S=1/100



A - A断面図



B - B断面図

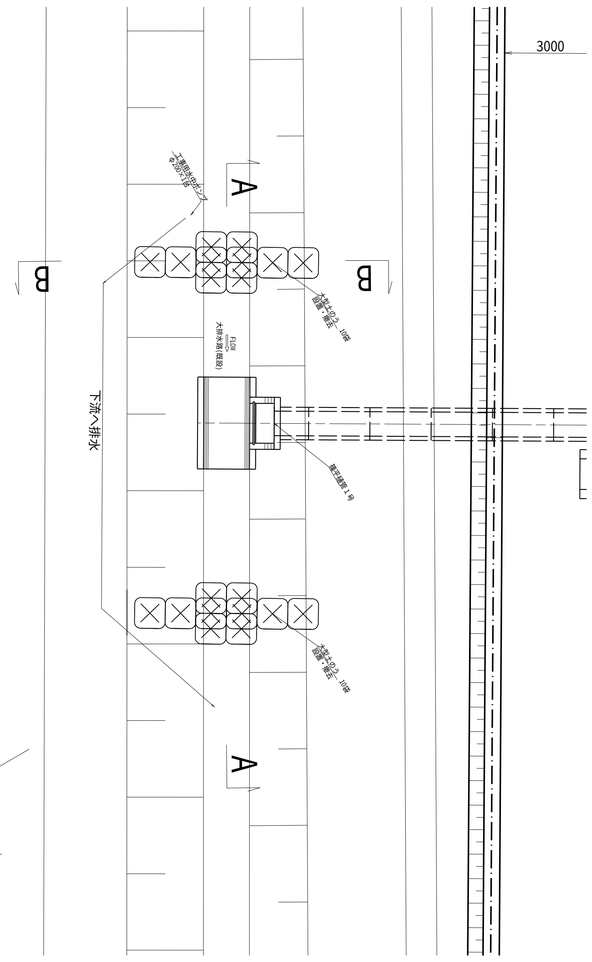


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	仮設工一般図		
年月日			
縮尺	S=1:50	図面番号	39-1
会社名			
事業所名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

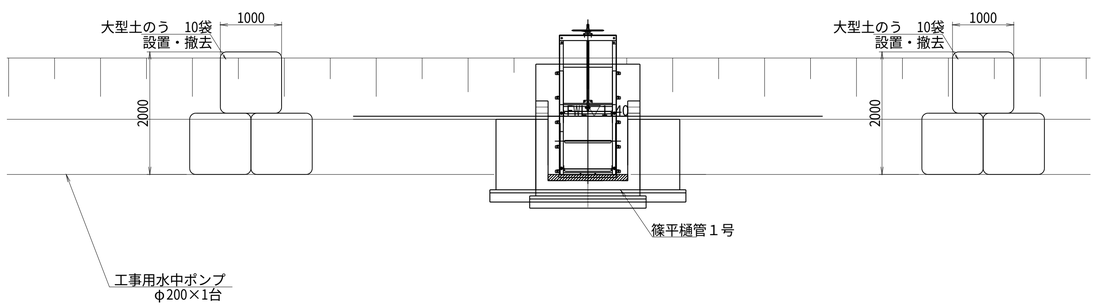
仮設工　一般図(2)

仮締切工（篠平樋管１号）S=1:50

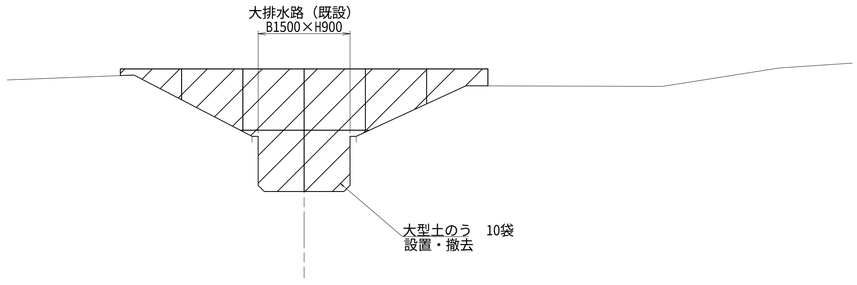
平面図



A - A断面図



B - B断面図

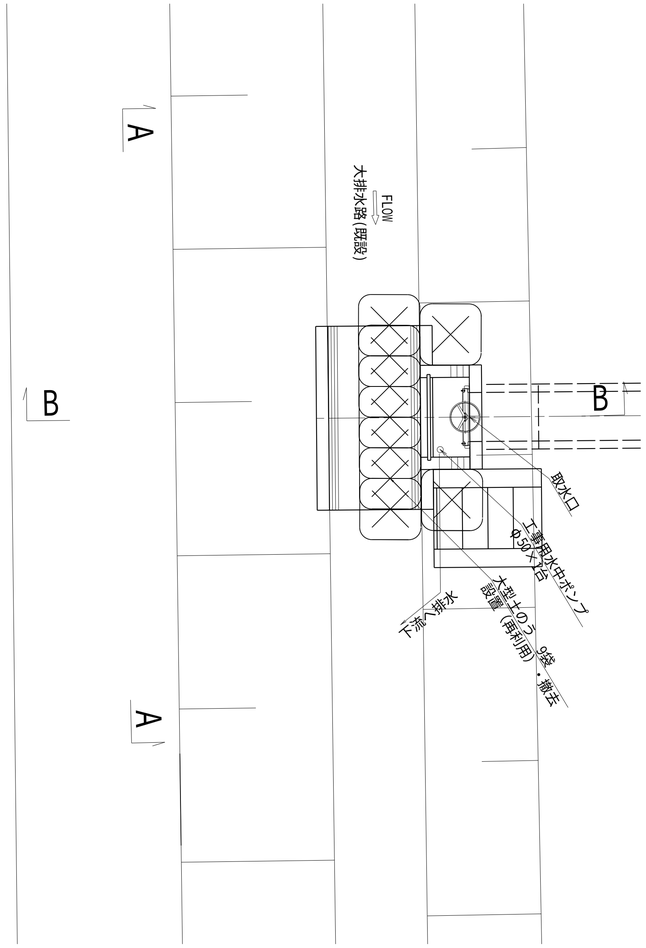


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	仮設工　一般図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	39-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

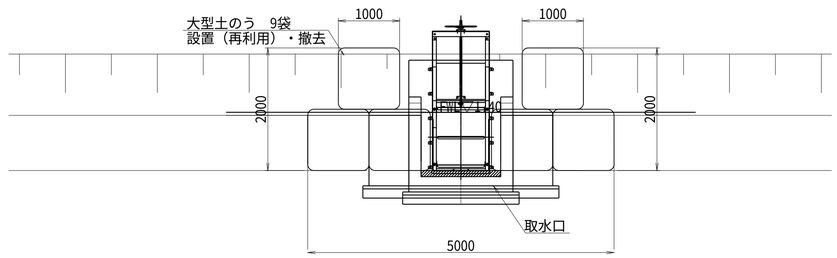
仮設工　一般図(3)

仮締切工　　S=1:50

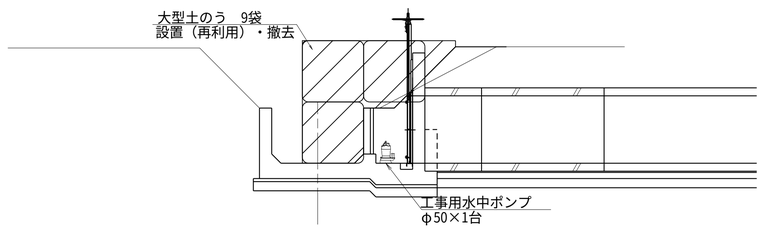
平面図



A - A断面図



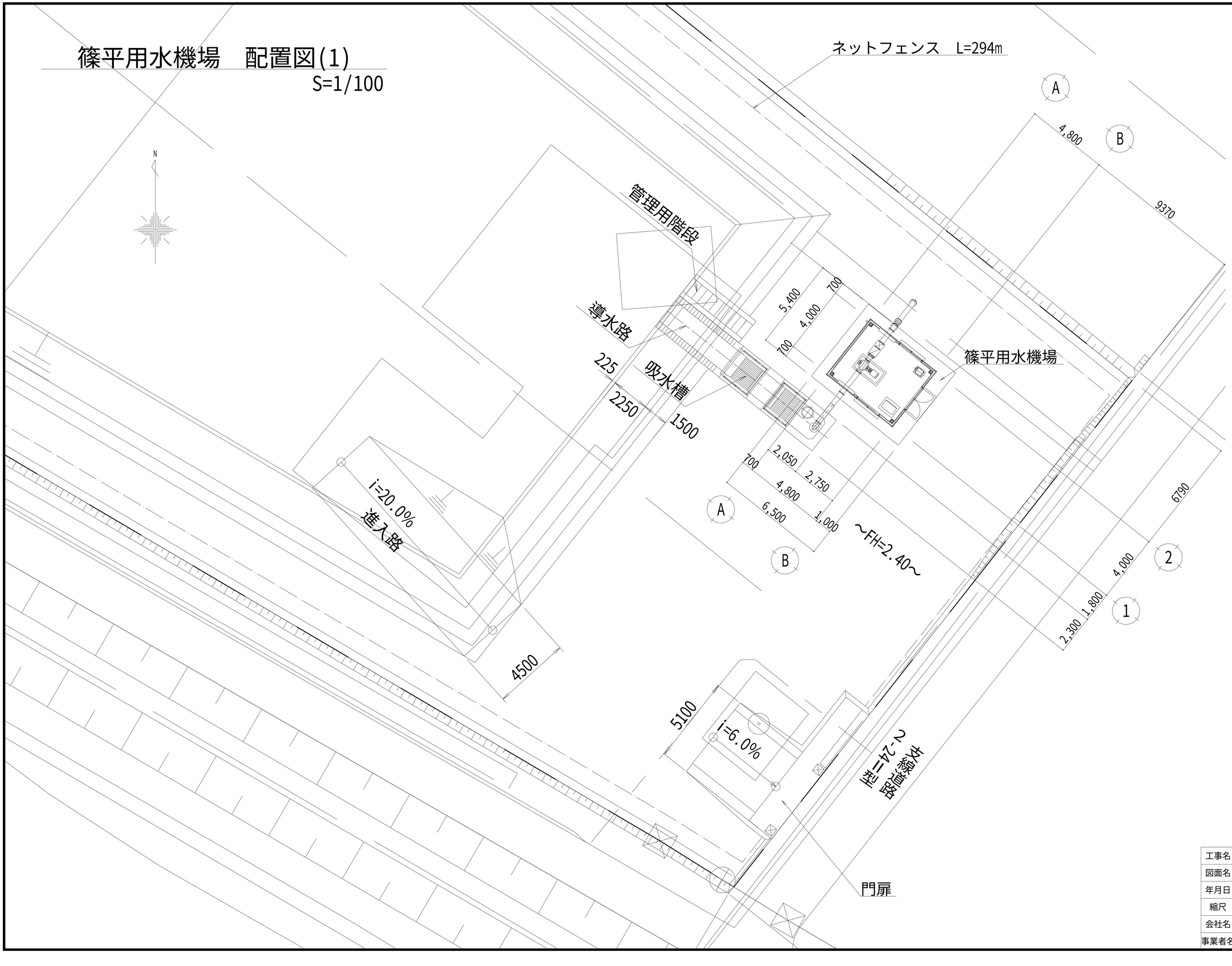
B - B断面図



工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	仮設工　一般図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	39-3
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

篠平用水機場　配置図(1)

S=1/100

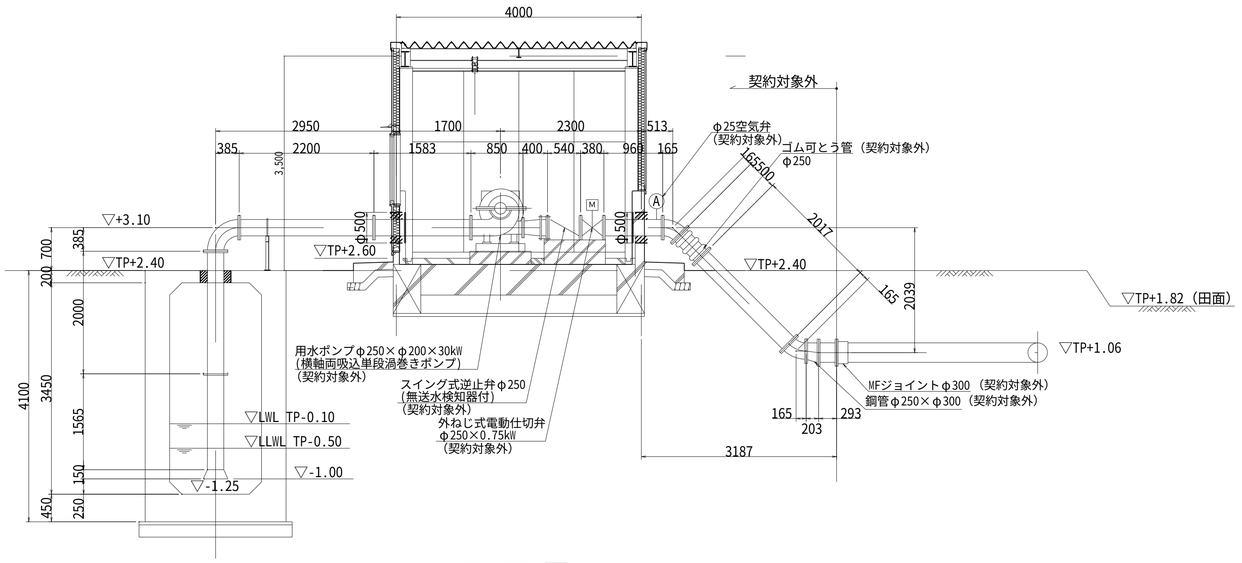


工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	篠平用水機場　配置図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	A-01-1
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

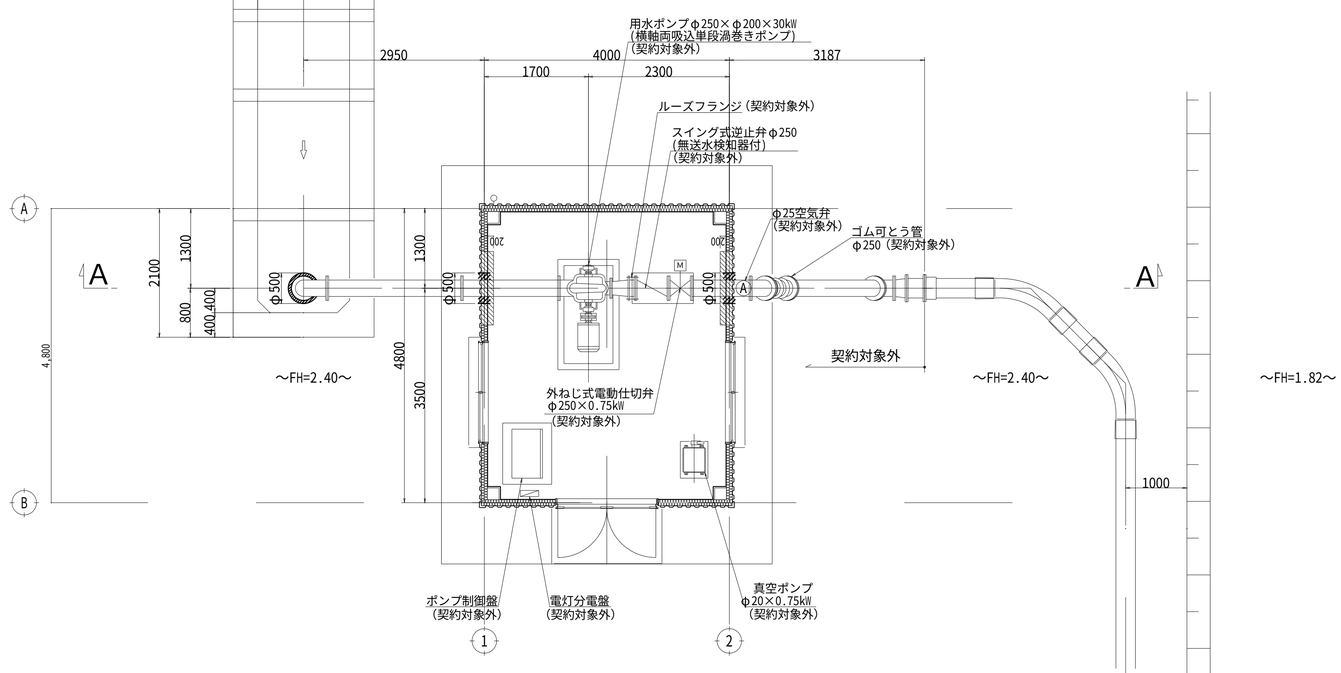
篠平用水機場　配置図(2)

S=1/50

A - A



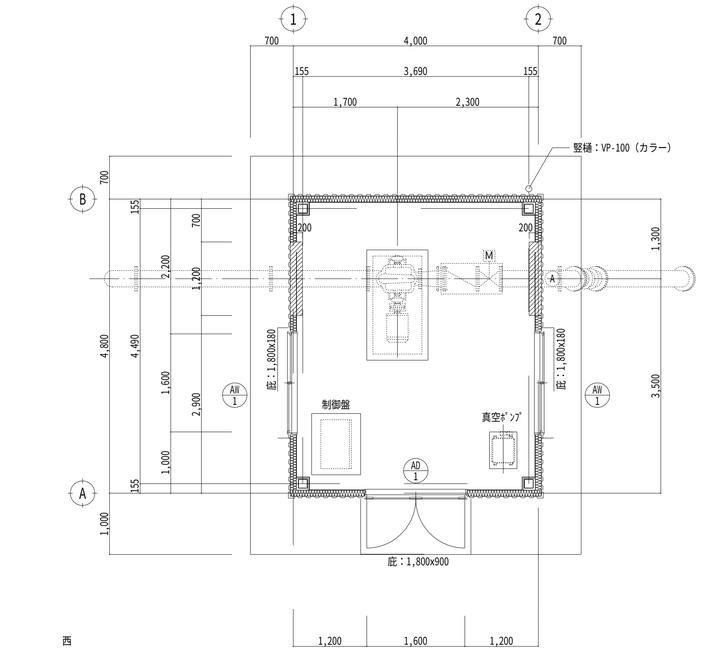
平 面 図



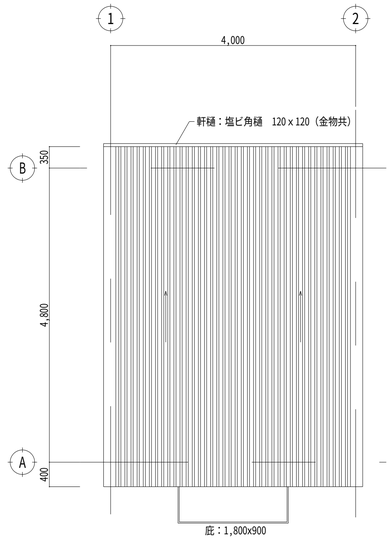
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	篠平用水機場　配置図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	A-01-2
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

仕 上 表

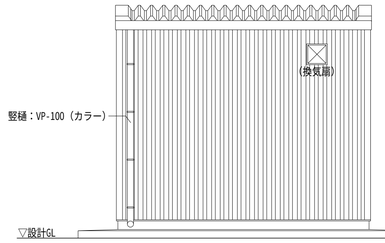
外 部 仕 上						
屋　　根	ルーフデッキ（ガルバリウム鋼板 厚0.6：断熱材裏打ち型、灰色系）：山高85、タイトフレーム、軒先面戸、ケラバ包み					
樋	軒樋：塩ビ角樋　120 x 120（金物共）　　竪樋：VP-100（カラー）（金物共）					
外　　壁	角波鉄板 厚0.4（ガルバリウム鋼板：灰色系）、水切り（防虫網付）、照明器具取付部：下地合板 厚12（ポンプ設備用パトライト及び投光器設置予定箇所を含む）、配管貫通部腰壁：コンクリート打放し					
幅　　木	コンクリート直金ごて					
犬 走 り	コンクリート直金ごて　Vカット目地切					
シーリング	変成シリコン系　ＭＳ-２					
内 部 仕 上	床	基礎立上り	腰 ・ 壁	天　　井	天 井 高	備　　考
用 水 機 場	コンクリート木ごて＋増打ちコンクリート（施設機械工事）	直金ごて	壁：有孔ケイカル板　厚5　目透かし　EP塗 柱：ケイカル板　厚6　目透かし　EP塗	屋根折版あらわし 見え掛り鉄部（梁・プレース）　SOP塗		壁　グラスウール 厚100（24kg/m3）充填



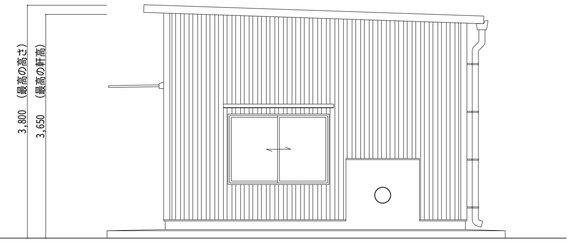
平面図　S=1:50



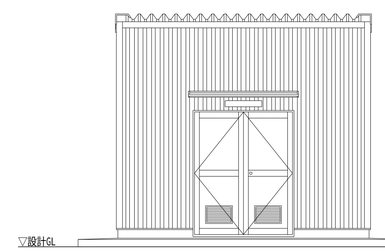
屋根伏図　S=1:50



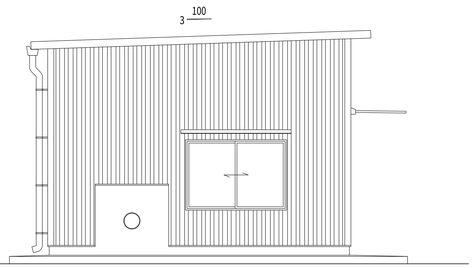
西立面図　S=1:50



北立面図　S=1:50



東立面図　S=1:50

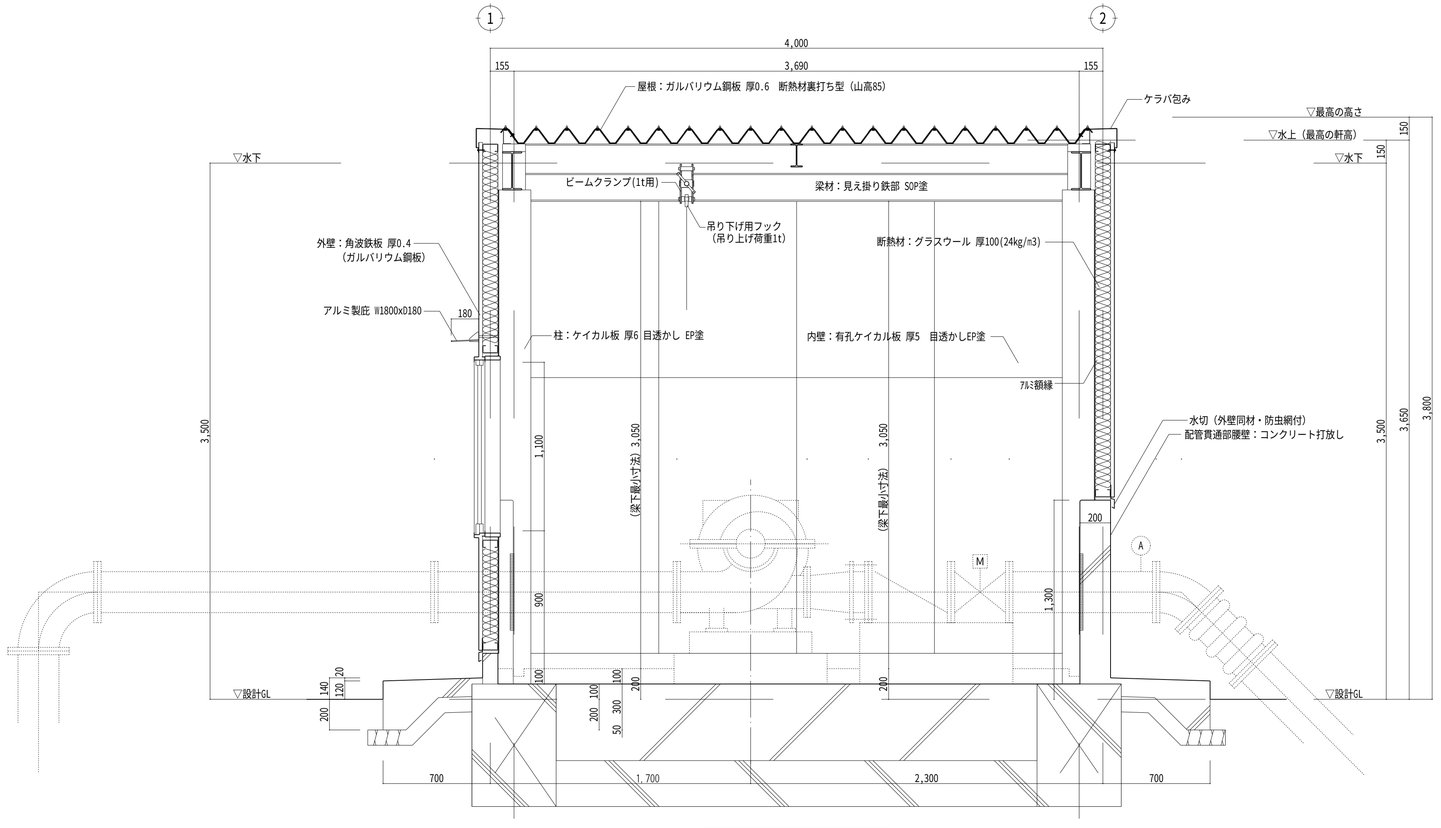


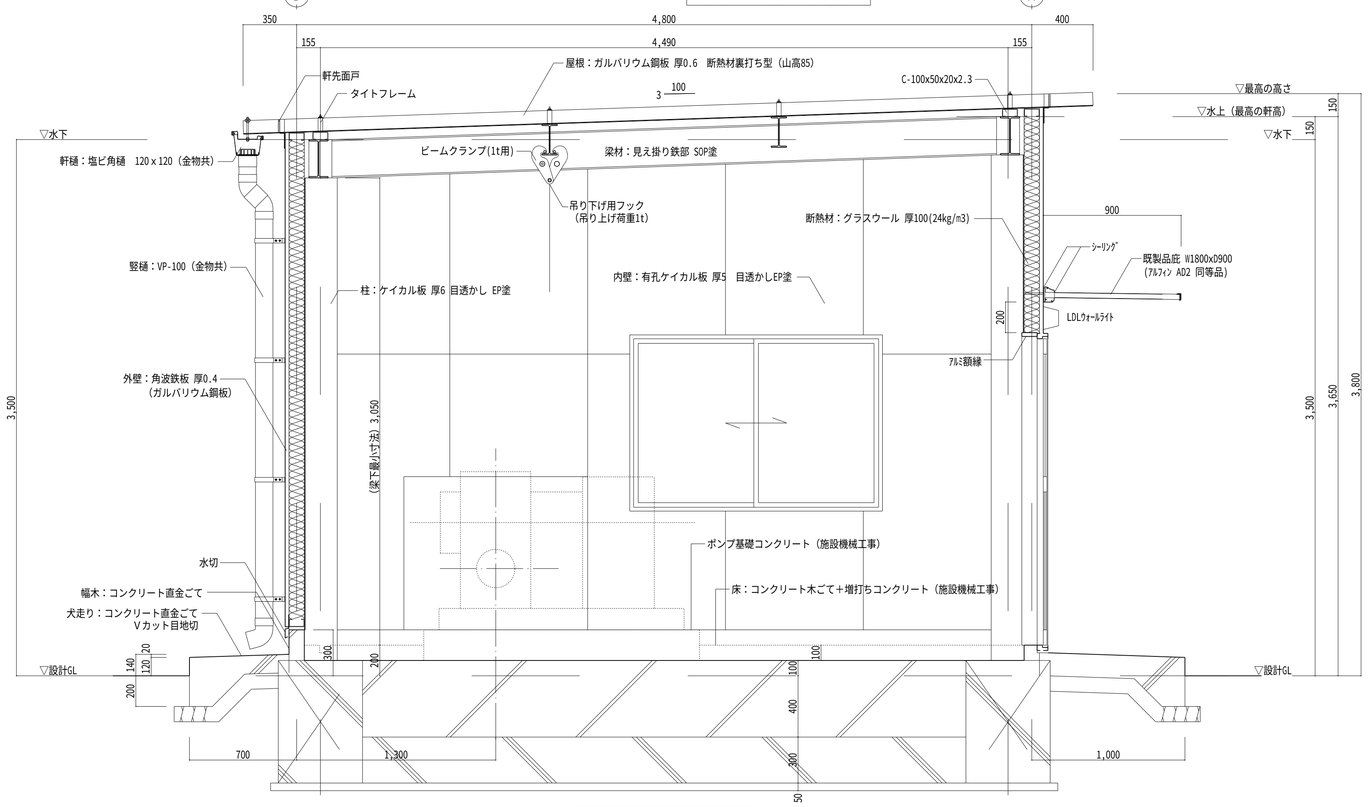
南立面図　S=1:50

立面方向

篠平揚水機場 建屋

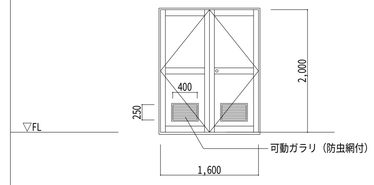
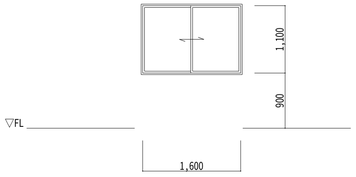
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	仕上表・平面図・屋根伏図・立面図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	A-02
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		





Y-Y断面詳細図 S=1:20

建具表 S=1:50

	AD-1	AW-1
姿 図	既製品庇 W1800xD900 (ｱﾙﾌｨﾝ AD2 同等品) 	
形 式	両開き框ドア（半外付け） 見込み70	引違いサッシ（半外付け） 見込み70
室名・数量	用水機場 1ヵ所	用水機場 2ヵ所
材 種	アルミ（シルバー）	アルミ（シルバー）
ガラス	上段：網入型板 厚6.8 下段：アルミパネル厚3.0	網入型板 厚6.8
金 物	本締錠（ｼ+空）、ＤＣ（Ｓ付）、アルミ額縁（見込み80） ＳＵＳ下枠、付属金物一式	網戸、アルミ額縁（見込み80） アルミ製庇 W1800xD180、付属金物一式

A	ＬＥＤベースライト 笠付 防湿型・防雨型	B	ＬＤＬ２０Ｗ×１ ウォールライト 防湿・防雨型	C	ＬＥＤスポットライト ４００形
	器具光束３２００ｌｍ、消費電力２０．６Ｗ		器具光束７８０ｌｍ、消費電力１２．０Ｗ		器具光束１１８００ｌｍ、消費電力１０５Ｗ

直付ＸＬＷ４３２ＫＥＮＺＬＥ９（同等品）

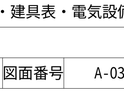
一般タイプ、３２００ｌｍタイプ
消費電力２０．６Ｗ、定格出力型、電圧１００～２４２Ｖ
本体：亜鉛鋼板（クロムフリー・高反射白色粉体塗装）
防湿型・防雨型ライトバー：ポリカーボネート（乳白）+アクリルコーティング
光源寿命４００００時間（光束維持率８５%）
ＩＰ２３防湿型、昼白色（５０００Ｋ）、Ｒａ８３
電源装置はライトバー側に内蔵

ＮＮＦＷ２１８２５ＬＥ９（同等品）

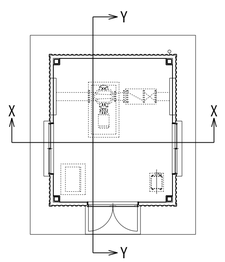
ボルトフリー（１００～２４２Ｖ）
壁面（縦向き・横向き）取付専用
カバー：クリーンアクリル（乳白）
光束維持時間４００００時間
適合ランプ：直管ＬＥＤランプ、素材：ガラス

ＮＮＹ２４３９０ＬＥ９（同等品）

1灯用投光器台
ＹＫ０５１８３Ｋ



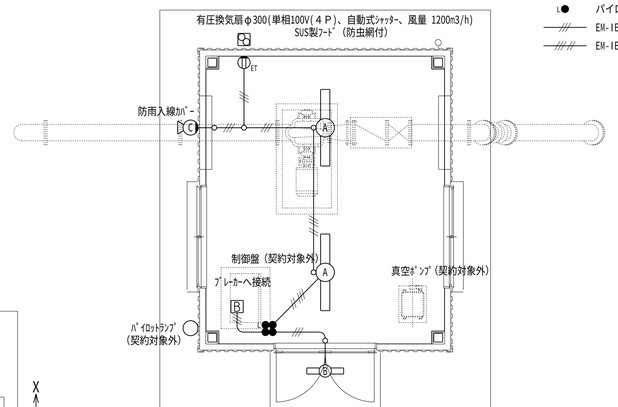
ＬＥＤスポットライト 水銀灯４００形相当
昼白色、５０００Ｋ、Ｒａ８５
広角タイプ配光、光源寿命６万時間（光束維持率８０%）
本体：アルミダイカスト（シルバーメタリック）
パネル：ポリカーボネート（透明つや消し）
耐雷サージ１５ｋＶ、耐風速６０ｍ
電源接続部灯具内収納可能、電源内蔵型（５．８ｋｇ）



KEYPLAN

凡例

- ●L パイロットランプ付スイッチ 1P-4A
- EM-IE1.6 x 3 : 1本アース
- EM-IE1.6 x 5 : 1本アース



電気設備図 S=1:50

篠平揚水機場 建屋

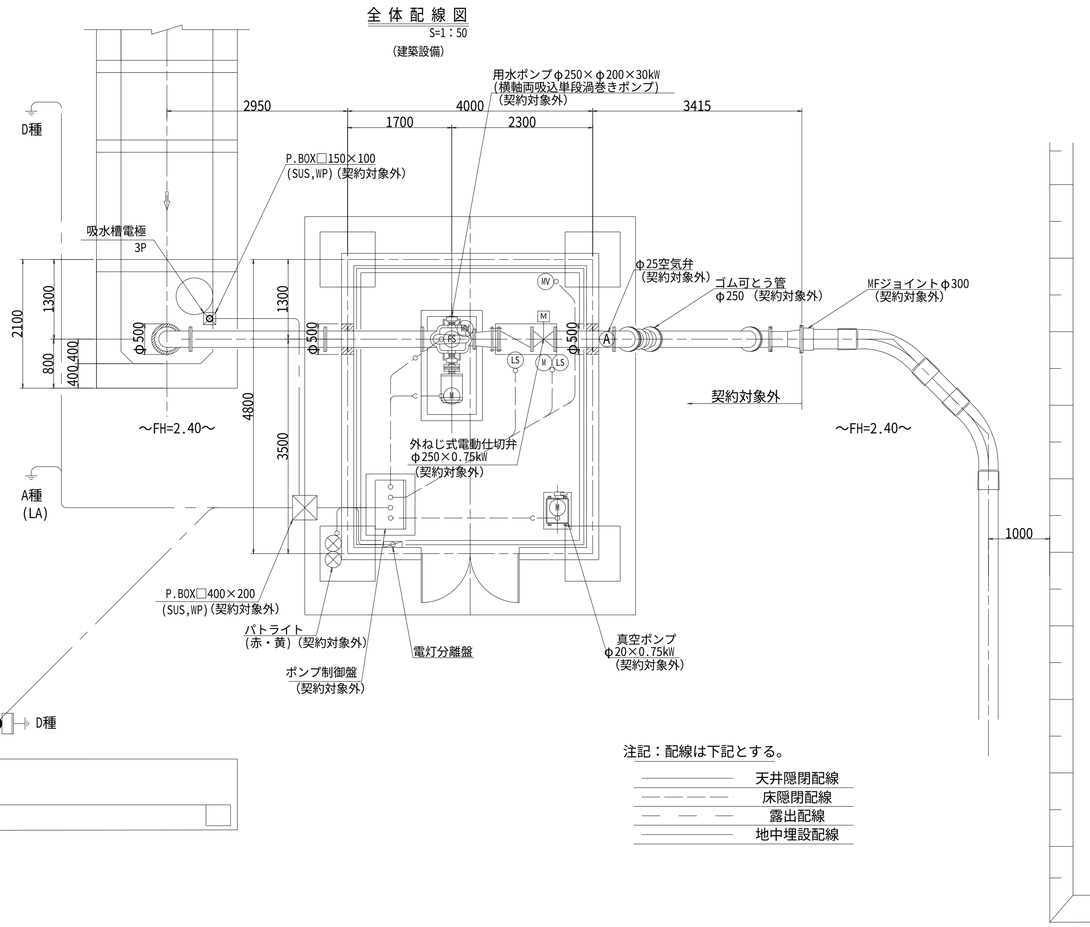
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	断面詳細図・建具表・電気設備図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	A-03
会社名			
事業者名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

篠平用水機場　配線経路図

全体配線図

S=1：50

（建築設備）

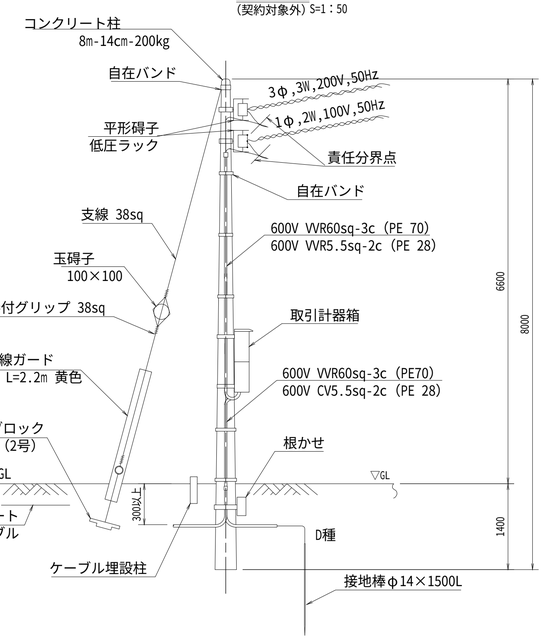


注記：配線は下記とする。

- 天井隠閉配線
- 床隠閉配線
- 露出配線
- 地中埋設配線

装柱図

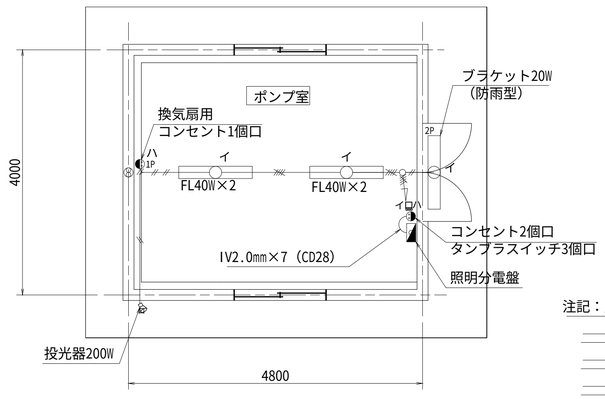
（契約対象外）S=1：50



照明配線図

S=1：50

（建築設備）



注記：照明・コンセント配線は下記とする。

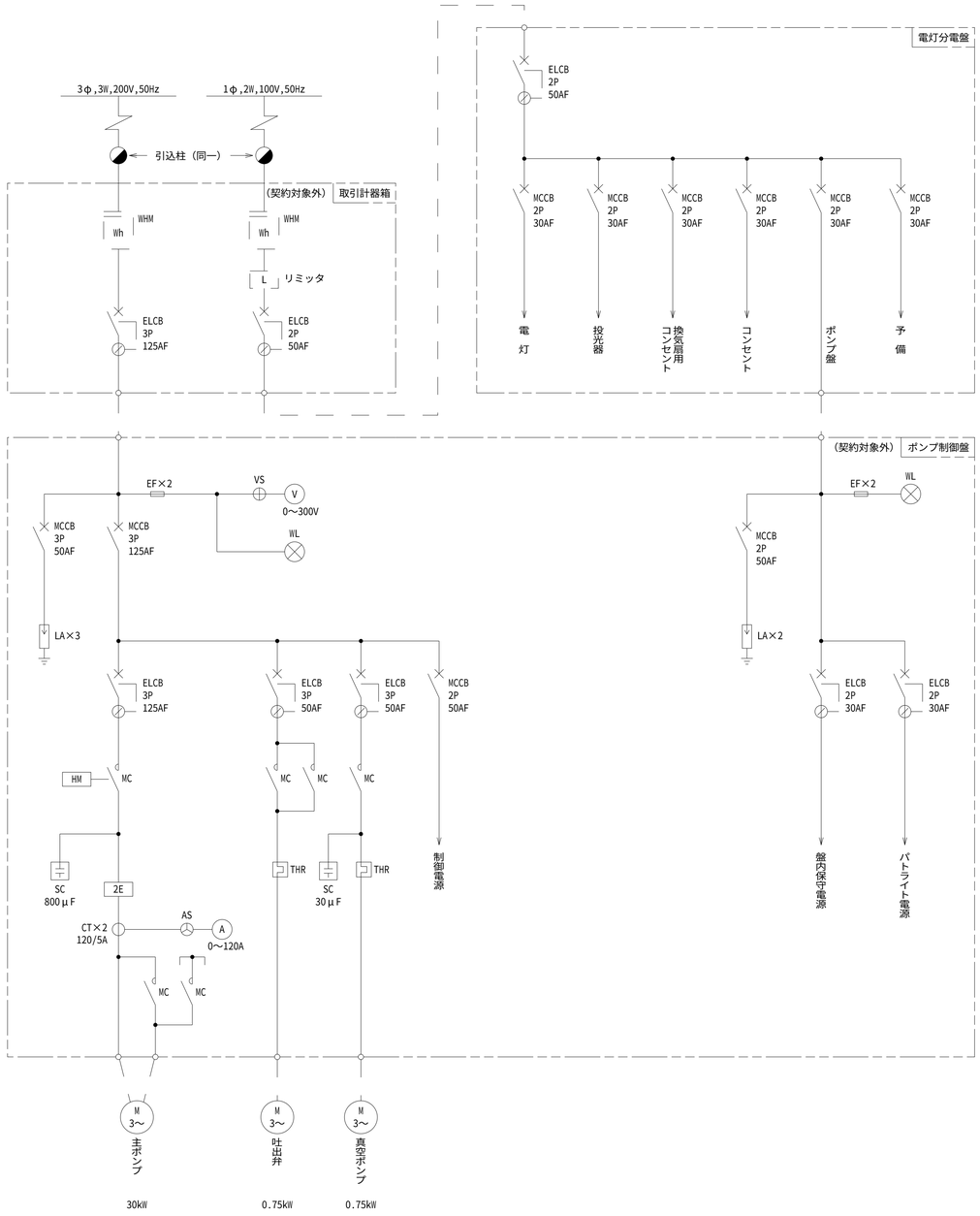
- IV2.0mm×2　(CD16)
- IV2.0mm×5　(CD22)
- IV2.0mm×7　(CD28)

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	篠平用水機場　配線経路図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	A-04
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

※本図は計画図であり、施工は承認図により行うものとする。

篠平用水機場　単線接続図

単 線 結 線 図
S=NOT



注）盤規格・寸法は参考である。

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	篠平用水機場　単線接続図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	A-05
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

構造設計特記仕様

※修正個所は下線を引くこと
適用は、■　印を記入する。

１．建築物の構造内容

（１）建築場所　※※※

（２）工事種別　■新築　□増築　□増改築　□改築

（３）構造設計一級建築士の関与　□必要　■必要としない

□法第20条第一号（高さ60m超）

□法第20条第二号（□RC造高さ20m超　□S造4階階建以上　□木造高さ13m超　□その他）

注(3)造設計一級建築士の関与が義務付けられる建築物については解説書等を参照して確認する事

（４）構造種別

□木造(W)　□補強コンクリートブロック造(CB)　■鉄骨造(S)

□鉄筋コンクリート構造（RC）　□壁式鉄筋コンクリート構造(WRC)　（スロープ部分）

□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)　□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)

□プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)　□

（５）階　数

■地下　一　階　　地上　1　階　　塔屋　一　階

（６）主要用途　揚水機場

（７）屋上附属物

□高架水槽　kN　□キュービクル　kN　□広告塔　kN

□煙突　□

（８）特殊荷重

□エレベーター　人乗(マシンルームレス　油圧式)　□人荷用エレベータ　□ホイスト　kN

□倉庫積載床用　/m2　□受水槽　kN　□

（９）附帯工事

□門塀（H=　m）　□擁壁（H=　m）　□駐輪場　□機械式駐車場

□その他（　）

（１０）増築計画

□有（　）　■無　□不明

（１１）構造計算ルート

Ｘ方向ルート　1-1　　Ｙ方向ルート　1-1

２．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（１）コンクリート　（レディーミクストコンクリート　JIS Q 1001,JIS Q 1011,JIS A 5308）

適用部位	種　類	設計基準強度（Ｆc=N/mm2）	品質管理強度（Ｆq=N/mm2）	スランプ（cm）	備考
捨コンクリート	■普通	18		8	
土間ｺﾝｸﾘｰﾄ・塀打ちｺﾝｸﾘｰﾄ	■普通	21		18	
基礎・基礎梁	■普通	24		18	
柱、梁	□普通　□軽量				
床スラブ	■普通　□軽量	21		15	
押えコンクリート	□普通　□軽量				
細骨材の種類	■砂　□山砂　□人口　■砕砂				
粗骨材の種類	■砂利　■砕石　□人口　□				
水の区分	■水道水　□地下水　□工業用水　□				
混和材料の種類（JIS　）	■AE減水材　□高性能AE減水材　□　□				
呼び強度を保証する材齢、養生	■材齢（■ 28日　□ 56日　□　□　）				
	■養生　（□現場封かん　□現場水中　■標準　□　）				

■単位水量は185kg/m3以下、単位セメント量は270kg/3以上とする。水セメント比は65%以下とする。

（２）コンクリートブロック（ＣＢ）

特記による。

（３）鉄筋

	種　類	径	使用部位	継手工法
異形鉄筋	■SD295A	D10～D16	基礎全般	■重ね継手(D16以下) □ガス圧接継手(D19以上) □溶接継手 □機械式継手
	□SD345	D19～D25		
	□SD390			
高強度せん断補強筋	□材種			□その他継手
	□大臣認定番号　MSRB-			（　）
丸　鋼　(JIS G 3112)	□SR235			
溶接金網　(JIS G 3551)	φ6X150X150			

（４）鉄　骨

種　類	使用部位	現場溶接	JIS規格・認定場号等
■SS400　□SM400　□SN400 A B C	大梁、小梁	□有・■無	JIS G 3101
■STKR400　□　□	間柱	□有・■無	JIS G 3466
■STKR400　□BCP235　□BCP325	柱	□有・■無	
□M490 B　□SN490 B　■SN490 C	ダイアフラム	□有・■無	JIS G 3136
□M490 B　□SN490 B　■SN490 C	柱BPL	□有・■無	JIS G 3136
■SSC400　□	胴縁・モヤ	□有・■無	JIS G 3350
溶接材料　□JIS Z			

※使用部位の詳細については、別途図示による。

（５）ボルト

■高力ボルト　■F10T（JIS B1186)■S10T 認定番号(　)　□F8T（露出部）認定番号(　)

高力ボルト導入張力確認試験　□必要・□不要　（■M16　■M20　■M22　□M24）

■中ボルト(JIS B1180)　M12　■4.6(4T)　□

□アンカーボルト　SS400　M**　L=　mm　ナット（□ｼﾝｸﾞﾙ・□ﾀﾞﾌﾞﾙ）

■アンカーボルト　ABR400　M16　L=　320mm（定着長さ）　ナット（□ｼﾝｸﾞﾙ・■ﾀﾞﾌﾞﾙ）

□頭付スタッドボルト　φ　L=　mm　使用個所（□柱・□大梁・□小梁）

φ　L=　mm　使用個所（□柱・□大梁・□小梁）

（６）屋根、床、壁

材　種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・工法
角波鋼板	厚　0.4	■壁　□床版	□スライド　□ボルト止め ■横胴縁+六角ねじ留め
金属パネル	折板	■屋根　□壁	■屋根t=0.6　H=85
デッキプレート　（合成スラブ）	型式　EZ50　厚1.0	□床　□	□山止コン　80mm

３．地　盤

（１）地盤調査資料と調査計画

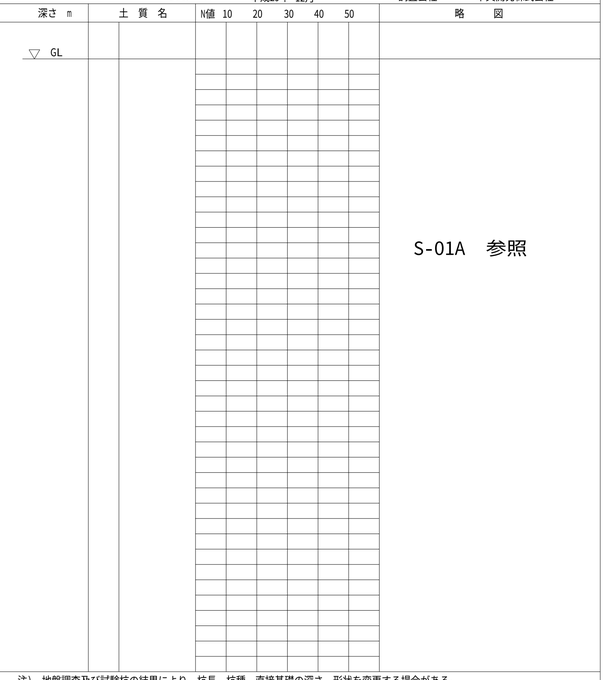
■有　（□敷地内　□近隣）　□無　（調査計画　□有　■無）

調　査　項　目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験			標準貫入試験	●	
水平地盤反力係数の測定			土質試験（粒度）	●		孔内水平載荷試験	●	
試験掘（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スエーデン式サウンディング			現場透水試験	●		ＰＳ検層		
						細粒分布含有試験		

注）　上記表中の資料が有るもの、調査計画があるものに○を記入する。

（２）標準貫入試験、土質構成　（基礎・杭の位置を明記すること）

試験　No.2　平成29年　12月　孔内水位　調査会社　設計GL＝T.P+2.4m　GL－2.1m　中央開発株式会社



注）　地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合がある。

注）　1）設計GL　●T.P+2.4 m　○ 未定

2）くい先端は、支持層内へ　m以上貫入すること

４．地業工事

（１）直接基礎

■ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　載荷試験　□有　□無

深さＧＬ　－ m　支持層　試験掘　□有　□無

長期許容支持力度：－

（２）地盤改良

□ベタ基礎　□浅層混合処理工法　■中層混合処理工法　□深層混合処理工法

深さＧＬ－　4.2　m　支持層　砂混じりシルト　長期許容支持力度：60kN/㎡（改良地盤）

載荷試験　□有　■無　改良地盤の設計基準強度：180kN/㎡

~~注）　改良杭先端深さは、試験杭(4箇所)にて決定する。~~

注）　「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参照する。

（３）杭基礎

杭　種	材　料	施工法	備　考
□ＲＣ　□ＰＣ	PRC(□Ｉ種　□II種　□III種)	□打ち込み	
□ＰＨＣ　□Ｈ鋼	PHC(□Ａ種　□Ｂ種　□Ｃ種)	□埋込み(ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ工法)	
□鋼管　□摩擦杭	鋼材　□SS400　□SKK400	□回転貫入鋼管杭工法(G-ECS PILE)	認定第　TACP-0585号 R1年　7月　23日
□ＳＣ杭　□	□JIS　□STK490	□ECS-TP工法（柱杭接続工法）	特許第　6660446号

・杭仕様　■施工計画書承認　■杭施工結果報告書提出

・試験杭　（■有　□無）　（□打ち込み　□載荷　□孔壁測定）　1本

杭径(mm)×厚(mm)	長期許容支持力(kN/m2)	短期許容支持力(kN/m2)	本数	支持層

（４）　基礎梁下　捨てコン　t＝50mm　　基礎下　捨てコン　t＝50mm

５．鉄筋コンクリート工事　（施工方法等計画書）

本構造設計特記仕様書はコンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）が36N/mm2以下に適用し、鉄筋の材種はSD390以下に適用する。

（１）コンクリート

■コンクリートはJIS A 5308に適合する認定工場の製品とし、施工に関しては基準図に記載されている事項を除き、JASS 5 による。

■耐久設計基準強度　Fd　■短期　□標準　□長期　□

■セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

■調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

■寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

■フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を－回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。

測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。

■構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、標準水中養生、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごとをとる。

また、打ち込み量が150m３をこえる場合は150m３ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。

１回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。

なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。

■ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

■コンクリート打ち込み中及び打ち込み後５日間は、コンクリートの温度が２度を下がらないようにする。

■乾燥、振動等によってコンクリートの凝結および硬化が妨げられないように養生を行う。

（２）鉄　筋

■鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。施工は基準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5 による。

□高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるＤ種１号適合品とする。

■鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。

■鉄筋継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による使用・等級				鉄筋の径
	(1)引張力最小部位	(2)　(1)以外の部位　(※)			
		A 級	B 級	C 級	
■重ね継手	□　40d　■35d　□　(　)d				■ D（　16　）以下
■圧接継手	■　告示1463号第2項各号	■			■ D（　19　）以上
□溶接継手	□　告示1463号第3項各号	□	□		□ D（　　）以下
□機械式継手	□　告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D（　　）以下

注）(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書2007）」によって検討した部材の条件・仕様によること。

□D19未満は、すべて重ね継手とする。

■継手部分の施工要領は、社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接工事標準仕様書、溶接継手工事、機械式継手工事)による。

継手部の検査方法：外観検査　■有　□無　・引張検査□有　□無　・超音波探傷検査　■有　□無

ガス圧接部分の検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについて引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。

（1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接個所で200箇所程度とする。）

■柱の帯筋（HOOP）の加工方法は、■Ｈ型（タガ型）□Ｗ型（溶接型）　□Ｓ型（スパイラルラル型）とする。

□コンクリート及び鉄筋の試験は、「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。

試験・検査機関名　（都知事登録　号）

代行業者名

代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものをいう。

（３）型　枠

■型枠材料は、合板厚　12mmを標準とする。　■型枠の施工はJASS5による。

■型枠存置期間は、下表による。

種類	せ　き　板				支　柱		
部位	基礎、梁側面、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類 / 平均気温 / 存置期間の	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強度ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5.0N/cm2		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%		100%

注）1　片持梁、庇、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の指示による。

注）2　大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。

注）3　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注）4　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注）5　支柱の盛りかえは、小梁が終ってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

注）6　直上階に著しく大きい積載荷重がある場合は、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえを行わないこと。

注）7　支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらす恐れがある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

６．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（１）鉄骨工事は、指示のない限り下記による

■日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」

■社)日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」

■鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（２）工事監理者の承認を必要とするもの

■製作工場　■製作要領書　■工作図　■施工計画書

■認定または登録工場（大臣認定　Ｓ　Ｈ　Ⓜ　Ｒ　Ｊ　グレード　ランク）

■材料規格証明書※、又は試験成績書

■鋼材　■高力ボルト　■特殊ボルト　■普通ボルト　□頭付きスタッド

※社)日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質照明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。

□社内検査表　□　□

（３）工事監理者が行う検査項目

□現寸検査　□組立て・開先検査　■製品検査(書類審査1、対物検査2による)　□建方検査　□

※「■」印については、工事監理者へその都度報告のこと。

（４）接合部の溶接は下記によること

■平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロ

□鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱

□日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、ⅢⅣ、Ⅴ、ⅥⅦ、ⅧⅨ、Ⅸ」

■日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

（５）接合部の検査

■溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法		検査率又は検査数				備　考
			工場自主検査		第三者受入検査	工事監理者	
■完全溶け込み溶接部（突合せ溶接） □	外観検査(※)		100 %	個	30 % 個	% 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
	超音波深傷試験		100 %	個	30 % 個	% 個	
	内質検査(注)	□硬さ試験	%	個	% 個	% 個	(注)東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する。
		□　示温塗料塗布	%	個	% 個	% 個	
	マクロ試験・その他		個		個	個	
■　隅肉溶接	外観検査(※)		100 %	個	30 % 個	% 個	
第三者検査機関名							
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。							

注１）現場溶接部については原則として第三者による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査100%行うこと。

注２）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主等に報告すること。

■高カボルトは「JIS B1186の高カボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショトブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

■高カボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

（６）さび止め塗装

■さび止め塗装の範囲は、高カボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。

さび止めペイントは、■JIS K 5674、□　、□　を使用して、4つ星、２回塗りを標準とするが、実状に応じて決定する。

■現場における高カボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じさび止めペイントを使用し２回塗りとする。

■屋外鉄骨は溶融亜鉛メッキとする。

７．設備関係

■建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。

■建築設備の支持構造部及び緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。

■設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。

■設備配管、配線は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。

■特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、。

■床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

８．その他

■諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。

■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

■必要に応じて記録写真を撮影し保管すること。

篠平揚水機場　建屋

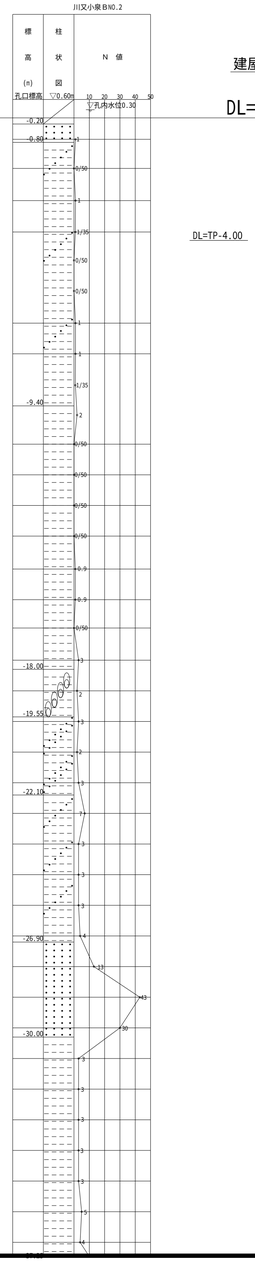
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	構造設計特記仕様		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	S-01
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

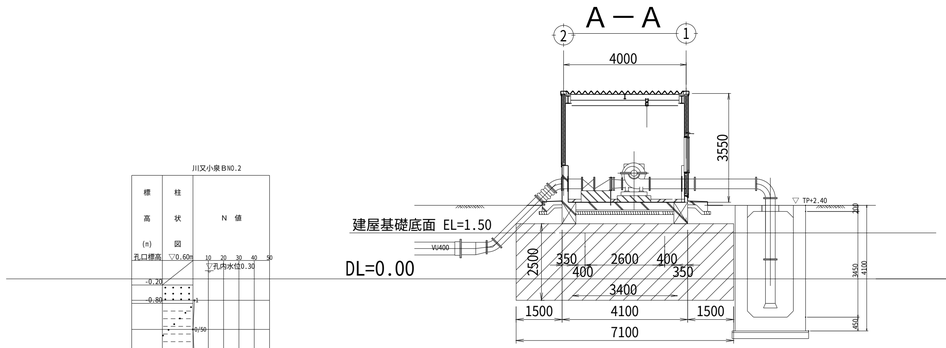
建屋地盤改良図

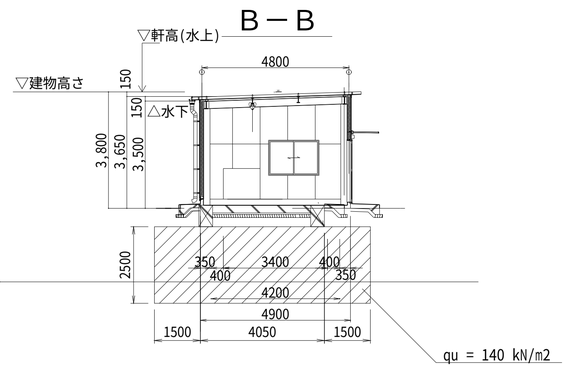
篠平用水機場　　S=1/100

検討断面図

(地盤改良工)　S=1/100







：地盤改良範囲

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	建屋地盤改良図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	S-01A
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

鉄筋コンクリート構造配筋標準図

１．一般事項

１．１　適用範囲

この配筋要領は、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造等の鉄筋工事に適用する。また、特記なき事項は公共建築協会編「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成３１年版」による。

１．２　記号

d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値　　丸鋼では径　　D･･･部材の成　　R･･･直径

@･･･間隔　　r･･･半径　　℄･･･中心線　　◊D･･･部材間の内法距離　　h･･･部材間の内法高さ

ＳＴ･･･あばら筋　　ＨＯＯＰ･･･帯筋　　Ｓ．ＨＯＯＰ･･･補強帯筋　　φ･･･直径又は丸鋼

１．３　鉄筋の表示記号

記号	●	×	∅	●	○	⊙	⊠	◎
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32

２．加工及び組立

２．１　加工及び組立一般

（１）　鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。

（２）　有害な曲がり、損傷等のある鉄筋は、使用しない。

（３）　コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。

（４）　鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークストライクを起こしてはならない。

２．２　加工

（１）　鉄筋の切断は、シヤーカッター等によって行う。

（２）　次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にフックを付ける。

（ア）　柱の四隅にある主筋の重ね継手及び最上階の柱頭

（イ）　梁の出隅及び下端の両隣にある梁主筋の重ね継手（基礎梁を除く。）

（ウ）　煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む。）

（エ）　杭基礎のベース筋

（オ）　帯筋、あばら筋及び幅止め筋

（３）　鉄筋の折曲げ形状及び寸法は、表２．１による。

表２．１　鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（Ｒ）		
		ＳＤ295Ａ、ＳＤ295Ｂ、ＳＤ345		ＳＤ390
		Ｄ16以下	Ｄ19～Ｄ38	Ｄ19～Ｄ38
180°	4d以上	3d以上	4d以上	5d以上
135°	6d以上			
90°	8d以上			
135°及び90°（幅止め筋）	6d以上　6d以上			

（注）１．片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

２．90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

２．３　組立

鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、吊金物等を使用して、堅固に組み立てる。

なお、スペーサーは、所定の位置に鉄筋を保持するとともに、作業荷重等に耐えられるものとする。また、鋼製スペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。

２．４　継手及び定着

（１）　鉄筋の継手は、重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手又は溶接継手とし、適用は特記による。

（２）　鉄筋の継手位置は、特記による。

（３）　鉄筋の重ね継手は、次による。

なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

（ア）　柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。特記がなければ、耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40d又は表２．２の重ね継手長さのうちいずれか大きい値とする。

（イ）　(ア)以外の鉄筋の重ね継手の長さは、表２．２による。

表２．２　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆc（Ｎ/mm²）	Ｌ₁(フックなし)	Ｌ₁ₕ(フックあり)
ＳＤ295Ａ ＳＤ295Ｂ	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24、27	35d	25d
	30、33、36	35d	25d
ＳＤ345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24、27	40d	30d
	30、33、36	35d	25d
ＳＤ390	21	50d	35d
	24、27	45d	35d
	30、33、36	40d	30d

（注）１．Ｌ₁、Ｌ₁ₕ：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ

２．フックありの場合の　Ｌ₁ₕは、図２．１に示すようにフック部分　◊を含まない。

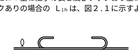


図２．１　フックありの場合の重ね継手の長さ

（４）　隣り合う継手の位置は、表２．３による。ただし、スラブ筋でＤ16以下の場合及び壁筋の場合は除く。

なお、先組み工法等で、柱及び梁の主筋のうち、隣り合う継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表２．３　隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	a ＝0.5 Ｌ₁ₕ　　a ≧0.5 Ｌ₁ₕ
	フックなしの場合	a ＝0.5 Ｌ₁　　a ≧0.5 Ｌ₁
溶接継手 圧接継手	—	圧接継手・溶接継手　a ≧400mm
機械式継手	—	カップラー　a ≧400mm、かつ、a ≧(b＋40)mm

（５）　鉄筋の定着は、次による。

（ア）　鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、表２．４による。

表２．４　鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆc（Ｎ/mm²）	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
		Ｌ₁	Ｌ₂	Ｌ₁ 小梁	Ｌ₁ スラブ	Ｌ₁ₕ	Ｌ₂ₕ	Ｌ₁ₕ 小梁	Ｌ₁ₕ スラブ
ＳＤ295Ａ ＳＤ295Ｂ	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d			30d	25d		
	24、27	35d	30d			25d	20d		
	30、33、36	35d	30d			25d	20d		
ＳＤ345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24、27	40d	35d	(片持小梁の場合は25d)	(片持スラブの場合は25d)	30d	25d		
	30、33、36	35d	30d			25d	20d		
ＳＤ390	21	50d	40d			35d	30d		
	24、27	45d	40d			35d	30d		
	30、33、36	40d	35d			30d	25d		

※注意事項　柱に取り付ける梁の主筋は、柱の主筋に溶接する場合を除き、柱に定着される部分の長さをその径の40倍以上とする。

（注）１．Ｌ₁、Ｌ₁ₕ：２．から４．まで以外の直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ

２．Ｌ₂、Ｌ₂ₕ：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ

３．Ｌ₁'：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎側圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。

４．Ｌ₁ₕ：小梁の下端筋のフックありの定着の長さ

５．フックありの定着の場合は、図２．２に示すようにフック部分　◊を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

直線定着の長さ

フックあり定着の長さ

図２．２　直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

（イ）　仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さしが、表２．４のフックあり定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、特記による。特記がなければ、図２．３により、次の(ａ)から(ｃ)までを全て満足するものとする。

(ａ) 全長は、表２．４の直線定着の長さ以上とする。

(ｂ) 余長は8d以上とする。

(ｃ) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さ　Ｌ₃及び　Ｌ₄は、表２．５に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。

梁主筋の
柱内折曲げ定着の投影定着長さ

小梁及びスラブの上端筋の
梁内折曲げ定着の投影定着長さ

図２．３　折曲げ定着の方法

表２．５　投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆc（Ｎ/mm²）	Ｌ₃	Ｌ₄
ＳＤ295Ａ ＳＤ295Ｂ	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24、27	15d	15d
	30、33、36	15d	15d
ＳＤ345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24、27	20d	15d
	30、33、36	15d	15d
ＳＤ390	21	20d	20d
	24、27	20d	20d
	30、33、36	20d	15d

（注）１．Ｌ₃：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
（基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。）

２．Ｌ₄：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
（片持小梁及び片持スラブを除く。）

（６）　溶接金網及びスパイラル筋の継手及び定着は、次による。

（ア）　溶接金網の継手及び定着は、図２．４による。

なお、Ｌ₁は表２．２に、Ｌ₁ₕ及びＬ₁は表２．４による。

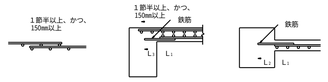


図２．４　溶接金網の継手及び定着

（イ）　スパイラル筋の継手及び定着は、図２．５による。

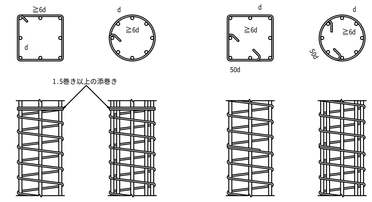


図２．５　スパイラル筋の継手及び定着

２．５　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

（１）　鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、特記による。特記がなければ、表２．６による。ただし、柱及び梁の主筋にＤ29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表２．６　鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種類			最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20
		仕上げなし	30
	柱、梁、耐力壁	屋内　仕上げあり	30
		屋内　仕上げなし	30
		屋外　仕上げあり	30
		屋外　仕上げなし	40
	擁壁、耐圧スラブ		40
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁		40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		60
煙突等高熱を受ける部分			60

（注）１．この表は、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。

２．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。

３．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。

４．杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭天端からとする。

（２）　柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

（３）　鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

（４）　鉄筋相互のあきは図２．６により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合のあきは、特記による。

（ア）　粗骨材の最大寸法の 1.25倍

（イ）　25mm

（ウ）　隣り合う鉄筋の径（１.２による ｄ）の平均の 1.5倍

図２．６　鉄筋相互のあき

（５）　鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(４)による。

（６）　貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

２．６　鉄筋の保護

（１）　鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡す等の措置を講じ、直接鉄筋の上を歩かないようにする。

（２）　コンクリートの打込みによる、鉄筋の乱れを可能な限り少なくするとともに、かぶり厚さ、鉄筋の位置及び間隔の保持に努める。

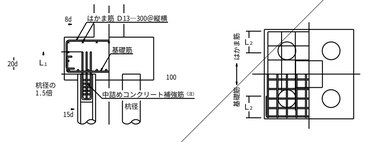
３．基礎及び基礎梁の配筋

３．１　杭基礎の配筋

（１）　既製コンクリート杭の杭頭部の補強方法は、図３．１のＡ形又は図３．２のＢ形とし、適用は特記による。特記がなければ、Ｂ形とする。

（２）　中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。

（３）　既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。

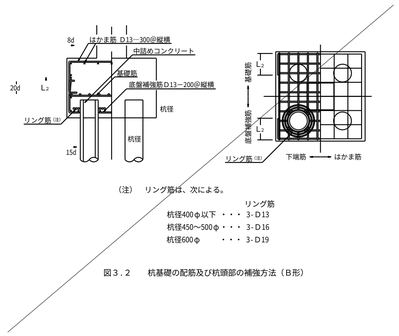


（注）１．中詰めコンクリート補強筋は、次による。

	補強軸筋	補強帯筋
杭径300φ以下	4-D13	D10-100@
杭径350～400φ	6-D13	D10-100@
杭径450～600φ	8-D13	D13-100@

２．中詰めコンクリート補強軸筋には、フックを付けない。

図３．１　杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法（Ａ形）



（注）　リング筋は、次による。

	リング筋
杭径400φ以下	3-D13
杭径450～500φ	3-D16
杭径600φ	3-D19

図３．２　杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法（Ｂ形）

３．２　直接基礎の配筋

（ａ）　直接基礎（独立基礎）の場合の配筋は、図３．３による。

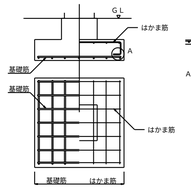


図３．３　独立基礎の配筋

（ｂ）　直接基礎（連続基礎）の場合の配筋は、図３．４による。

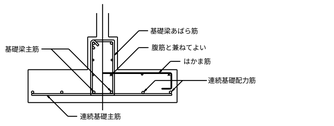


図３．４　連続基礎の配筋

３．３　基礎接合部の補強配筋

基礎接合部の補強配筋は、図３．５による。

※　Ｌₐを確保できない場合は、２．４(５)(イ)によることができる。

図３．５　基礎接合部の補強配筋

３．４　基礎梁主筋の継手、定着及び余長

（１）　一般事項

（ア）　梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図３．６による。

（イ）　梁筋を柱内に定着する場合は、５．１(５)(イ)による。

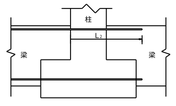
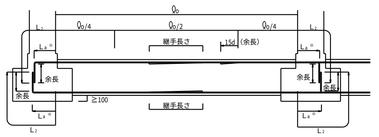


図３．６　梁筋の基礎梁内への定着

（２）　独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図３．７による。



（注）　１．図示のない事項は、５．１による。

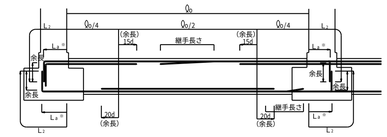
２．　印は、継手及び余長位置を示す。

３．破線は、柱内定着の場合を示す。

※　Ｌₐの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図３．７　主筋の継手、定着及び余長（その１）

（３）　独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図３．８による。ただし、耐圧スラブが付く場合は、（４）による。



（注）　１．図示のない事項は、５．１による。

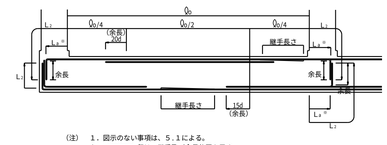
２．　印は、継手及び余長位置を示す。

３．破線は、柱内定着の場合を示す。

※　Ｌₐの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図３．８　主筋の継手、定着及び余長（その２）

（４）　連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図３．９による。



（注）　１．図示のない事項は、５．１による。

２．　印は、継手及び余長位置を示す。

３．破線は、柱内定着の場合を示す。

※　Ｌₐの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図３．９　主筋の継手、定着及び余長（その３）

３．５　基礎梁のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は、５．２(１)による。ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが 1.5m以上の場合は、図３．１０によることができる。

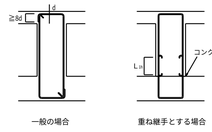


図３．１０　あばら筋組立の形及びフックの位置

篠平揚水機場　建屋

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図		
年月日			
縮尺	-	図面番号	S-02
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

鉄骨構造標準図（1）

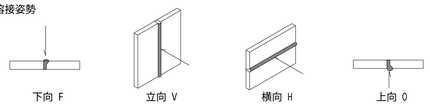
１．一般事項

（１） 材料及び検査
- （ａ）構造計算仕様による
- （ｂ）適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40㎜以下のものとする
  但し、ベースプレートの厚さは除く
- （ｃ）社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

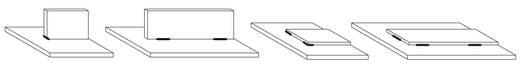
（２） 工作一般
- （ａ）鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
- （ｂ）鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- （ｃ）高張力鋼のひずみ矯正は、冷間矯正とする

（３） 高力ボルト接合
- （ａ）本締めに使用するボルトと仮締めボルトの併用はしてはならない
- （ｂ）高力ボルトの摩擦面処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μmRz以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- （ｃ）高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う

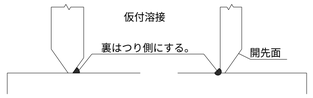
（４） 溶接接合
- （ａ）平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること
- （ｂ）溶接技能者
  溶接技能者は施工する溶接に適応するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
- （ｃ）溶接機器
  （イ）交流アーク溶接機　300A～500A
  （ロ）アークエアーガウジング機(直流)
  （ハ）サブマージアーク溶接機1式
  （ニ）炭酸ガスアーク半自動溶接機
  （ホ）溶接電流を測定する電流計
  （ヘ）溶接棒乾燥器
- （ｄ）溶接方法
  アーク手溶接(MC)
  セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC)
  ガスシールドアーク半自動溶接機(GC)
  アークエアーガウジング(AAG)
- （ｅ）溶接姿勢



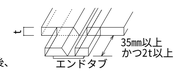
- （ｆ） 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
  （イ） 仮付位置
  組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



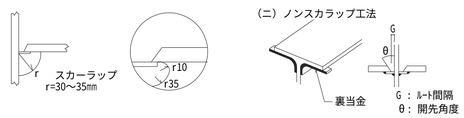
（ロ）完全溶込み溶接部分の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



（ｆ） 溶接施工
- （イ）エンドタブ
  Ⅰ)完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
  Ⅱ)エンドタブの材質は、母材と同質とする
  Ⅲ)エンドタブの長さは、ＭＣ：35㎜以上
  ＮＧＣ，ＧＣ：40㎜以上とし特記のない場合は、溶接終了後、
  母材より10㎜程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
  Ⅳ)プレス鋼板タブ、固形タブ使用については資料を提出して設計者
  又は工事監理者の承認を得る



- （ロ）裏あて金
  材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6㎜、半自動溶接で9㎜以上、巾は25㎜以上を原則とする
  但し、溶接性能が確認できなければ監理者の承認を得て変更することができる
- （ハ）スカラップ　半径は30～35㎜と10㎜のダブルアールとする
  但し梁成がD=150㎜ 未満の場合のスカラップはr=20㎜とする



- （ホ）裏はつり
  規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける
- （ヘ）現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う

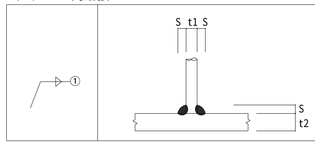
（５） 塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

２．溶接規準図

(注)f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長

(単位㎜)

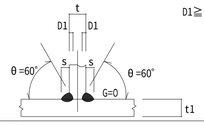
（１）スミ肉溶接



t≦16㎜				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

- ・但し片面溶接の場合はS=tとする
- ・tはt1 ,t2の小なる方とする
  余盛は(1+0.1S)㎜ 以下とする
- ・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

（２）部分溶け込み溶接　（使用箇所に注意）



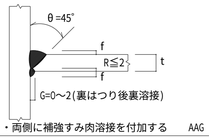
D1≧t/3

t/4≦S≦10㎜
t≦t1

t	t＞16㎜
溶接姿勢	F.V

・両側に補強すみ肉溶接を付加する

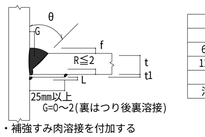
（３）完全溶け込み溶接　（平継手　T形継手）



f=t/4

t	6＜t＜19㎜
溶接姿勢	F.V

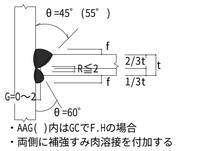
・両側に補強すみ肉溶接を付加する　AAG



f=t/4

	MC			NGC			GC		
t㎜	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L	
6≦t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5	
12≦t＜16	35°	9	9	8	35°	9	9	8	
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	8	
溶接姿勢	F.V								

・補強すみ肉溶接を付加する

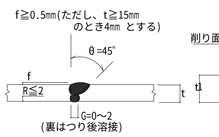


f=t/4
T形突合せ継手余盛

のど厚t㎜	余盛の高さ㎜
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
t＞19	4

t	t≧19㎜
溶接姿勢	F.V

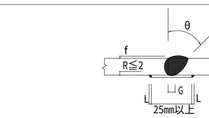
・AAG( )内はGCでF.Hの場合
・両側に補強すみ肉溶接を付加する



a＞4㎜の場合
平継手で板厚が異なるとき

・両側に補強すみ肉溶接を付加する

t	6＜t＜19㎜
溶接姿勢	F.V

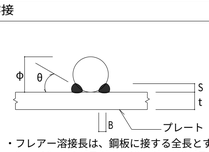


f=t/4

	MC			NGC			GC		
t㎜	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L	
6＜t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5	
12≦t＜19	35°	9	9	5	45°	9	9	5	
t＞19	35°	9	9	8	35°	9	9	8	
溶接姿勢	F.V								

（４）フレアー溶接

K形の場合

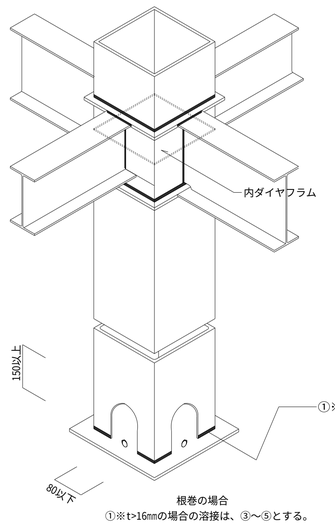


寸法(㎜)		
Φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
・9㎜～16㎜は1パス以上、19㎜以上は2パス以上とする
溶接棒角度θは　30°～40°とする

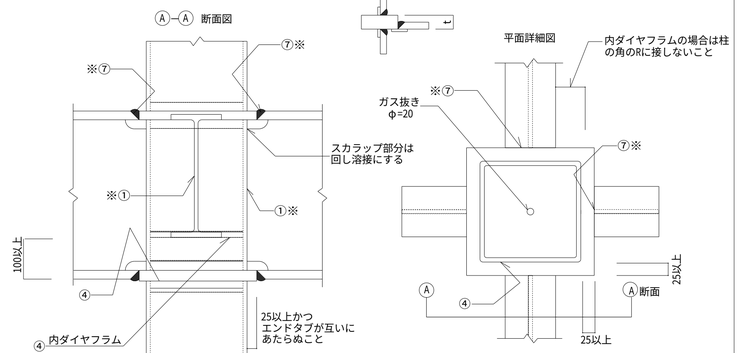
○溶接記号番号を○中に記入のこと

●ＢＯＸ型（通しダイヤフラムの場合）



①※t>16㎜の場合の溶接は、③～⑤とする。

⑦※はりフランジは、通しダイヤフラムの厚み(t)の内部で溶接する事。



①※t>16㎜の場合の溶接は、②又は③～⑤とする。

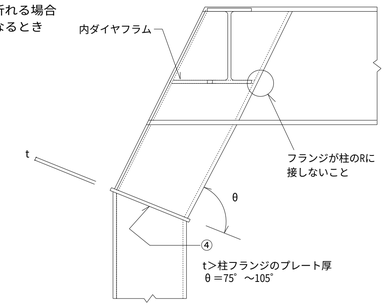
ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の2サイズアップ以上とする。
＜柱材料：BCR295、BCP325を使用する場合＞
ダイアフラムは、柱ﾌﾗﾝｼﾞ厚　16㎜未満の場合　SN490C　SN490B＝
柱ﾌﾗﾝｼﾞ厚　16㎜以上の場合　SN490C　を使用する。

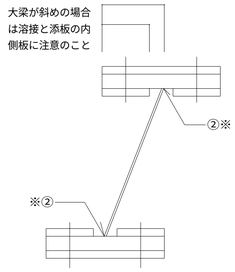
●鋼材種別による溶接条件

鋼材種類	溶接材料		入熱(KJ/cm)	パス間温度(°C)
SS400級鋼	JIS Z 3211、3212、3214			
	JIS Z 3312	YGW-11、15	40　以下	350　以下
		YGW-18、19		
	JIS Z 3315	YGA-50Ⅱ、50P		
SS490級鋼	JIS Z 3312、3214		40　以下	350　以下
	JIS Z 3312	YGW-11、15	35　以下	250　以下
		YGW-18、19	40　以下	350　以下
	JIS Z 3315	YGA-50Ⅱ、50P		

注）　STKR、BCR、BCP材はJIS Z 3312、のみ使用可
「構造設計特記仕様 6.鉄骨工事(2)□認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

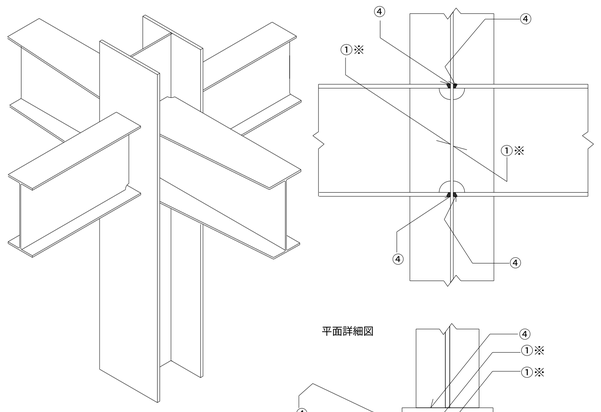
●柱が途中で折れる場合及梁成が異なるとき





②※t>16㎜の場合の溶接は、③～⑤とする。

●ＢＨ方式



①※t>16㎜の場合の溶接は、③～⑤とする。

篠平揚水機場 建屋

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	鉄骨構造標準図(1)		
年月日			
縮尺	-	図面番号	S-03
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

鉄骨構造標準図（2）

※修正個所は下線を引くこと

3．継手規準図、その他

（1） ボルトピッチ(P)、ボルト穴径、最小縁端距離

(mm)

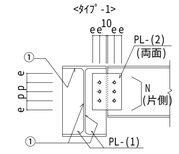
呼び		ボルト穴径	最小縁端距離(e)				ピッチ(P)	
			(1)	(2)	(3)	(2),(3)の標準	最小	標準
M16		18	40	28	22	40	40	60
M20		22	50	34	26	40	50	60
M22		24	55	38	28	40	55	60
M24		26	60	44	30	45	60	70
アンカーボルト・ボルト	M16	21（16.5）		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25（20.5）		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27（22.5）		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29（24.5）		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M34以上	呼び径+5		9d/5	4d/3			

（ ）内にボルトを示す

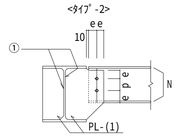
(注) (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（2） ピン接合梁継手リスト

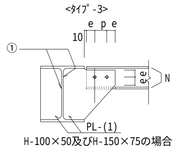
<タイプ-1>



<タイプ-2>



<タイプ-3>

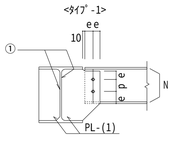


H-100×50及びH-150×75の場合

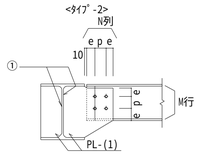
符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
3B1,3G1	2	H-488X300X11X18	12		5-M22 p@80
RG2（横使い）	2	H-340X250X9X14	9		4-M20 p@65
sb50b	2	H-488X300X11X18	12		5-M22 p@80
sb50	2	H-500X200X10X16	12		6-M20 p@70
sb45	2	H-450X200X9X14	9		5-M20 p@70
sb40	2	H-400X200X8X13	9		4-M20 p@70
sb35	2	H-350X175X7X11	9		3-M20 p@85
sb30	2	H-300X150X6.5X9	9		3-M20 p@85
sb25	2	H-250X125X6X9	6		3-M20 p@60
sb20	2	H-200X100X5.5X8	6		2-M20 p@60
sb15b	3	H-148X100X6X9	6		2-M16 p@60
sba	3	[-150X75X6.5X10	9		2-M16 p@60
Hsb30b	2	H-294X200X8X12	9		3-M20 p@70
Hsb25b	2	H-244X175X7X11	9		3-M20 p@60
Hsb20b	2	H-194X150X6X9	6		2-M16 p@60
P10c	3	H-100X100X6X8	6		2-M16 p@60
P15c	3	H-150X150X7X10	9		2-M20 p@60
P17c	2	H-175X175X7.5X11	9		2-M20 p@60

※.ボルトは、全て高力ボルトＨＴＢ(F10T又は、S10T)とする。

<タイプ-1>



<タイプ-2>

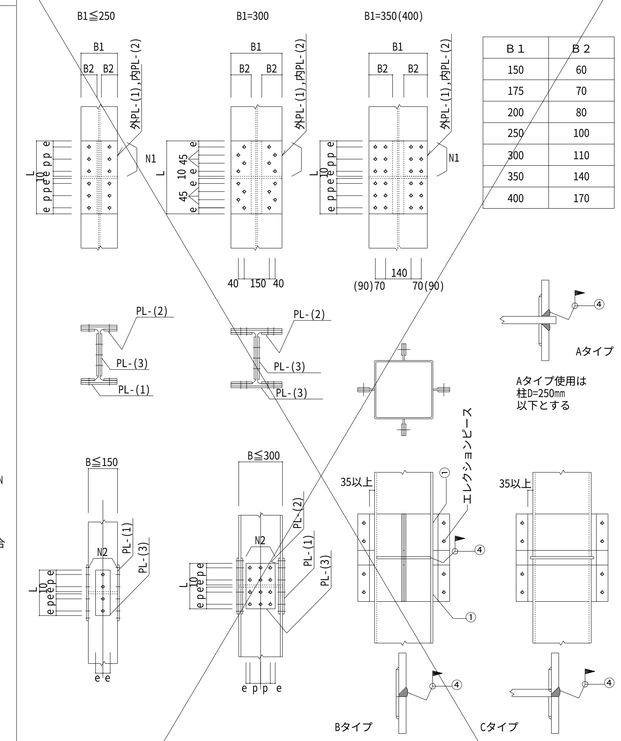


○横補剛材接合部

符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	M×N-径
sb40	1	H-400X200X8X13	9		4-M22 p@70
sb35	2	H-350X175X7X11	9		2X2-M22 p@85
sb30	2	H-300X150X6.5X9	12		2X2-M22 p@85
sb25	2	H-250X125X6X9	9		3X2-M20 p@60
sb20	2	H-200X100X5.5X8	12		2X3-M22 p@60

※.ボルトは、全て高力ボルトＨＴＢ(F10T又は、S10T)とする。

（5） 柱継手リスト （SCSS-H97による）



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注)現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う

符号	部材	フランジ			ウエブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
C1	□-350X350X16					

（6） 鉄筋ブレース （JIS規格品とする・・・JIS A 5540…1982/5541・5542…1982）

（a）羽子板ボルト

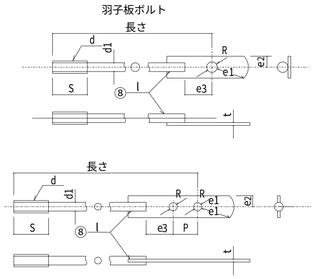
ねじの呼び(d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
	最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ S		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 R 許容差 +0,-0.5㎜		13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小) (2) e1		35	40	45	50	50	55	50
切板製	はしあき(最小) (1) e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小) (1) e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小) e 3		47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小) l		40	50	55	85	75	85	85
(2) 取付ボルト	種類	JIS B 1186 2種高力ボルト（F10T）又は JIS B 1180 中8g 10.9						
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数	1	1	1	1	1	1	2

注)(1) e1、e2が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする

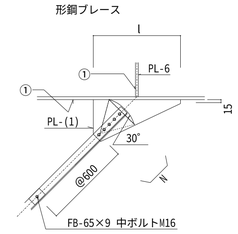
（b）形鋼ブレース

符号	部材	PL-(1)	N-径	l

羽子板ボルト

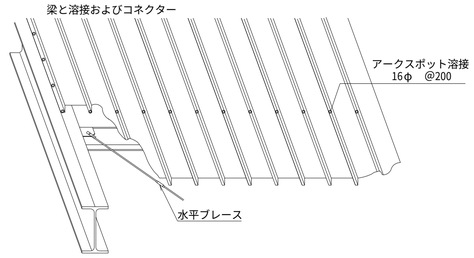


形鋼ブレース



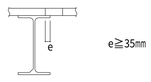
（7） デッキプレート （床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）

梁と溶接およびコネクター



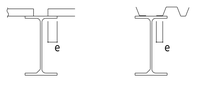
受梁へのかかり寸法および端部処理

梁上通しの場合

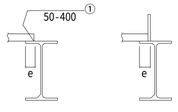


既製品面戸(鉄板)　折曲加工

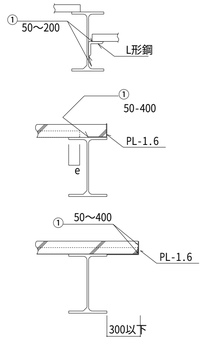
梁上切断の場合



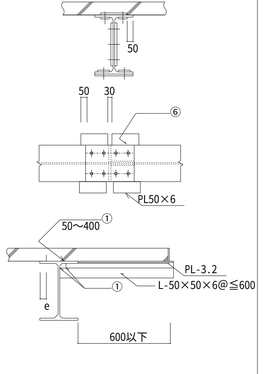
あて板(鉄板)　あて板(非金属)



スラブ端部の補足材



補足受材



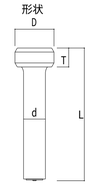
（8） 柱脚

注）許容応力度設計を行わなかった場合の構造形式

露出形式柱脚	根巻形式柱脚	埋込み形式柱脚

（9） 頭付きスタッド （JIS1198）

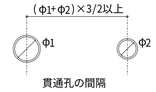
スタッド材の標準形状・寸法

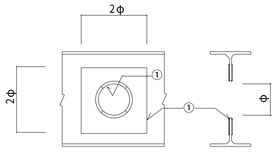


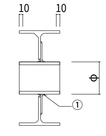
呼び名	スタッド材 軸径d ㎜	頭径D ㎜	頭高さT ㎜	溶接後の長さL ㎜
φ13㎜	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50,80,100,130
φ16㎜	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	(80),100,110
φ19㎜	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	(80),100,110,150
φ22㎜	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100,130,150

（１０） 梁貫通補強

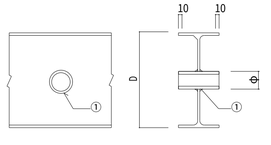
・計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくてよい
・梁端部(スパンのl/10以内かつ2D以内)は避ける
・φ≦0.4D



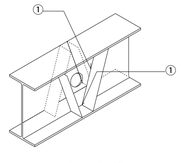




プレート補強(片面又は両面)



パイプとプレート補強(片面)



パイプ補強(小径の場合)

プレート補強の板厚

スリーブ径	補強板
φ≦0.15D	補強板不要
φ≦D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦D/3	Web板厚×1.2倍以上（片面）
φ≦0.4D	Web板厚以上（両面）

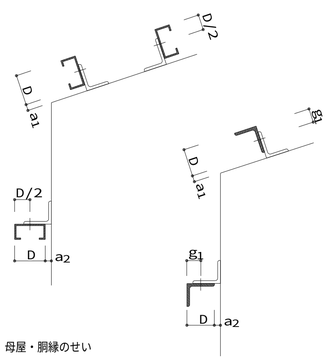
リブプレート補強

篠平揚水機場 建屋

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	鉄骨構造標準図(2)		
年月日			
縮尺	-	図面番号	S-04
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

母屋・胴縁関係

1．取付方向及び取付位置



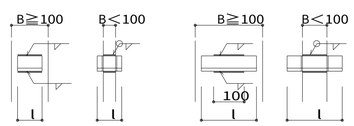
D ：母屋・胴縁のせい
g1：標準ゲージ
a1：母屋の肌すき寸法　10~25
a2：胴縁の肌すき寸法　10~25

2．取付部材(ピース)の寸法

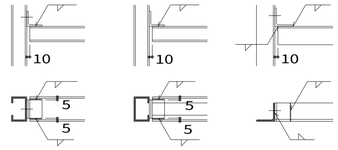
		取付部材(ピース)
母屋・胴縁のせい (D)	65	L- 75× 75×6
	75	L- 90× 90×7
	90	L-100×100×7
	100	L-100×100×7
	120	L-120×120×8
取付ボルト	2-M12	100 (25 50 25)　210 (100 100)
孔径は軸径+1	1-M16	60 (30 30)　130 (60 60)

3．取付部材(ピース)の接合

梁、柱に取付く場合の溶接
ピースの長さ　l≦100　　ピースの長さ　l>100
B：梁、柱の幅

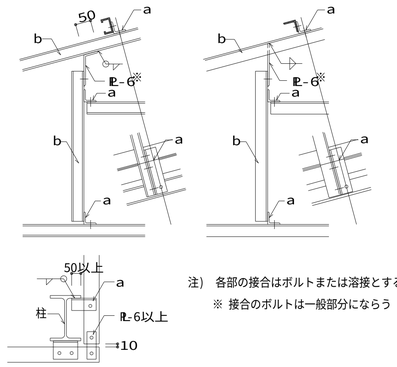


胴縁(母屋)相互に取付く場合の溶接



4．のぼり胴縁付近及び壁の出隅部

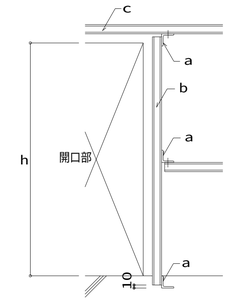
a材 ： 使用するボルト，部材は一般部分にならう
b材 ： 部材は一般胴縁に同じ



注） 各部の接合はボルトまたは溶接とする
※ 接合のボルトは一般部分にならう

5．壁開口周辺部

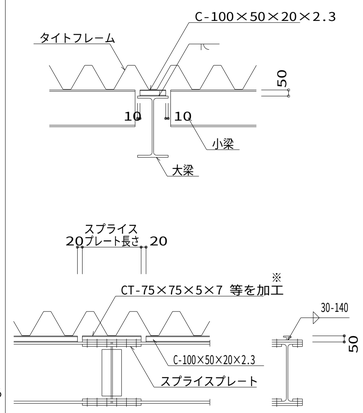
a材 ： 使用するボルト，部材は一般部分にならう
b材 ： 一般胴縁に同じ、ただしｈ＞2,000の場合は断面リストによる
c材 ： 断面リストによる



注） 各部の接合はボルトまたは溶接とする

折板取合関係

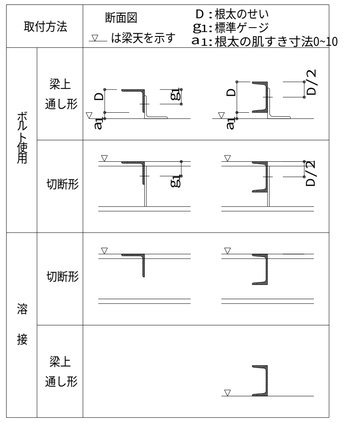
1．折板取合部分詳細図



※現場溶接とする場合は、監理者の承認を受けること。

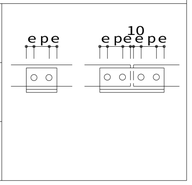
根太関係

1．取付位置及び取付寸法



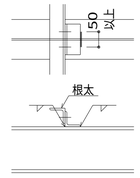
2．取付部材の寸法(ボルト使用の梁上通し形の場合)

		取付部材(ピース)
根太のせい (D)	50	L- 50× 50×6
	60	L- 60× 60×5
	65	L- 75× 75×6
	75	L- 75× 75×6
	90	L- 90× 90×7
	100	L- 90× 90×7
	125	L-100×100×7
取付ボルト	2-M12	p=50 e=25
	2-M16	p=60 e=35
	2-M20	p=70 e=40

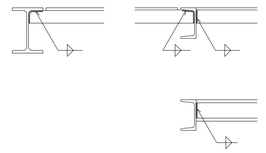


3．取付部材と梁の接合

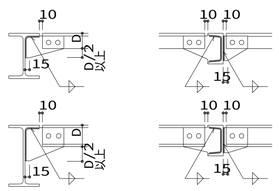
梁の上面(フランジ)に取付ける場合



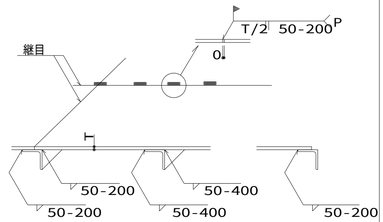
梁の側面に取付ける場合(直接根太を溶接する場合)



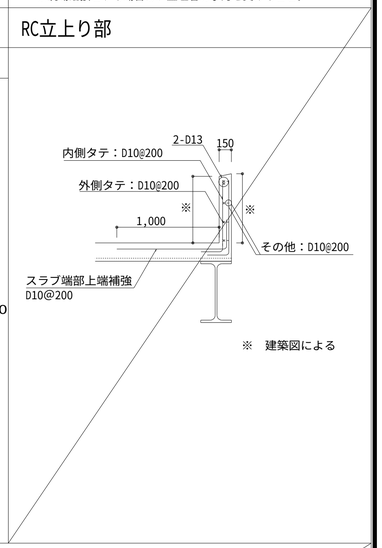
梁の側面に取付ける場合(ガセットプレートを介する場合)



4．鋼板及び縞鋼板の継目の溶接



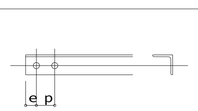
RC立上り部



※ 建築図による

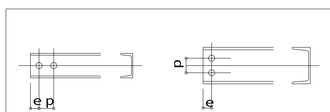
根太・つなぎ材の仕口

1．山形鋼 （SS400）



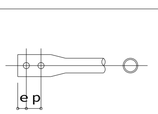
部材	接合部			
	H.T.B	G.IP	e	p
L- 50×50×6	2-M12	6	35	60
L- 60×60×5	2-M12	6	35	60
L- 65×65×6	2-M16	6	35	60
L- 75×75×6	2-M16	6	35	60
L- 90×90×7	2-M20	9	40	70

2．溝形鋼 （SS400）



部材	接合部				タイプ
	H.T.B	G.IP	e	p	
[-100×50×5	2-M16	6	35	60	A
[-125×65×6	2-M16	6	35	60	A
[-150×75×6.5	2-M16	6	35	60	B
[-180×75×7	2-M20	9	40	70	B
[-200×80×7.5	2-M20	9	40	70	B

3．鋼管 （STK400）



部材	接合部			
	H.T.B	G.IP	e	p
Φ-48.6×3.2	2-M16	6	35	60
Φ-60.5×3.2	2-M16	6	35	60
Φ-76.3×3.2	2-M16	6	35	60

鉄骨階段

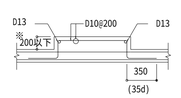
採用タイプ
には使用部材を記入する

S-07参照

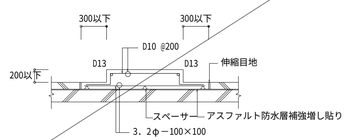
設備機器基礎配筋図

註記：※印 寸法は 一般図による。

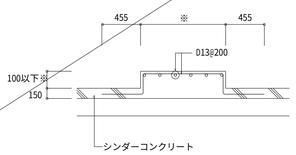
（露出防水の場合）



（防水ｺﾝｸﾘｰﾄ押えの場合）

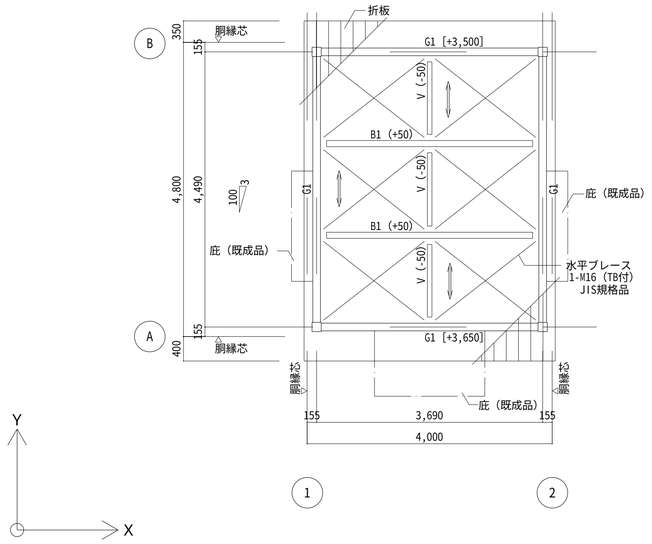


（浮床あり）



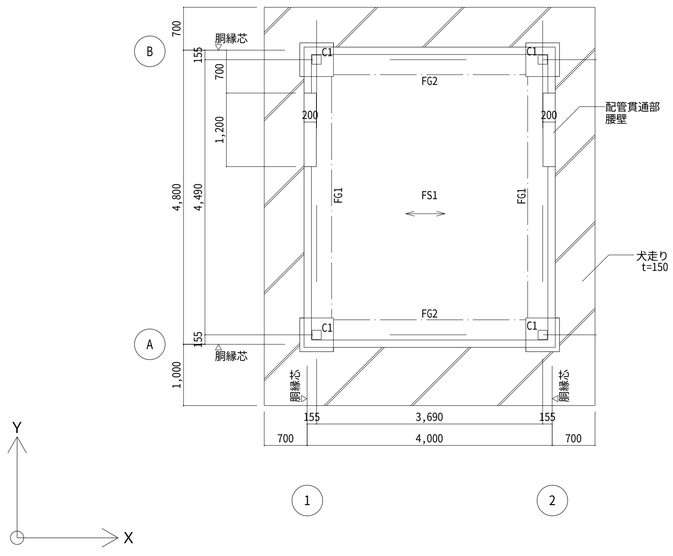
篠平揚水機場 建屋

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	母屋・胴縁		
年月日			
縮尺	-	図面番号	S-05
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		



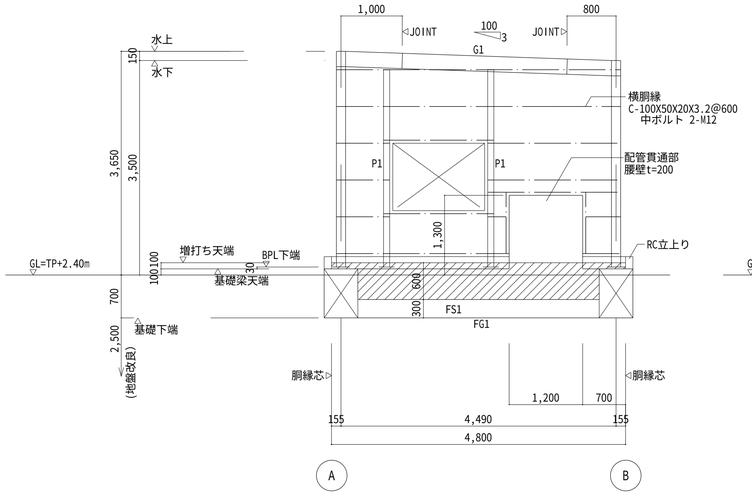
梁伏図　1：50(A1) 1:100(A3)

特記なき限り、下記とする。
1. [　　] はGLからの天端レベルを示す。
2. ⟸⟹ は折板(ガルバリウム鋼板 t=0.6,H=85)方向を示す。
3. (　　) は大梁天端からの小梁天端レベルを示す。



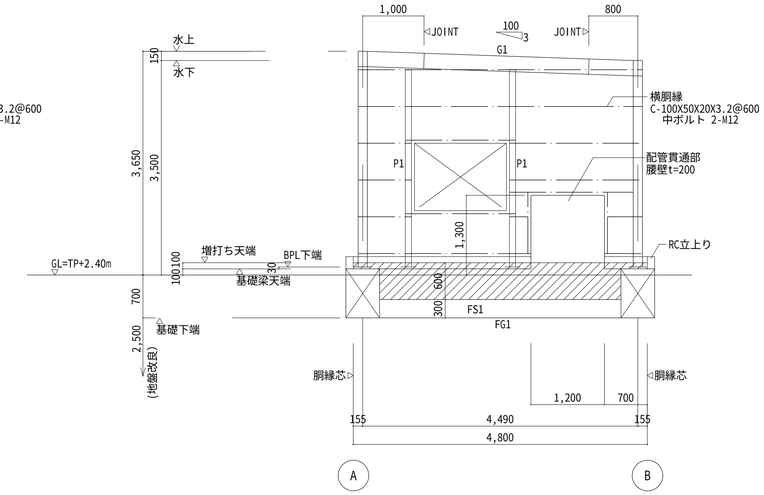
基礎伏図　1：50(A1) 1:100(A3)

特記なき限り、下記とする。
1. 設計GL＝TP+2.40mとする。
2. 基礎梁天端はGL+100とする。
3. FS1天端はGL-400とする。
4. ⟷ は主筋方向を示す。
5. ▨ は土間コンクリートを示す。
6. 土間コンクリート天端＝GL+140とする。
7. 浅層地盤改良・先端レベルはS-01A参照のこと。
8. 基礎（FS1）下端レベルはGL-700とする。



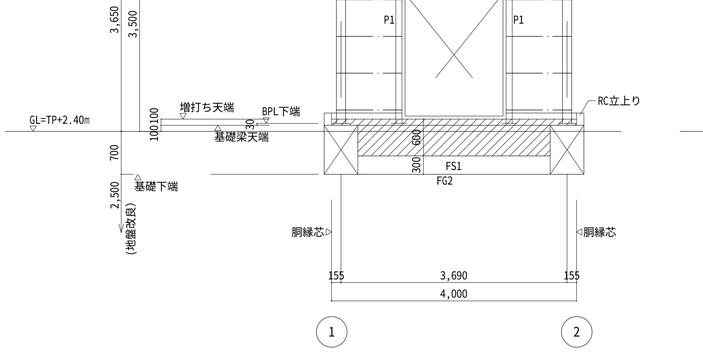
１通り軸組図　1：50(A1) 1:100(A3)

特記なき限り、下記とする。
1. 柱は全てC1とする。
2. ▨ は増打ちコンクリートを示す。



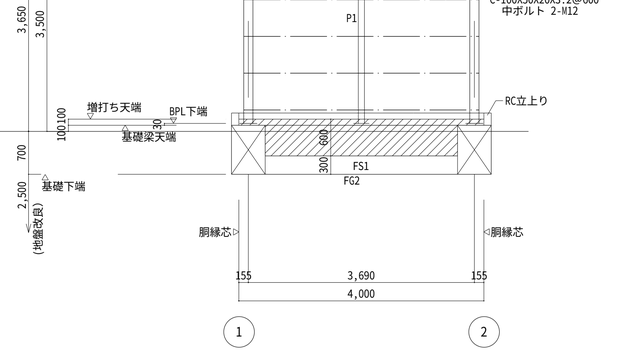
２通り軸組図　1：50(A1) 1:100(A3)

特記なき限り、下記とする。
1. 柱は全てC1とする。
2. ▨ は増打ちコンクリートを示す。



Ａ通り軸組図　1：50(A1) 1:100(A3)

特記なき限り、下記とする。
1. 柱は全てC1とする。
2. ▨ は増打ちコンクリートを示す。



Ｂ通り軸組図　1：50(A1) 1:100(A3)

特記なき限り、下記とする。
1. 柱は全てC1とする。
2. ▨ は増打ちコンクリートを示す。

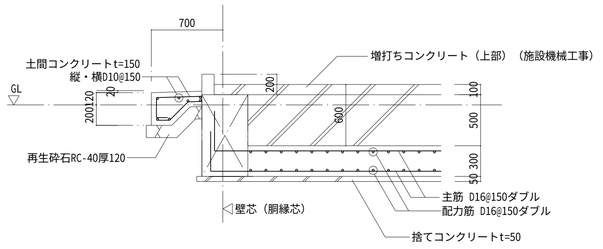
鉄骨部材断面表

共通事項　特記なき限り下記とする。
1. 鋼材はSS400とする。

種　別	符　号	部　材	仕　口	備　考
柱	C1	□-150×150×6		STKR400
大梁	G1	H-250×125×6×9	S-07 参照	
小梁	B1	H-200×100×5.5×8	S-07 参照	
	V	H-150×75×5×7	S-07 参照	
間柱	P1	□-100×100×3.2	GPL-4.5　中ボルト　2-M12	STKR400
横胴縁		C-100×50×20×3.2	GPL-4.5　中ボルト　2-M12	@600

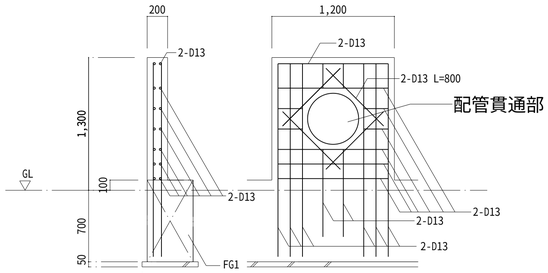
篠平揚水機場 建屋

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	基礎伏図・梁伏図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	S-06
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		

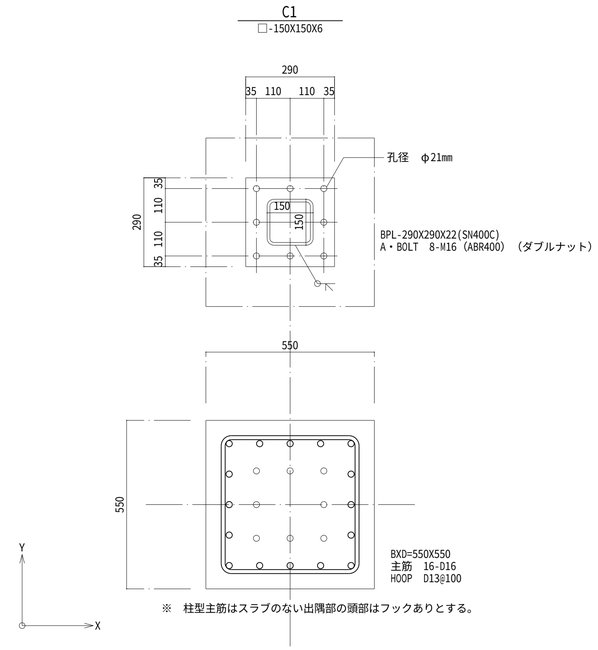


FS1配筋図

S = 1:30



腰壁配筋図

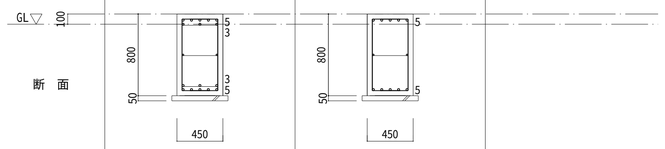


露出柱脚詳細図 S = 1:10

※ 柱型主筋はスラブのない出隅部の頭部はフックありとする。

基礎梁断面表 S = 1:30

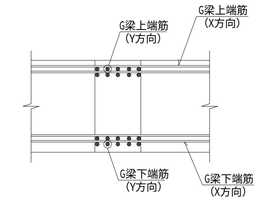
共通事項 特記なき限り 主筋はD16(SD295)，腹筋 D10,幅止め筋はD10@1,000とする。

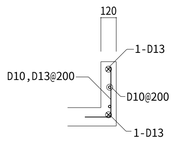
符 号	ＦＧ１	ＦＧ２	
	全断面	全断面	
断 面			
上 端 筋	8 - D16	5 - D16	
下 端 筋	8 - D16	5 - D16	
ST.	□-D13@200	□-D13@200	
腹 筋	2-D10	2-D10	
備 考			

各断面共

捨てコン 50mm

主筋位置図





RC立ち上がり断面図

(1FL)

■告示1456号に対する確認

あんかーあんかー※一号二の確認 柱の最下端の断面積に対するアンカーボルトの全断面積の割合が20%以上であること。								※一号ホの確認 鉄骨柱ベースプレートの厚さをアンカーボルトの径の1.2倍以上としたものであること。	
柱の全断面積(cm2)		アンカーボルト断面積(cm2)							
※全断面積	20%断面積	ABR断面積	総断面積	判定	ABR,一般 ※断面積	総断面積	判定	アンカーボルト 1.3倍	判定
33.63	6.73	1.567	12.54	OK	1.570	12.56	OK	20.8	OK

※一号イの確認 アンカーボルトが、当該柱の中心に対して均等に配置されていること。
※一号ロの確認 アンカーボルトに座金を用い、ナット部分の溶接、ナットの二重使用その他これと同等以上の効力を有する戻り止めを施したものであること。
※一号ハの確認 アンカーボルトの基礎に対する定着長さがアンカーボルトの径の20倍以上であり、かつ、その先端をかぎ状に折曲げるか定着金物を設けたものであること。
ただし、アンカーボルトの付着力を考慮してアンカーボルトの抜け出し及びコンクリートの破壊が生じないと確かめられた場合においてこの限りではない。
※一号への確認 アンカーボルトの孔の径を当該アンカーボルトの径に5mm加えた数値以下の数値とし、かつ縁端距離を規定の数値以上としたもの。

アンカーボルトの径 (mm)	縁端距離(mm)	
	せん断または自動ガスせん断縁	圧延縁、自動ガス切断縁 のこ引き縁、又は機械仕上縁等
12を超え16以下の場合	28	22

篠平揚水機場 建屋

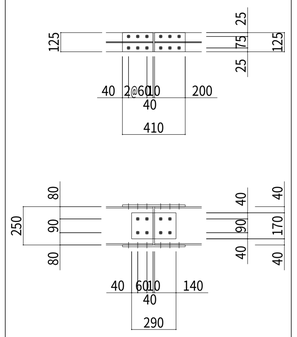
工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	基礎・基礎梁断面表		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	S-07
会社名			
事業者名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

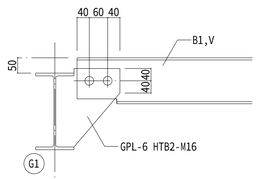
共通事項　特記なき限り下記とする。
1.鋼材はSS400とする。
2. Ⓗ はSM490Bとする。
3.高力ボルトは、全てＨＴＢ(F10T又は、S10T)とする。
　外部露出溶融亜鉛メッキの場合はＨＴＢ(F8T)とする。
4.SPLは母材同材とする。

大梁継手断面表

S=1：20(A1)
S=1：40(A3)

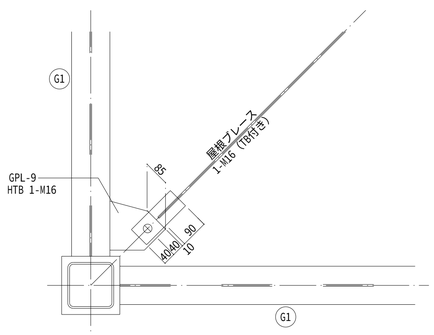
SCSS-H97鉄骨構造標準接合部　H形鋼編

部　材	G1	H -250×125×6×9		
形　状				
フランジ	外側添板	PL-12×125×410	6-M16	
	内側添板	—		
ウェブ		2PL-6×170×290	4-M16	
備考				



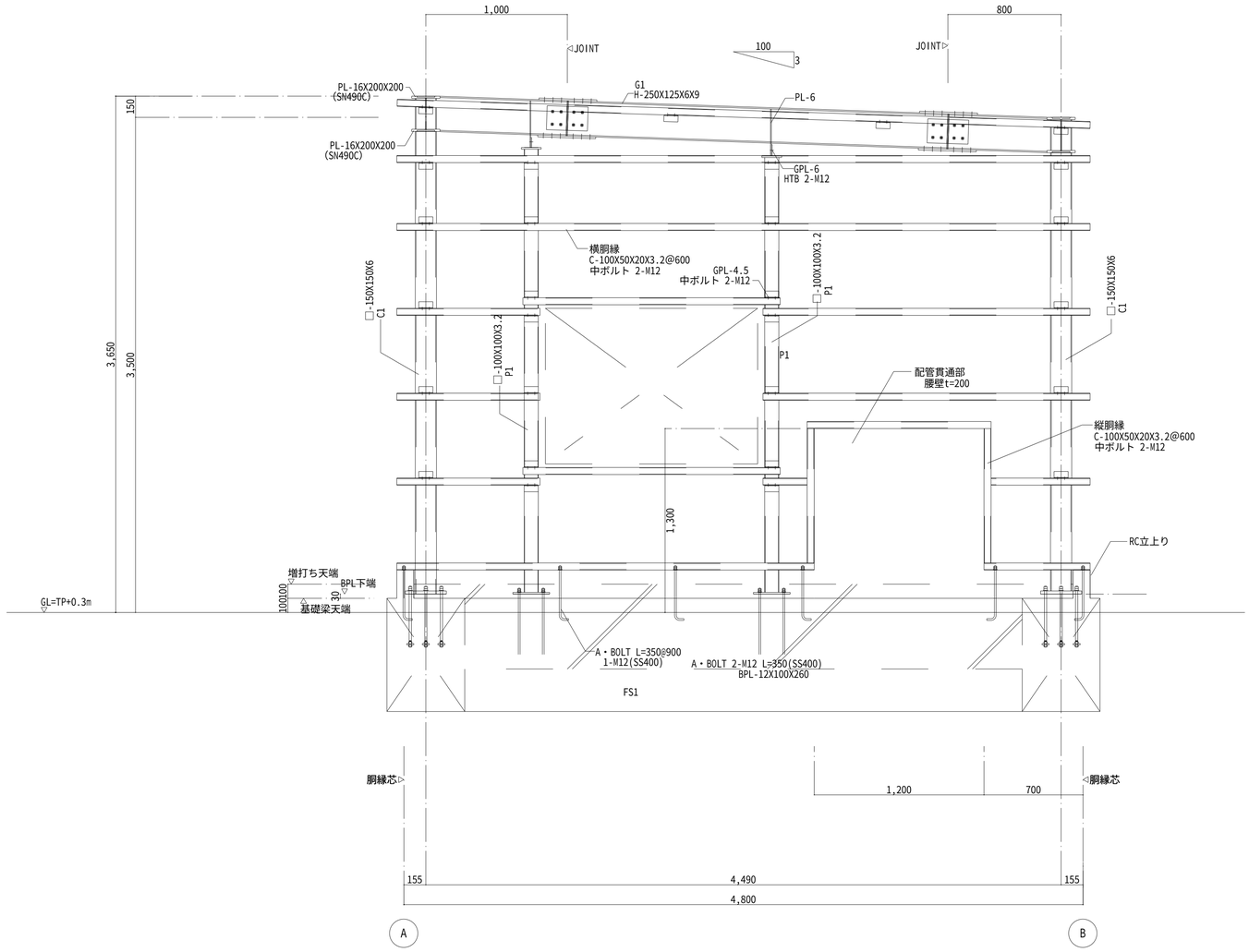
小梁継手リスト

S = 1:10



水平ブレースリスト

S = 1:10



２通り軸組詳細図　　1：20(A1) 1:40(A3)

篠平揚水機場 建屋

工事名	茨城中部農地整備事業 川又小泉団地篠平工区区画整理その１工事		
図面名	鉄骨継手表・軸組詳細図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	S-08
会社名			
事業者名	関東農政局　茨城中部農地整備事業所		